

スポーツ科学部の設置の趣旨等を記載した書類

目 次

ア	設置の趣旨及び必要性	p. 1
1	本学の建学の精神・基本理念、使命・目的、個性・特色等	p. 1
2	スポーツ科学部スポーツ科学科の設置の趣旨及び必要性	p. 5
イ	学部、学科等の特色	p. 10
ウ	学部、学科等の名称及び学位の名称	p. 15
エ	教育課程の編成の考え方及び特色	p. 17
オ	教員組織の編成の考え方及び特色	p. 21
カ	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	p. 25
キ	施設、設備等の整備計画	p. 31
ク	入学者選抜の概要	p. 34
ケ	資格取得を目的とする場合	p. 37
コ	実習の具体的計画	p. 38
ツ	管理運営	p. 41
テ	自己点検・評価	p. 45
ト	情報の公表	p. 46
ナ	授業内容方法の改善を図るための組織的な取組	p. 48
ニ	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	p. 49

ア 設置の趣旨及び必要性

1 本学の建学の精神・基本理念、使命・目的、個性・特色等

(1) 山梨学院大学の「建学の精神」

本学は、創立者古屋眞一・古屋喜代子が終戦直後の荒廃した状況の中で、今後の日本の復興の礎は教育にあると考え、昭和21（1946）年に郷里である山梨の地に山梨実践女子高等学院を創設したことに発する。その際、教育の支柱としたのが「建学の精神」である。

《建学の精神》
本学ハ日本精神ヲ主義トスル
本学ハ祖国ノ指導者養成ヲ旗幟トスル
本学ハ徳ヲ樹ツルコトヲ理想トスル

本学創立に際しての創立者の教育及び郷里への熱い思いは、創立者の作詞した校歌にもよく表れている。この校歌は、今日までさまざまな行事など機会あるごとに唱和され、広く教職員・学生に親しまれている。しかしながら、建学の精神の定められた時期が終戦直後ということもあり、次第に教職員の理解も一様ではなくなるとともに、学生にも理解しにくいものとなりつつあった。

そこで、現代にふさわしい「建学の精神」の解釈を確認する作業を全学的に行い、平成18（2006）年1月の合同教授会において審議・決定した。

本学では、この建学の精神の現代的解釈を本学の教育理念として位置付けている。

《教育理念》
本学は、日本文化への深い理解と広い国際的視野をもって社会に貢献する人間の育成を目指し、豊かな教養と創造力を備えた人格の形成を図る。

なお、建学の精神の現代的解釈は、随時、その時代に応じた見直しを行うこととしている。

(2) 本学が目指す大学像

本学では、「建学の精神」の現代的解釈を本学の教育理念として位置付けているが、この理念に基づき、より具体的な教育目標・実践の指針を「本学が目指す大学像」という形で定め、教育理念の具体化、明確化を推進している。

《本学が目指す大学像》

【教育目標】

- ① 自律と寛容の精神を備えた、個性豊かな人間の育成
- ② 広い教養と深い専門の知識をもち、実践力のある逞しい人間の育成
- ③ 自己実現を目指しつつ、地域社会・国家及び国際社会に貢献できる人間の育成

【本学の指針】

- ① 学生の個性を尊重する。
- ② 独創的な教育・研究・運営に努める。
- ③ チャレンジする意欲を積極的に支援する。
- ④ 地域と連携し、地域に貢献する。

教育理念（建学の精神）の大学及び大学院への展開については、「山梨学院大学学則」第1条及び第2条、並びに「山梨学院大学大学院学則」第1条にそれぞれの設置の目的・使命を定めている。また、各学部・学科及び各研究科ごとの教育目的については、それぞれ「山梨学院大学学則」第2条、及び「山梨学院大学大学院学則」第3条に定めている。

(3) 建学の精神の展開過程

昭和37（1962）年1月、多年の宿願であった短期大学法経科の学部への昇格（改組）が認可され、昭和37（1962）年4月、大学法学部法学科が開設された。この法学部は、山梨県内唯一の私立大学法学部として誕生し、県民の希望と期待に応じて年ごとにその発展をみた。その使命は、法学を学び、正義と衡平の観念を基礎とした識見ある社会人を養成し、発展する地域社会の要望に応えるとともに、わが国の文化向上に寄与することであった。昭和38（1963）年度には同学部に教職課程を開設し、更なる充実が図られた。昭和40（1965）年1月には商学部商学科の設置が認可され（昭和40（1965）年度開設）、現在の基盤が築かれた。その使命は、商学を学んで商業倫理を体得した人材を育成し、発展する地域社会の要望に応えるとともに、わが国の文化向上に寄与することであった。なお、同学科は、平成19（2007）年度より、現代ビジネス学部現代ビジネス学科と名称を改めた。

商学部には、昭和61（1986）年12月に経営情報学科の設置が認可された（昭和62（1987）年度開設）。情報が人・物・金に次ぐ第4の経営資源として、企業活動に不可欠であるとの社会的要請に応える学科として開設されたものである。その後、情報分野の急速な進展に伴い、同学科は平成6（1994）年度には、学部として独立した。

平成2（1990）年12月には、私立大学の法学部としては初めての行政学科の設置が認可され（平成3（1991）年度開設）、平成2（1990）年4月に学科の開設に先立って開設された行政研究センターとともに、地域行政を支える人材の育成を目指してきた。同学科は、平成14（2002）年度に、政治行政学科と名称を改めている。また、行政研究センターは、平成19（2007）年7月、ローカル・ガバナンス研究センターに発展的に改組された。

平成7（1995）年度には、社会人を中心とした大学院公共政策研究科修士課程を開設し、県や市町村職員をはじめ一般社会人が、自治体等の政策形成や公共政策について学ぶ場となることを目指した。平成13（2001）年度、同研究科を社会科学研究科に名称変更し、さらに拡がりを見せる公共政策分野を視野に入れて、地域の政治・行政・経済・経営・教育の場で活躍する人材の育成を目指している。また、平成16（2004）年度には、大学院法務研究科法務専攻専門職学位課程（法科大学院）を開設し、地域に根ざした地域に貢献できる法曹の養成に努めている。

平成22（2010）年度には、地域からの要請に応え社会の安全や発展の基盤となる人々の心身の健康を確保し、食に関わる様々な産業の活性化を推進する有為な人間を育成していくことを目指して、管理栄養士養成課程としては山梨県下で唯一となる健康栄養学部管理栄養学科を新たに開設した。さらに、平成27（2015）年4月には、地域及び日本社会のグローバル化への対応に応えるべく、国際リベラルアーツ学部を開設する予定となっている。

(4) 山梨学院大学の個性・特色

本学では、予てから、全教職員の共通理解のもと、「個性派私学の旗手」というスローガンを掲げ大学運営に取り組み、今日では「個性派私学の雄」を目指している。「個性派私学」の「個性」とは、大学における創意を生かし、創造性を高めることである。大学の創造性とは、大学が主体的に改革に取り組むことであり、存在感のある学園づくりを実現させることである。そのため、本学では次のような個性化への取り組みを行っている。

第1は、学生の大学に対する満足度の向上である。これは教育の本質に連なることであり、時代を越えて変わらない普遍的な価値の追求である。そのためには、常に学生・教職員間の豊かな人間関係の醸成に努め、心の触れ合うサービスの徹底を図ることを重視している。本学では、商学部経営情報学科（現在の経営情報学部経営情報学科）を増設することを契機として、昭和62（1987）年度より全学に教

養演習（現在、既設の学部・学科に開設する「基礎演習」）を活用した初年次教育を導入し、爾来、その実践を重視する教育に取り組んできた。この初年次教育は、ギリシャ・ローマ時代に理想的な源流を持ち、中世以降のヨーロッパの大学制度において近代まで「人が持つ必要がある技芸（実践的な知識・学問）の基本」と見なされた「自由七科（Seven Liberal Arts）」を、その理念としての拠りどころとして位置付けている。こうした取り組みに加え、就職指導においてもきめ細かな指導を心がけ、学生からも高い評価を受けている。公務員志望の多くの学生の夢を叶えることができたことは、その成果の一例である。

第2は、地域に開かれたキャンパスづくりと地域文化創造の積極的な推進である。「地方分権化の時代」「生涯学習の時代」ともいわれる今日、地方に立地する大学の果たす役割は極めて大きい。本学では、平成5（1993）年より生涯学習センターを設置して生涯学習の推進を図ってきた。また、地域に密着した情報を提供するコミュニティエフエム局「エフエム甲府」が大学キャンパス内に開設されており、大学との協力のもと、地域振興・文化創造のために貢献している。

平成19（2007）年には、ローカル・ガバナンス研究センターを設立（それまでの行政研究センターを改組）し、地域課題・地域経営についての研鑽の場を提供している。また、平成24（2012）年12月には経営学研究センターを開設し、今後の地元・地域の経済活性化への一助となることが期待されている。

第3は、カレッジスポーツの振興である。本学では、創立40周年（昭和61（1986）年）を契機として、カレッジスポーツの振興を運営方針のひとつとして掲げ、鋭意その振興を図ってきた。以来、箱根駅伝で全国に名を馳せた陸上競技部をはじめ、スケート部、レスリング部、柔道部、水泳部等、オリンピックや国際競技大会に多くの選手・役員を派遣するなどの活躍をみせている。この取り組みの目的は、カレッジスポーツの振興を通じて「学生のたくましい人間としての基礎力」を育成することであり、かつ、カレッジスポーツで活躍する学生（カレッジ・アスリート）の活躍を学園全体や地域に還元することによる「学園の活性化」「地域社会の活性化」である。こうした本学の取り組みが認められ、公益財団法人日本オリンピック委員会が平成16（2004）年に制定したJOCスポーツ賞「トップアスリートサポート賞」の初代優秀団体賞を受賞した。また、平成22（2010）年度には文部科学省が新設した「スポーツ功労団体表彰」を受賞し、平成25（2013）年度にも二度目の受賞をするに至っている。

（5）本学の沿革

昭和21（1946）年 6月	山梨実践女子高等学院設立
昭和23（1948）年12月	財団法人山梨学院認可
昭和26（1951）年 2月	学校法人山梨学院組織変更認可
昭和28（1953）年 1月	山梨学院短期大学法経科設置認可（昭和28（1953）年度開設）
昭和37（1962）年 1月	山梨学院大学法学部法学科設置認可（昭和37（1962）年度開設）
昭和40（1965）年 1月	山梨学院大学商学部商学科設置認可（昭和40（1965）年度開設）
昭和61（1986）年12月	山梨学院大学商学部経営情報学科設置認可（昭和62（1987）年度開設）
平成 2（1990）年12月	山梨学院大学法学部行政学科設置認可（平成3（1991）年度開設）
平成 5（1993）年12月	山梨学院大学経営情報学部経営情報学科設置認可（商学部経営情報学科を改組転換） （平成6（1994）年度開設）
平成 7（1995）年 3月	山梨学院大学大学院公共政策研究科公共政策専攻修士課程設置認可 （平成7（1995）年度開設）
平成12（2000）年10月	山梨学院大学大学院社会科学部研究科名称変更届出受理（公共政策研究科を名称変更） （平成13（2001）年度開設）
平成13（2001）年 1月	山梨学院大学法学部政治行政学科名称変更届出受理（法学部行政学科を名称変更） （平成14（2002）年度開設）
平成15（2003）年11月	山梨学院大学大学院法務研究科法務専攻専門職学位課程（法科大学院）設置認可 （平成16（2004）年度開設）
平成18（2006）年 4月	山梨学院大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科名称変更届出受理（商学部商学科を 名称変更）（平成19（2007）年度開設）
平成21（2009）年10月	山梨学院大学健康栄養学部管理栄養学科設置認可（平成22（2010）年度開設）
平成26（2014）年10月	山梨学院大学国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科設置認可 （平成27（2015）年度開設）

(6) 本学の現状 (平成26 (2014) 年5月1日現在)

- ・ 大 学 名 山梨学院大学
- ・ 所 在 地 山梨県甲府市酒折二丁目4番5号
- ・ 学部等の構成

学 部	法 学 部	法 学 科
		政 治 行 政 学 科
	現 代 ビジネス学 部	現 代 ビジネス学 科
	経 営 情 報 学 部	経 営 情 報 学 科
	健 康 栄 養 学 部	管 理 栄 養 学 科

 大学院研究科・専攻 (課程)

社 会 学 科 研 究 科	公 共 政 策 専 攻 (修 士 課 程)
法 務 研 究 科	法 務 専 攻
	(専 門 職 学 位 課 程 ; 法 科 大 学 院)
- ・ 学生数、教員数、職員数

【大学学部】 (平成26 (2014) 年5月1日現在)

学 部	学 科	学 生 数				教 員 数		
		入 学 定 員	編 入 学 定 員	収 容 定 員	在 籍 学 生 数	専 任	兼 任	計
法 学 部	法 学 科	250	—	1,000	1,031	20	24	44
	政 治 行 政 学 科	170	—	680	716	20	12	32
現 代 ビジネス学 部	現 代 ビジネス学 科	200	—	800	802	22	23	45
経 営 情 報 学 部	経 営 情 報 学 科	200	—	800	751	24	26	50
健 康 栄 養 学 部	管 理 栄 養 学 科	40	10	180	185	11	11	22
合 計		860	10	3,460	3,485	97	96	193

(注1) 健康栄養学部管理栄養学科には、上記に掲げるほか、助手5人を配置。

(注2) 上記に掲げるほか、平成27 (2015) 年4月より、国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科 (入学定員80人) を開設。なお、当該学部の開設に伴い、平成27 (2015) 年4月より、法学部法学科の入学定員を220人 (△30人)、経営情報学部経営情報学科の入学定員を150人 (△50人) に変更する。

【大学院】 (平成26 (2014) 年5月1日現在)

研 究 科	専 攻	学 生 数			教 員 数		
		入 学 定 員	収 容 定 員	在 籍 学 生 数	専 任	兼 任	計
社 会 学 科 研 究 科	公 共 政 策 専 攻 (修 士 課 程)	20	40	45	12 (注3)	3	15
法 務 研 究 科	法 務 専 攻 (専 門 職 学 位 課 程 : 法 科 大 学 院)	20 (注1)	85 (注2)	31	14 (注4)	18	32
合 計		40	125	76	26	21	47

(注1) 法務研究科は、平成25 (2013) 年度より入学定員を変更。(△5人: 35人→30人)

(注2) 法務研究科は、平成26 (2014) 年度より入学定員を変更。(△10人: 30人→20人)

(注3) 学部所属する専任教員のうち、社会科学研究科の専任教員を兼ねる者 (12名) を含め、大学院設置基準に基づき記入 (社会科学研究科のみ発令の専任教員1名)。

(注4) 法務研究科には、平成15年文部科学省告示第53号第2条第2項・第3項適用教員 (見做し専任教員3名) を含む。

(注5) 上記に掲げるほか、法務研究科は、平成27 (2015) 年度より入学定員を変更。(△5人: 20人→15人)

2 スポーツ科学部スポーツ科学科の設置の趣旨及び必要性

(1) 山梨学院大学における競技スポーツの位置づけと実績

前述したように、本学では、昭和 52 (1977) 年に、「学生にたくましい人間としての基礎力を育み、学園に意欲と活力を与え、地域にさわやかな元気を送る」という理念を推進する拠点として、山梨学院スポーツセンターを設立し、強化育成クラブ制度を発足した。

強化育成クラブは、当初はレスリング部とスケート部の2つの課外活動団体からスタートしたが、その後、徐々に増加し、平成 26 (2014) 年度には 13 競技・20 チームが強化育成クラブに指定されるまで拡大発展している。また、山梨学院スポーツセンターは、強化育成クラブ数の増加を踏まえて、平成 18 (2006) 年度より山梨学院カレッジスポーツセンターに発展的に改称し今日に至っている。この間、平成 8 (1996) 年には、カレッジスポーツ振興の拠点としての「山梨学院カレッジスポーツセンター (第 54 号館)」を竣工している。

一方、強化育成クラブに対しては、発足当初からの全学的なサポート体制の基に、クラブ運営などの経済面、練習場や合宿所などの施設・設備面、リハビリテーションやコンディショニングなどの医療面に加えて、学修活動や就職支援などの教育・生活面など、学生が競技に専念できるサポート体制を整えてきた。このようなサポート体制を背景にして、活動の成果は徐々に顕れており、今日まで国内の主要大会で活躍するクラブや選手、オリンピック等の国際大会で活躍する選手を数多く輩出し、これらの成果により、山梨学院大学として以下に示す2つの大賞を延べ3回受賞した。

- ・ 2004 年度 JOC スポーツ賞 トップアスリートサポート賞 優秀団体賞
本賞は 2004 年度に創設されたものであり、本授賞はその第 1 回目にあたる。
- ・ 2010 年度文部科学省スポーツ功労団体表彰
- ・ 2013 年度文部科学省スポーツ功労団体表彰
本賞は、2010 年度に、これまでの「スポーツ功労者顕彰」「国際競技大会優秀者等表彰」に加えて新設されたものである。

(注) JOC : 公益財団法人日本オリンピック委員会

強化育成クラブの設立年とおもな活動の成果は、以下のとおりである。

ク ラ ブ 名	設立年	オリンピック大会等の日本代表選手	大学選手権等での優勝		備 考
			団体 (回数)	個人 (人)	
レスリング部 (男子)	1977	52 (23)	5	93	
スケート部 (男子)	1977	86 (29)	17	38	
ラグビー部 (男子)	1978	4			
陸上競技部 (男子)	1985	27 (10)		23	箱根駅伝優勝 3 回
スケート部 (女子)	1987	36 (5)	18	40 *	*40 人以上
ホッケー部 (女子)	1994	10 (10)	8		
水泳部 (女子)	1999	33 (13)	2	38	鈴木聡美 : (オ) 銀 1、銅 2
柔道部 (男子)	2000				
柔道部 (女子)	2000	18 (4)	5	10	浅見八瑠奈 : (世) 優勝 1
ホッケー部 (男子)	2001	17	4		
水泳部 (男子)	2001				
硬式野球部 (男子)	2003				
テニス部 (女子)	2006				
バスケットボール部 (女子)	2008	1			関東学生トーナメント優勝 1
ソフトボール部 (女子)	2008	8			関東学生リーグ 1 部優勝 6
サッカー部 (男子)	2009				
バスケットボール部 (男子)	2014				
サッカー部 (女子)	2014				
空手道部 (男子)	2014	16 (8)			片田貴士 : (世) 優勝 1
空手道部 (女子)	2014		1	3	

(注 1) オリンピック大会等 : オリンピック (オ)、世界選手権 (世)、ワールドカップ、世界学生、ユニバーシアード、世界ジュニア、アジア、アジアユース等の大会を示す。
数値は日本代表選手の延べ人数を、() はオリンピックと世界選手権代表選手の延べ人数を示す (卒業生も含む)。

(注 2) 大学選手権等 : 日本における学生レベルの大会を示す。

また、本学の卒業生を含むオリンピック日本代表選手は、以下のとおりである（延べ41人）。

夏季オリンピック	冬季オリンピック
<p>1992年 バルセロナ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大橋 正教（レスリング グレコローマン 48kg 級 9位） ・野々村 孝（レスリング グレコローマン 100kg 級） <p>1996年 アトランタ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野々村 孝（レスリング グレコローマン 100kg 級 9位） ・三森 由佳（競歩 10km） <p>2000年 シドニー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柳沢 哲（競歩 20km） ・萩原 智子（競泳 200m個人メドレー 8位、200m背泳ぎ 4位） <p>2004年 アテネ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長田友喜子（競泳 200mバタフライ） ・千葉 香織（ホッケー 8位） ・宮崎 奈美（ホッケー 8位） ・小幡 邦彦（レスリング フリー 74kg 級） <p>2008年 北京</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大崎 悟史（マラソン） ・尾方 剛（マラソン 13位） ・加藤 ゆか（競泳 100mバタフライ、400mメドレーリレー 6位） ・千葉 香織（ホッケー 10位） ・吉川 由華（ホッケー 10位） <p>2012年 ロンドン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤沢 勇（競歩 20 km 18位） ・加藤 和（競泳 200m個人メドレー） ・鈴木 聡美（競泳 100m平泳ぎ銅メダル、200m平泳ぎ銀メダル、400mメドレーリレー銅メダル） ・浅野 祥代（ホッケー 9位） ・佐藤 雅子（ホッケー 9位） ・田中 泉樹（ホッケー 9位） ・千葉 香織（ホッケー 9位） ・三橋 亜記（ホッケー 9位） ・村上 藍（ホッケー 9位） <p>延べ24人</p>	<p>1994年 リレハンメル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今井 英人（ショートトラック） <p>1998年 長野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今井 裕介（スピードスケート 1000m、1500m） ・篠原 祐剛（ショートトラック 5000mリレー 5位） ・小沢 幸（ショートトラック 1000m 10位、3000mリレー 4位） <p>2002年 ソルトレイク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今井 裕介（スピードスケート 1000m、1500m） ・篠原 祐剛（ショートトラック 5000mリレー 5位） ・逸見 佳代（エアリアル） <p>2006年 トリノ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今井 裕介（スピードスケート 1000m、1500m） ・及川 祐（スピードスケート 500m 4位） ・有野 美治（ショートトラック 5000mリレー） ・藤本 貴大（ショートトラック 5000mリレー） ・逸見 佳代（エアリアル） <p>2010年 バンクーバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・及川 祐（スピードスケート 500m） ・名取 英理（スピードスケート 3000m、5000m 9位） ・藤本 貴大（ショートトラック 500m、1000m、1500m） ・吉澤 純平（ショートトラック 500m、1500m） <p>2014年 ソチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・及川 祐（スピードスケート 500m） <p>延べ17人</p>

(2) 山梨学院大学におけるスポーツクラブ活動・教育の問題点

強化育成クラブ制度は、今日まで所期の目的に沿って鋭意継続されているが、将来を見据えると次のような問題点を抱えている。

- a. 競技力向上にかかわる科学的サポート体制が十分に整っていない。
- b. スポーツ活動をとおして「社会に貢献する人間を育成する」教育体制が十分に整っていない。

「a」については、競技力に直接かかわる心技体をスポーツ生理学、スポーツバイオメカニクス、スポーツ心理学、スポーツ栄養学、スポーツ医学などの分野からのサポートが挙げられる。また、組織運営や情報戦略などにかかわるスポーツマネジメントの分野からのサポートも挙げられる。このような科学的サポート体制については、わが国でも国際競技力向上を目標として、「スポーツ振興法」（昭和36（1961）年6月16日付、法律第141号）に基づく「スポーツ振興基本計画」（平成12（2000）年9月13日付、文部省告示第151号）により「ナショナルトレーニングセンター（National Training Center：NTC）」や「国立スポーツ科学センター（Japan Institute of Sports Sciences：JISS）などを設置し効果を挙げているが、これを利活用できる競技者は日本代表レベルにある者に限られている。高度のスポーツ実践をとおして知恵のある競技者、指導者を育成していくためには、誰もがいつでもどこでも日常的に科学的サポートを利活用できるように整備しておくことが重要である。とくに活動レベルや競技レベルが高い大学スポーツでは必須のことである。

「b」については、長年にわたるスポーツ実践の成果を社会に貢献できる体制づくりが挙げられる。スポーツ系学部をもたない本学では、平成24（2012）年度より、本学が開設する学部・学科の中心的な分野が社会科学系であることに鑑み、これら社会科学系の学部・学科の専門教育科目を学部横断的に活用し、一定のテーマに基づく目的別学修を提供する「学部横断型副専攻（Cross Major Program：CMP）」制度（本学が一定の学修証明を行うことを前提とした仕組み）をカリキュラムに取り入れた。その教育プログラムの一つとして「スポーツアドミニストレーションプログラム」を開設し、主に経営情報学部の経営学や情報処理の専門領域からのアプローチによるスポーツマネジメント関連の専門教育科目を活用しながら、スポーツマネジメントの分野に対して多様な興味関心のある学生の要望に答えている。このプログラムの各年度の受講者は約100人であるが、プログラムの最初の利用者が卒業する平成27（2015）年度末には、公益財団法人日本体育協会の公認スポーツ指導者の資格を取得し、競技スポーツや地域スポーツの推進に貢献しようとしている。

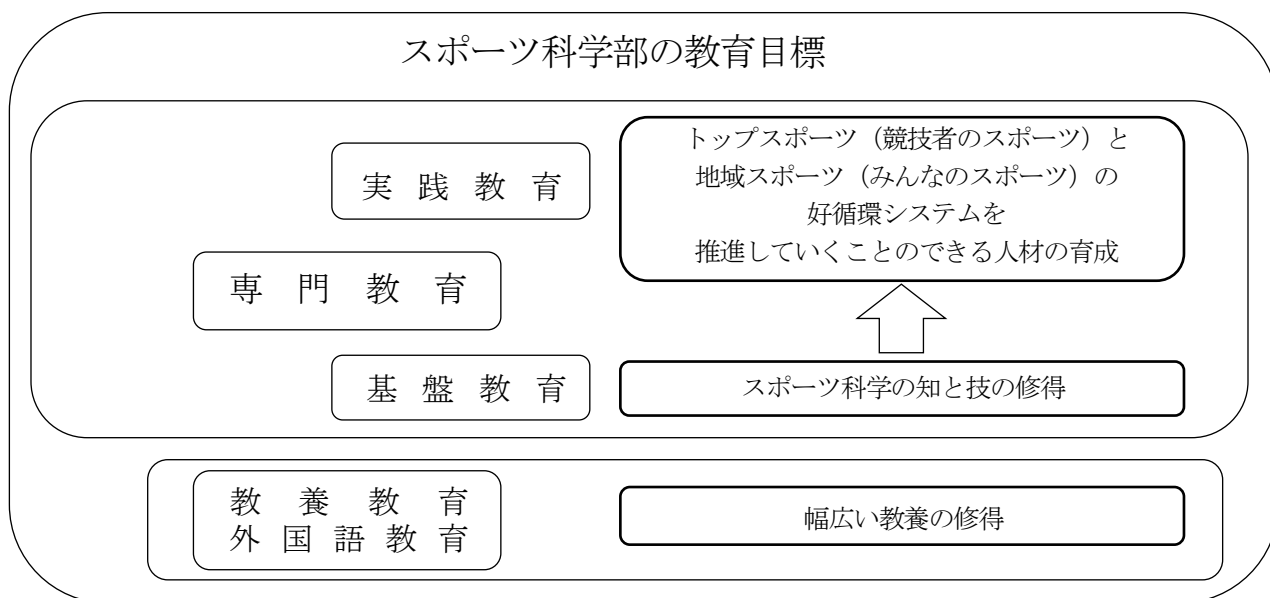
この取り組みは、教育目標の一つに「カレッジスポーツの振興」を掲げる大学の社会に対する大きな使命の一つであるが、それに加えてスポーツ科学の専門教育を受け、より専門的な立場から社会に貢献する人材を積極的に養成することもまた大学の大きな使命の一つである。このような大学の使命に対して、これまで長年にわたってスポーツに真摯に取り組んできた本学には、スポーツ系学部を設置しそれを果たす資格と責務があると思料している。

(3) 新設するスポーツ科学部の教育目標

平成23（2011）年6月23日に「スポーツ基本法」（平成23年法律第78号）が制定され、平成24（2012）年3月には同法第9条に基づき「スポーツ基本計画」（文部科学大臣）が策定された。これによりわが国は、「スポーツ立国」を掲げ、「スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」の実現を目指す新たな時代に突入した。「スポーツ基本計画」では、この実現に向けて7つの政策課題を設け、それぞれについて政策目標を設定している。このうち、第7課題の「スポーツ界における好循環の創出」では、政策目標として「トップスポーツと地域スポーツとの連携・協働の推進」

が掲げられており、優れたスポーツ選手の育成（競技水準の向上）とスポーツ選手による地域スポーツの推進の寄与をとおして、「育成されたアスリートが地域の指導者となる好循環のシステムの確立」を目指している。こうしたわが国の指針に対する取組みは、県や市町村単位でさらに具体化されて進められている。本学の所在地である山梨県においても「山梨県スポーツ振興実施計画」（平成 21（2009）年 3 月策定）に基づき、平成 26（2014）年 2 月に「やまなしスポーツ推進プログラムー健康で豊かな生活を営むことができる「やまなしスポーツ」の創出ー」を策定し、「スポーツ界における好循環の創出」を 3 つの基本方策の一つとして位置づけている。

前述の「スポーツ基本計画」では、このような「好循環システム」の確立に対する大学等の教育研究機関の役割として研究成果や人材の提供を挙げているが、これからのわが国のスポーツ系の学部学科においては、「好循環システム」を積極的に推進していくことのできる人材の育成がより強く求められていると言ってよいであろう。本学では、上記のことを踏まえて、これまでの体育・スポーツ科学の研究成果にもとづく「スポーツ科学の知と技の修得」をねらいとした基盤教育と、「トップスポーツ（競技者のスポーツ）と地域スポーツ（みんなのスポーツ）との「好循環システム」を推進していくことのできる人材の育成」をねらいとした実践教育のふたつを専門教育における教育目標の支柱とするスポーツ科学部の設置を企図した（下図参照）。なお、これらの目標を達成するために、「幅広い教養の修得」をねらいとする教養教育や外国語教育を重視することは、これまでの大学教育における教育課程編成の考え方のとおりである。



一方、日本学術会議は、これからの大学教育においては、専門教育や一般教育に加えて、自己を形成する場として課外活動が正課の授業と同じように重要であることを指摘している（「提言 21 世紀の教養と教養教育」平成 22（2010）年 4 月）。このことも踏まえて本学部では、競技力や実技能力（運動能力）、指導能力、科学的なサポート能力、マネジメント能力などの向上が期待できるスポーツ関連のクラブ活動、サークル活動、ボランティア活動などの課外活動を、スポーツ科学部の教育目標の達成に資する正課の授業の補完的活動として重視することとした。この理由として、課外活動への参加者は、前述の「トップスポーツ（競技者のスポーツ）」の経験者・実践者であり、将来において「地域スポーツ（みんなのスポーツ）」を推進していく人材として多大に貢献できる可能性のあることが挙げられる。なおここでは、「競技スポーツ」を国や大学を代表する人たちのスポーツとしてのみでなく、競技水準に関係な

く競技力の向上をねらいとして行うスポーツとして、「生涯スポーツ」を生きがいづくりや健康体力づくりをねらいとしたスポーツとして位置づけることとする。本学部では、「競技スポーツ」と「生涯スポーツ」にかかわる人材の養成をねらいとするコースを教育課程に設けているが（「イ 学部・学科の特色」で詳述する。）、これは実践教育の目標として掲げた「トップスポーツ（競技者のスポーツ）と地域スポーツ（みんなのスポーツ）との「好循環システム」を推進していくことのできる人材の育成」を具現化していくためのものである。

イ 学部、学科の特色

(1) 学部、学科の名称及び教育内容

このたび、新設しようとする学部、学科の名称を「スポーツ科学部」「スポーツ科学科」とした理由は、前述したように、教育目標として「スポーツ基本法」「スポーツ基本計画」に示された「スポーツ界の好循環システム」に貢献する人材の育成を掲げ、地域における競技スポーツと生涯スポーツの推進者の育成に焦点をしばったことに依る。また、スポーツ系学部の名称が体育学部からスポーツ健康科学部、スポーツ科学部（スポーツ学部）へ変遷しつつあること、スポーツ科学部の名称のもとで生涯スポーツのような健康にかかわる教育研究を取り扱うことができることもその理由の一つである。

開設学科をスポーツ科学科の1学科のみとした理由は、「スポーツ科学部スポーツ科学科の設置の趣旨及び必要性」に述べた教育の方向に焦点をしばったためである。この1学科の中に、競技スポーツコースと生涯スポーツコースの2つのコースを設ける。両コースともに、授業や課外のスポーツ活動の成果を活かして、「スポーツ界の好循環システム」に貢献する人材の育成を目指す。

各コースの目標は、以下のとおりである。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">a. 競技スポーツコース：ジュニアからシニアまでの競技者（障がい者を有する競技者を含む）の競技力の向上に貢献できる競技スポーツの推進者の育成を目指す。b. 生涯スポーツコース：子どもから高齢者までの健常者、障がい者、有病者のQOL（Quality of Life、生活の質）や健康体力の向上に貢献できる生涯スポーツの推進者の育成を目指す。 |
|--|

なお、スポーツ科学部の新設後も、本学が推進する課外活動を中心としたカレッジスポーツの振興のために、前述のカレッジスポーツセンターと強化育成クラブ制度はそのまま存続させる。加えて、様々なスポーツに親しんでいる学生、様々な目的を持ってスポーツに取り組んでいる学生の要望に応えるとともに、スポーツ系の学部にとって様々な教育的意味を有する課外活動に参加しない学生をできる限り少なくするために、スポーツ関連の課外活動（クラブ活動、サークル活動、ボランティア活動）を、授業などの場をとおして奨励する。また大学は、カレッジスポーツセンターなどの学内組織をとおして、学生が課外活動を十分に実践できる人的・物的体制の整備に努める。

(2) スポーツ科学部において養成しようとする人材

スポーツ科学部スポーツ科学科の教育上の目的に基づき、卒業時に授与する学位「学士（スポーツ科学）」との関係性を踏まえて作成したアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーは、以下のとおりである。

【スポーツ科学部のアドミッション・ポリシー】

スポーツ科学部において受け入れたい学生は、「大学生活をとおして幅広い教養と豊かな人間性を身に付けたいと願っている人」「スポーツを行うこと、見ること、支えること、教えることなどに興味・関心がある人」を前提として、以下に示す課題を達成したいと願っている者である。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① 授業やスポーツクラブの活動をとおして競技力や実技能力をさらに高めたいと願っている人② 授業やスポーツクラブの活動をとおしてスポーツ科学の‘知と技’（指導能力、研究能力、科学的サポート能力、マネジメント能力など）を実践的に身に付けたいと願っている人③ 大学生活で得た学修成果を、国内外のさまざまなスポーツ関連分野において活かしたいと願っている人 |
|---|

【スポーツ科学部のカリキュラム・ポリシー】

スポーツ科学部の教育課程作成において配慮したことは、以下のとおりである。

履修科目に関連して

- ① 一般教養科目を幅広く履修できること [総合基礎教育科目、など]
- ② 専門教育科目を幅広く履修できること [専門教育科目「共通科目」、など]
- ③ スポーツ実技科目を幅広く履修できること [専門教育科目「共通科目」、など]
- ④ 各人の興味・関心や将来設計に応じて、より発展的な専門科目を総合的に履修できること [専門教育科目「コース科目」]
- ⑤ ④を踏まえて、卒業後の進路と大きく関連する専門科目を重点的に履修できること [専門教育科目「キャリア形成科目」]
- ⑥ 開設科目をできる限り精選し、意味のある科目を効率よく履修できること。

卒業要件に関連して

- ⑦ 各人の興味・関心や将来設計に応じて、個性を活かした履修計画を立てることができること

授業の進め方に関連して

- ⑧ 学習意欲を喚起するために、できる限り少人数による授業、双方向性の授業、演習的な授業を履修できること
- ⑨ 学問知と実践知・経験知を融合し、実践に有用な授業を履修できること
- ⑩ 地域社会、企業等と連携を図り、実践に有用な授業を履修できること
- ⑪ 学年進行に合わせて（レディネスに合わせて）授業を履修できること

全体に関連して

- ⑫ 上記の事項をとおして、スポーツに関わる専門的能力とともに、社会人基礎力（前に踏み出す力（アクション）、考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（チームワーク）：経済産業省）を身に付けることができるようにすること

【スポーツ科学部のディプロマ・ポリシー】

スポーツ科学部において学位を授与したい学生は、「大学生生活全体をとおして、社会人基礎力や大学卒業生に相応しい幅広い教養と豊かな人間性を身に付けている」ことを前提として、以下に示す知識や技能を身に付け、社会で活躍が期待できる者とする。

- ① 実技実習の授業やスポーツクラブ活動等をとおして、高いスポーツ競技力や実技能力を身に付けている人
- ② 専門教育科目の「共通科目」の履修をとおして、スポーツ実践に関わる幅広い基礎的な知識や技能を身に付けている人
- ③ 専門教育科目の「コース科目」の履修をとおして、競技スポーツや生涯スポーツの実践に有用な専門的な知識や技能を身に付けている人
- ④ 専門教育科目の「キャリア形成科目」の履修をとおして、卒業後の進路と結びつくより専門的な知識や技能を身に付けている人
- ⑤ 学部教育全体をとおして、スポーツや体育、健康に関わる今日的課題の解決方法を身に付けている人

（上記の②③④については、「エ 教育課程の編成の考え方及び特色」において詳述する。）

スポーツ科学部において養成しようとする人材については、ディプロマ・ポリシーに集約されている。養成したい具体的な人材については、学生の興味・関心、卒業後の将来設計などを考慮して、以下に示すような様々な場を考えている。

【養成したい具体的な人材】

- ① 地域における競技スポーツや生涯スポーツの場で、a. 指導者、b. 科学的サポートスタッフ、c. マネジメントスタッフとして活躍できる人
- ② 学校体育・スポーツの場で、指導者として活躍できる人
- ③ 地方自治体等のスポーツ行政の場で、公務員として活躍できる人
- ④ スポーツ関連企業の中で、企業人として活躍できる人
- ⑤ 競技スポーツや生涯スポーツにかかわる国際的活動の場で活躍できる人
- ⑥ その他
 - a. 国内外の競技スポーツの場で、プロスポーツ競技者として活躍できる人
 - b. 国内外の大学院等へ進学し、高度の専門知識・技能を身に付けたいと考えている人
 - c. 消防士、警察官、自衛官などの身体能力が要求される職種で活躍できる人

上記⑥の「a」については課外でのスポーツクラブ活動に大きく依存しながら養成していくものであり、「b」と「c」については、本学部では直接目標とするのではなく、①～⑤の人材を養成していくなかで派生するものであると考えている。

なお、「養成したい具体的な人材」と教育課程との関連性を図るために、競技スポーツコースと生涯スポーツコースに分けて履修モデルを提示することとした。（「カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件」において詳述する。）

(3) スポーツ科学部における教育体制

前述した「スポーツ科学部において養成しようとする人材」を教育の場で具現化していくために、次の特色を有する学部の教育体制の構築を図る。

【学部教育の特色】

- ① 階層的な授業科目群と個性の重視
- ② 柔軟な単位履修と自律心の育成
- ③ 教育の質の保証
- ④ 学問知（科学知）と実践知・経験知との融合

上記特色の詳細は、以下のとおりである。

① 階層的な授業科目群と個性の重視

専門教育科目として、共通科目、コース科目、キャリア形成科目を置き、スポーツキャリア形成に向けて段階的に履修できるようにする。

a) 共通科目：「基礎の重視」に力点を置く授業科目群である。

スポーツに関わる専門教養を幅広く身に付けるとともに、教員やスポーツ指導者（日本体育協会）、健康運動指導士（健康・体力づくり事業団）等の資格を取得するために必要なスポーツ科学の基幹科目を幅広く学修する。

- b) コース科目：「個性の重視」に力点を置く授業科目群である。
各自の興味・関心、卒業後の将来設計と関連づけて、2つの専門コースに分かれて学修する。

- ・ 競技スポーツコース
- ・ 生涯スポーツコース

- c) キャリア形成科目：「さらなる個性の重視」に力点を置く授業科目群である

b) を基にしてさらなるキャリア形成（社会的・職業的自立の促進）を図るために、以下の5群の授業科目群から選択して学修する。

- A群：コーチング系 B群：競技スポーツサポート系 C群：生涯スポーツサポート系
D群：教職（保健体育）系 E群：スポーツ英語系

② 柔軟な単位履修と自律心の育成

①で示した「個性の重視」を具現化するために、柔軟に単位履修ができるようにする。このために以下の2点について考慮した。

- a) 「卒業要件」として示される各科目区分の履修単位数の下限を少なくし、各自の興味・関心、卒業後の進路等と関連づけて履修できる単位数を多くする。
- b) 必修単位数を少なくし、選択必修単位数及び選択単位数を多くする。必修科目は以下の8科目とする。

外国語教育科目：「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」（第1年次前・後期、各2単位）

「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」（第2年次前・後期、各2単位）

共通科目：「スポーツ基礎演習」（第1年次通年、4単位）

「スポーツキャリア形成」（第2年次通年、4単位）

コース科目：「スポーツ専門演習1」（第3年次通年、4単位）

「スポーツ専門演習2」（第4年次通年、4単位）

上記のように、単位履修を柔軟にすることによって、学生は各自の興味・関心、将来設計を絶えず考慮しながら受講科目を選択していくことが求められる。なお、単位履修を柔軟にすることの弊害を少なくするために、学生の自律心を育成することに力点を置きながら履修指導をより綿密に行うことが肝要であると考えている。

③ 教育の質の保証

教育の質を保証することはきわめて重要である。このために、以下の3点について考慮した。

- a) できる限り定員を少なくする。

入学定員は1学年170人とする。これにより、専門教育科目の専任教員（計21人）1人当たりの学生数は8.1人となり、学生と教員の意思の疎通が図りやすくなるので、学生は円滑な学生生活を送ることができると考えられる。

- b) できる限り小・中集団教育を実施する。

スポーツ科学部の専門教育として不可欠な授業科目を精選した上で、多くの授業科目を選択必修または選択にし、加えて各授業区分内での履修単位数（科目数）の下限を低目としている。

これにより、1科目の受講生数は少なくなると考えられる。

- c) できる限り「演習」「実験・実習」の授業を多くする。

「演習」「実験・実習」は、講義に比較して双方向型あるいは課題解決型の授業が展開できる。本申請計画の専門教育科目における総授業科目数118科目の内訳は、講義44科目（37.3%）、演習53科目（44.9%）、実習21科目（17.8%）である。特に、キャリア形成科目は、42科目のうち、演習が36科目、実習が1科目である。これにより、学生は授業に親近感をもって取

り組むことができると考えられる。

④ 学問知と実践知・経験知との融合

スポーツ実践の場やスポーツの指導、研究、マネジメント、サポートなどの場では、学問知（科学知）だけでは、あるいは経験知・実践知だけでは解決できないことが多々見られる。一方、体育・スポーツ界では、理論と実践の乖離ということがよく言われる。これらのことはいずれも一朝一夕に解決する問題ではないが、両者を兼ね備えた人材の配置、あるいは両者を活かした組織の運営などにより徐々に解決できることが多い。いずれにしてもそのカギは教員組織にあると思料し、教員組織編成の際に以下のことを考慮した。

a) 実践知・経験知を有する学内教員の活用

本学部では、前述のように強化育成クラブ制度のもとに国内外の大会で活躍する選手を数多く輩出してきた。ここには、いわゆる研究業績では評価できない実践知・経験知を有する指導者の存在がある。これらの指導者の多くは既存学部の教員として在籍しているので、本学部新設の際には、既設の学部から本学部に移籍する専任教員（計9人）または兼任教員（計7人）として配置し、彼らが持っている多面的な能力を最大限に活かすこととした。この背景には、体育・スポーツ分野や芸術分野では実践知・経験知を大切にすべきであることを、前述の日本学術会議が提言していることが挙げられる（8頁参照）。

b) スポーツ実践に関心を有する研究志向教員の採用

これまで、大学教員には研究能力が重視され、学位（博士）を有することが重要であると言われてきた。しかしこれを重視し過ぎると、一面的な能力しか有しないためにスポーツやスポーツ科学を語れない、授業ではその分野・領域の全体を語れない、あるいは学生の教育に時間を割けないなどの教育能力に問題のある教員を採用することになる。このような恐れをできる限り避けるために、本学部ではスポーツ科学の基礎分野・領域を担当する教員であっても、スポーツ実践に関心のある教員を採用することに配慮した。

上記の特徴を有する教員で組織を編成し、次に両者の連携を図り学問知と実践知・経験知との融合を図っていくことが重要である。このための方策として、以下のことを考えている。

a) スポーツ科学部の運営や授業を協力して遂行していく体制をつくる。

b) 競技スポーツや生涯スポーツの実践の場における研究課題を、学生も交えて共同で研究していく体制をつくる。

c) 学内外においてセミナー、シンポジウム等を共同で開催する体制をつくる。

本学部では、これらの体制を確立していくなかで、スポーツや体育、健康に関わる今日的課題を解決できる学生の育成を図っていくことを考えている。

ウ 学部、学科の名称及び学位の名称

前述してきたことを踏まえて、新たに開設しようとする学部、学科の名称、及び学位の名称、並びに入学定員、開設時期は、以下のとおりとする。なお、編入学定員は設定しない。

学部の名称	スポーツ科学部	Faculty of Sport Science
学科の名称	スポーツ科学科	Department of Sport Science
学位の名称	学士（スポーツ科学）	Bachelor of Sport Science
入学定員	170人（第1年次）	収容定員：680人
開設時期	平成28（2016）年4月 第1年次	

（1）学部、学科、学位の名称

学部、学科の名称を「スポーツ科学部」「スポーツ科学科」とした理由は、前述の「イ 学部、学科の特色」「（1）学部、学科の名称及び教育内容」に示したとおりである（9頁参照）。学位の名称を「学士（スポーツ科学）」にした理由は、学部、学科の名称との整合性を考慮したことに依る。

一方、上記の「スポーツ科学」の英文表記を「Sport Science」とした理由は、学術的には「Sports」ではなく「Sport」を用いることが標準的であること、「Science」はスポーツのみの単一科学であることに依る。また、学部を「Faculty」、学科を「Department」、学位を「Bachelor」とした理由は、それぞれ一般的な用い方を採用したことに依る。

（2）入学定員

スポーツ科学部スポーツ科学科の入学定員を170人に設定した理由として、以下の4点を考慮したことが挙げられる。

① 入学定員を持続的に確保でき、大学経営に支障のないこと

少子化のために大学への進学者数が減少していることに加えて、スポーツ・体育・健康系の大学・学部・領域・コース等が増加し全国的に志願者が分散化しているため、入学定員を持続的に確保でき、しかも大学経営に支障のない範囲内でできる限り少なくする。

② 教育の質の維持・向上が図れること

入学定員を170人とする、専門教育科目の専任教員（計21人）1人当たりの学生数は8.1人となり、学生と教員の意思の疎通が図りやすくなるので、学生は円滑な学生生活を送ることができると考えられる（12頁「③ a」教育の質の保証）参照。

③ 既設学部とのバランス及び授業形態の特性を考慮していること

入学定員170人は、既設の法学部法学科（200人）・政治行政学科（170人）、現代ビジネス学部現代ビジネス学科（200人）と健康栄養学部管理栄養学科（40人）、国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科（80人）との間にある。これは、既設学部とのバランスを考慮するとともに、本学部の授業科目に演習、実技・実習が数多く含まれていることを考慮したものである。（既設学部の定員は、平成28（2016）年度からのものである。）

④ 他大学の入学定員を考慮していること

全国のスポーツ系大学・学部のなかで学部名称に「体育」「スポーツ」がついている大学 32 校（その内の 26 大学は「全国体育系大学学長・学部長会議加盟校」である。）において、本学部と同様に 1 学科のみを有する大学 14 校の入学定員をみると、151～200 人が 4 校、200 人～250 人が 6 校であった（最小～最大：70～400 人）。本学部の定員は、これと比べて突出したものではない。

因みに、2 学科以上を有する大学 18 校の入学定員は、大学の規模、学科の数、学科の特性などによりかなり大学間で異なっていた（最小～最大：40～620 人）。

なお、新学部の定員には、平成28（2016）年度より学生募集を停止する経営情報学部経営情報学科の入学定員150人に、法学部法学科から減じる入学定員20人（入学定員220人を200人に変更）を加えた計170人を充てる。これにより、本学全体の収容定員は変更しないこととする。

(3) 開設時期

開設時期を平成28（2016）年4月とした理由は、当年が本学の創立70周年、及び強化育成クラブ制度導入40周年の節目に当たり、これを契機に平成27（2015）年4月開設の「国際リベラルアーツ学部」と、このたびの認可申請に係る「スポーツ科学部」を合わせて、本学の将来に向けたさらなる飛躍を企図したことに依る。

エ 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 科目区分、科目構成の設定の考え方

前述した「スポーツ科学部のディプロマ・ポリシー」と「養成したい具体的な人材」、及び「教育体制の特色」等を踏まえて作成した「スポーツ科学部のカリキュラム・ポリシー」（10 頁参照）を基にして、科目区分、科目構成を設定した。

(2) 科目区分

科目区分は、「総合基礎教育科目」「外国語教育科目」「専門教育科目」「教職専門科目」に大別される。このうち、スポーツ科学部が責任を持って教育課程を編成するのは「専門教育科目」である。

(3) 科目構成

1) 総合基礎教育科目

全学部生を対象にした開設科目は、[基幹・基礎]と[発展・主題]に大別され、後者はさらに[人間・文化][国際・社会][環境・科学][教育・社会]の4群に分かれている。全体では5群で構成されている。学生は、すべての開講科目のなかから自由に選択して履修する。

本学部では、一般教養を幅広く身に付けるために、第1年次～第2年次に、5群にわたって各群から選択して履修させることとした[20 単位以上選択必修]。

2) 外国語教育科目

全学部生を対象にした開設科目は、[基幹・基礎(選択必修)]の[英語(4科目)]で構成されている。本学部では、「英語」を必修として第1年次から第2年次にかけて履修させる[8 単位必修]。

英語を必修とした理由は、海外派遣等の多いスポーツ科学部生にとって利用価値が高いこと、キャリア形成科目のE群「スポーツ英語系科目」と関連させたいことなどを踏まえて検討したことによる。

なお、グローバル化の時代を踏まえ、わが国に高い興味・関心を持って入学してくる外国人留学生に対しては、「英語」の履修に替えて「日本語」を必修として、第1年次から第2年次にかけて履修させる[8 単位必修]。

3) 専門教育科目

専門教育科目は、[共通科目][コース科目][キャリア形成科目]に大別される。これらを前述した基盤教育、実践教育(8 頁参照)と関連づけると、共通科目は基盤教育科目、キャリア形成科目は実践教育科目に当り、コース科目は両者をかけ橋する科目に当る(次頁の図参照)。

専門教育科目の科目構成

実践教育 (応用)

キャリア形成科目：「さらなる個性の重視」に力点を置く授業科目群

キャリア形成（社会的・職業的自立の促進）を図るために、実践の場に即してより専門的なスポーツ科学の知識や技能をより重点的に学修する。

[科目の構成]

- ・コーチング系科目 ・競技スポーツサポート系科目 ・生涯スポーツサポート系科目
- ・教職（保健体育）系科目 ・スポーツ英語系科目

実践教育・ 基盤教育の かけ橋 (発展)

コース科目：「個性の重視」に力点を置く授業科目群

各自の興味・関心、卒業後の将来設計と関連づけて、専門的なスポーツ科学の知識や技能を競技スポーツコースと生涯スポーツコースに分かれて総合的に学修する。

競技スポーツコース：ジュニアからシニアまでの競技者（障がいや有する競技者を含む）の競技力の向上に貢献できる競技スポーツの推進者の育成を目指す。

生涯スポーツコース：子どもから高齢者までの健常者、障がい者、有病者のQOL (Quality of Life, 生活の質) や健康体力の向上に貢献できる生涯スポーツの推進者の育成を目指す。

[科目の構成]

- ・スポーツ専門演習科目 ・競技スポーツコース科目 ・生涯スポーツコース科目

基盤教育 (基礎)

共通科目：「基礎の重視」に力点を置く授業科目群

スポーツに関わる専門教養を幅広く身に付けるとともに、教員や各種の資格を取得するために必要なスポーツ科学の基幹科目を幅広く学修する。

[科目の構成]

- ・スポーツ基礎演習科目／スポーツキャリア形成科目 ・人文社会系科目 ・自然系科目
- ・実技系科目

a) 共通科目

共通科目は、スポーツ科学の基礎知識や各種のスポーツ技能を幅広く身に付けることを目的とした科目群である。

以下の4群で構成され、第1年次・第2年次に必修または選択必修として履修する。

【共通科目の構成】

A群：「スポーツ基礎演習」 (第1年次) [通年、4単位必修]

「スポーツキャリア形成」(第2年次) [通年、4単位必修]

大学や学部での学修のしかた、スポーツクラブ活動を含む大学での生活のしかた、卒業後の将来設計の立て方などの学修をとおして、山梨学院大学スポーツ科学部生としての誇りを身に付ける。

B群：人文社会系の基礎科目（8科目開設） [5科目10単位以上選択必修]

C群：自然系の基礎科目 (7科目開設) [5科目10単位以上選択必修]

B・C群では、スポーツ科学の基礎知識を幅広く身に付ける。

D群：実技実習科目 (4群20科目開設) [8科目8単位以上選択必修]

下記の履修をとおして、スポーツ技能（実技能力）を幅広く身に付ける。

a 科目群（個人） [3科目3単位以上選択必修] b 科目群（球技） [3科目3単位以上選択必修]

c 科目群（武道） [1科目1単位以上選択必修] d 科目群（野外） [1科目1単位以上選択必修]

b) コース科目

コース科目は、各自の興味・関心、卒業後の将来設計に応じて、専門的なスポーツ科学の知識や技能を総合的に身に付けることを目的とした科目群である。

[コース共通科目]と[コース別科目]に大別され、第2年次から第4年次にかけて必修または選択必修として履修する。

【コース科目の構成】

コース共通科目：「スポーツ専門演習1」（第3年次）[通年、4単位必修]

「スポーツ専門演習2」（第4年次）[通年、4単位必修]

興味・関心のあるスポーツ科学の学問領域における課題解決型の学修をとおして、PDCA (planning、doing、checking、action) サイクルの遂行能力やプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などを身に付ける。

コース別科目：[競技スポーツコース科目]と[生涯スポーツコース科目]に大別される。

競技スポーツまたは生涯スポーツに関わる専門的な知識や技能を総合的に身に付ける。

a 科目群（講義）、b 科目群（講義）、c 科目群（演習）の3群で構成される。

a 科目群：おもに組織、運営などに関連する講義科目（6科目開設）[3科目6単位以上選択必修]

b 科目群：おもに実践の場に関連する講義科目（6科目開設）[3科目6単位以上選択必修]

c 科目群：おもに実践の場に関連する演習科目（6～7科目開設）[3科目6単位以上選択必修]

c) キャリア形成科目

キャリア形成科目は、キャリア形成（社会的・職業的自立の促進）を図るために、専門的なスポーツ科学の知識や技能をより重点的に身に付けることを目的とした科目群である。

以下の5群で構成され、第2年次から第4年次にかけて6単位以上を選択必修として履修する。

【キャリア形成科目の構成】

A群 [コーチング系科目]：種目別コーチングに関わる演習科目（通年、13科目開設）

山梨学院大学において強化育成を図っているスポーツ種目を中心に、各種目のコーチング法に関わる知識や技能を身に付けるとともに、課題解決型の学修をとおしてPDCA サイクルの遂行能力やプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などを身に付ける。

B群 [競技スポーツサポート系科目]：競技スポーツのサポートに関わる演習科目（6科目開設）

競技スポーツを推進できる科学的サポート能力やマネジメント能力を身に付ける。

C群 [生涯スポーツサポート系科目]：生涯スポーツのサポートに関わる演習科目（6科目開設）

生涯スポーツを推進できる科学的サポート能力やマネジメント能力を身に付ける。

D群 [教職（保健体育）系科目]：教職に関わる講義及び演習、実習科目（9科目開設）

教職に関わる専門的な知識や技能を身に付ける。

「保健体育科教育法」や「体育科内容・指導論」などのような本学部が責任を持たなければならない科目については、「教職専門科目」としてではなく、D群で開設する。

E群 [スポーツ英語系科目]：国際的活動に関わる演習科目（通年、8科目開設）

国際的活動の場で活躍できることを目的として、英語の会話力や読解力を身に付ける。

上記の「共通科目」「コース科目」「キャリア形成科目」の授業科目数をまとめると、以下のとおりである。

科目区分		授業科目数			
		講義	演習	実習	計
共通科目		15	2	20	37
コース科目	共通		2		39
	競技スポーツコース	12	6		
	生涯スポーツコース	12	7		
キャリア形成科目	コーチング系		13		42
	競技スポーツサポート系		6		
	生涯スポーツサポート系		6		
	教職（保健体育）系	5	3	1	
	スポーツ英語系		8		
計		44	53	21	118

上述の授業科目は、スポーツ科学の専門教育にとっていずれも重要な精選されたものである。本学部では、このことを前提として、学年進行にともなって「共通科目」から「コース科目」「キャリア形成科目」及び「教職専門科目」へと移っていくなかで、学生各自が「個性の重視」「さらなる個性の重視」を図ることができるように、後述する卒業要件を設定した（24頁参照）。

4) 教職専門科目

本学部では、中学校教諭一種免許状（保健体育）、高等学校教諭一種免許状（保健体育）を取得できるようにする。教育職員免許状の取得に必要な「教科に関する科目」「教職に関する科目」「教科又は教職に関する科目」については、以下にしたがって第1年次から第4年次にかけて履修する。

教科に関する科目（中学校 25 単位、高等学校 25 単位）

共通科目、コース科目、キャリア形成科目の開設科目の中から、教職課程充当科目を選択して履修する。

教職に関する科目（中学校 40 単位、高等学校 36 単位）

本学教職課程として開設されている授業科目（教職専門科目）を中心に履修する。

ただし、教育職員免許法施行規則に定める区分「教育課程及び指導法に関する科目」のうち、「各教科の指導法」に充当する授業科目（「保健体育科教育法1（体育）」「保健体育科教育法2（保健）」「保健体育科指導論」「体育科内容・指導論1（体育理論）」「体育科内容・指導論2（体育実技）」「保健科内容・指導論」）は、キャリア形成科目・D群のなかで開設している当該科目を履修する。

教科又は教職に関する科目（中学校）

小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律に基づき、人の心の痛みがわかり、各人の価値観の相違を認められる心を持った保健体育の教員の実現に資するため、「介護等体験実習（事前事後指導を含む）」を履修する。

別記様式第2号(その2の1) 教育課程等の概要

別記様式第2号(その3の1) 授業科目の概要

オ 教員組織の編成の考え方及び特色

本科学部における授業担当教員の専任、兼担（学内教員）、兼任（学外教員、非常勤教員）別の人数は、下記のとおりである。

科目区分		専任 人	兼担 人	兼任 人	計 人
教養基礎教育科目／教職専門科目		1	11	8	20
外国語教育科目	英語	0	0	5	5
	日本語	0	0	5	5
専門教育科目		21	8	8	37
計		22	19	26	67

ここでは、専門教育科目を担当する本学部の（１）教員組織編成の基本的な考え方、（２）職名、年齢構成、学位、（３）教員組織の特徴について詳述する。

（１）専門教育科目における教員組織編成の基本的な考え方

教員組織は、専任、兼担、兼任の各教員で編成する。

1) 専任教員

専任教員 22 人のうち 21 人が専門教育科目を担当する。このうち、新採用教員は学内の諸事情を考慮して 13 人とし、残りの 8 人は法学部、現代ビジネス学部、経営情報学部にも所属し、かつカレッジスポーツセンターにも所属している教員（教授及び准教授）を移籍させることとした。このうちの 7 人はスポーツクラブの部長・監督である。

新採用教員の選考にあたって配慮したことは、以下のとおりである。

① 教育研究領域間のバランスと連携がとれる体制

学部の教育目標を効率よく達成してゆくためには、教育研究の専門領域に偏りがないように配慮するとともに、教育研究の推進に積極的に連携体制のとれる教員が必要である。また、専門教育科目〔共通科目、コース科目、キャリア形成科目〕の多くの授業科目を専任教員が担当できることが重要である。

② 研究能力と教育能力のバランスのとれた教員

大学教員として研究活動に尽力し優れた研究業績をあげていることは重要であるが、大学全入時代を迎えて大学への進学の意味及び卒業後の将来設計などを十分に考慮していない学生もみられることから、研究のみでなく教育にも熱心な教員が必要である。

③ 実践（競技スポーツ、生涯スポーツ）に精通した教員

本学部は、「スポーツ基本法」に示されている「好循環システム」を積極的に推進していくことのできる人材の育成を掲げているので、競技スポーツや生涯スポーツに精通している教員が必要である。

2) 兼任教員

専門教育科目を担当する兼担（学内）教員 8 人は、以下の 2 タイプに分かれる。

① 法学部、現代ビジネス学部、経営情報学部にも所属し、かつカレッジスポーツセンターにも所属してい

る教員（准教授及び講師）

当該教員は7人であり、このうちの6人はスポーツクラブの監督・コーチである。担当授業科目は、共通科目の「スポーツ基礎演習（第1年次必修）」「スポーツキャリア形成（第2年次必修）」「実技実習」、及びコース科目やキャリア形成科目の「コーチング領域科目」「マネジメント領域科目」などである。

兼任教員が「スポーツ基礎演習」「スポーツキャリア形成」を担当する理由については、クラブ活動等をとおして学生の実態をよく把握していること、日常的によく接することができることなどがあげられる。

② 管理栄養士養成を目的とする健康栄養学部 に所属している教員

当該教員は1人（准教授）であり、共通科目の「スポーツ栄養学」を担当する。

3) 兼任講師（学外）

専門教育科目を担当する兼任講師は8人であり、担当科目は以下の10科目である。

共通科目	「スポーツ哲学」	「スポーツ史」
	「スポーツ医学」	「実技実習 a 2（ダンス）」
	「実技実習 a 3（器械運動）」	「実技実習 b 6（テニス）」
コース科目	「競技スポーツ栄養学」	
キャリア形成科目	「保健体育科教育法2（保健）」	
	「学校保健学（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む）」	
	「衛生学（公衆衛生学を含む）」	

(2) 職名、年齢構成、学位

前項で示した教員組織編成の考え方に基づいて選任された専任教員（専門教育科目担当）の職名ごとの年齢構成は、以下のとおりである。

平成31（2019）年度（完成年度）の年齢

区分	29歳以下 人	30～39歳 人	40～49歳 人	50～59歳 人	60～64歳 人	65～69歳 人	計 人
教授			1	2	6	4	13
准教授		2	1	1	1		5
講師		2		1			3
助教							
計		4	2	4	7	4	21

学位の保有状況は、以下のとおりである。

区分	博 士 人	修 士 人	学 士 人	計 人
教 授	4	4	5	13
准教授	3	2		5
講 師	1	2		3
助 教				
計	8	8	5	21

(3) 教員組織の特徴

編成した教員組織の特徴として、以下のことがあげられる。

- ① 職位、年齢構成のバランスは概ねとれている。
 本学の定年は、現在は満 65 歳である。
 平成 22 (2010) 年までに採用された教員の定年は、満 67 歳である。
 平成 31 (2019) 年度 (完成年度) 以前に定年を迎える教員は 1 人であるが、定年の延長に必要となる所定の手続を経ている。
- ② 博士の学位を有する者はやや少ないが、教育研究の推進に大きな問題はない。
 新採用教員
 13 人の学位は、博士 7 人、修士 6 人 (内、博士課程在籍者 1 人) である。
 既設学部から移籍する専任教員
 8 人の学位は、博士 1 人、修士 2 人 (内、博士課程満期退学者 1 人)、学士 5 人である。
- ③ 教育研究領域間のバランスは概ねとれている。
 人文社会系 6 人 (マネジメント系 2 人、教育・心理系 4 人)、医科学系 6 人 (バイオメカニクス系 1 人、体力・生理系 4 人、健康教育系 1 人)、コーチング系 9 人
- ④ スポーツ組織の運営、学会で活躍している。
 新採用教員
 日本代表チームのコーチ等経験者 4 人、コーチング系学会の会長等経験者 2 人、など
 既設学部から移籍する専任教員
 日本代表チームの監督等経験者 7 人、協会の会長・理事長等経験者 4 人、
 コーチング系学会の会長等経験者 1 人、など
- ⑤ 兼任教員 (学内) の協力が得られる体制である。
- ⑥ 兼任教員 (学外、兼任講師) を少なくし、専任教員と兼任教員で教育研究の大部分を遂行できる体制である。

問題点として女性教員がやや少ない (専任教員 1 人、兼任教員 2 人、兼任教員 1 人) ことが挙げられるが、これについては漸次改善していく。

なお、定年に関する規定は以下のとおりである (「山梨学院教職員任用規程」「山梨学院教職員就業規定」(添付資料 1) より抜粋)。

《 定年に関する規定 》

○ 山梨学院教職員任用規程

第 8 条 教職員の任用は、所属学校長の申請に基づいて理事会がこれを行う。

2 大学・短期大学教員の任用は、研究科長・各学部・学科長等が各研究科委員会、大学・短期大学の各人事委員会の提案により、各人事教授会の議を経て当該学長が理事会に申請するものとする。

3 前項の任用に関する取扱いについては、「山梨学院大学大学院教員人事規程」、「山梨学院大学教員人事規程」、「山梨学院短期大学教員の任用及び昇格に関する規則」に定めるところによる。

○ 山梨学院就業規則

(定年退職)

第 23 条 教職員が、満 65 歳に達した日の属する年度の末日をもって、定年退職とする。

ただし、山梨学院が必要と認めた者については、在職期間を延長することができる。

別記様式第 3 号(その 2 の 1) 教員の氏名等

別記様式第 3 号(その 3) 専任教員の年齢構成・学位保有状況

別記様式第 4 号(その 1) 教員の個人調書

別記様式第 4 号(その 2) 教育研究業績書

様式第 4 号・別添 担当予定授業科目

別記様式第 5 号 教員就任承諾書

カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

卒業要件、教育方法（履修方法）、履修指導方法の順に記載する。

(1) 卒業要件

「教育課程の編成の考え方」（16頁参照）に基づいて策定した卒業要件は、下表のとおりである。

要卒単位数は124単位とするが、各科目区分の「卒業要件単位数」の合計単位数は96単位としたので、28単位はどの科目区分から履修してもよい「縛りのない履修単位」とした。これに加えて、選択必修をともなう各科目区分の最低履修単位数も幾分低目に設定した。これらは、「スポーツ科学部における教育の特色」で記載した「柔軟な単位履修」を具現化したものである（12頁参照）。これにより、各自の興味・関心、卒業後の進路等と関連づけて柔軟に履修できるとともに、自律心の育成に繋がると考えている。

科目区分				卒業要件単位数	
総合基礎教育科目				20以上：選択必修	20以上
外国語教育科目		英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳ		8：必修	8
専門教育科目	共通科目	A群	スポーツ基礎演習	4：必修	36以上
			スポーツキャリア形成	4：必修	
		B群：人文社会系		10以上：選択必修	
		C群：自然系		10以上：選択必修	
	D群：実技系	4群（a～d科目群）に分かれている		8以上：選択必修	
		共通	スポーツ専門演習1	4：必修	26以上
	スポーツ専門演習2		4：必修		
	主コース	a科目群：講義	6以上：選択必修		
		b科目群：講義	6以上：選択必修		
		c科目群：演習	6以上：選択必修		
	他コース	a科目群：講義	0以上：選択		
		b科目群：講義	0以上：選択		
		c科目群：演習	0以上：選択		
キャリア形成科目	A群：コーチング系		6以上：選択必修	6以上	
	B群：競技スポーツサポート系				
	C群：生涯スポーツサポート系				
	D群：教職（保健体育）系				
	E群：スポーツ英語系				
教職専門科目	教職に関する科目	（自由科目のため卒業要件に算入しない。）		—：—	—
				総計	124以上

添付資料2に、「スポーツ科学部履修規程」を示す。

(2) 教育方法（履修方法）

1) 履修年次、及び完成年度における予定時間割表について

履修年次は、原則として以下のとおりである。

総合基礎教育科目	: 第1～2年次
外国語教育科目	: 第1～2年次
専門教育科目	
共通科目	: 第1～2年次
コース科目	: 第2・3・4年次
キャリア形成科目	
コーチング系、競技スポーツサポート系、生涯スポーツサポート系	: 第3・4年次
教職（保健体育）系、スポーツ英語系	: 第2・3・4年次
教職専門科目	: 第2・3・4年次

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 教職専門科目：教職に関する科目 自由（教職課程履修者必修） </div>		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 専門教育科目：キャリア形成科目 選択：教職（保健体育）系科目 スポーツ英語系科目 </div>		
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 専門教育科目：キャリア形成科目 選択：コーチング系科目 競技スポーツサポート系科目 生涯スポーツサポート系科目 </div>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 専門教育科目：コース科目 必修：コース共通科目 （スポーツ専門演習1、スポーツ専門演習2） 選択必修：競技スポーツコース科目 生涯スポーツコース科目 </div>		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 専門教育科目：共通科目 必修：スポーツ基礎演習 スポーツキャリア形成 選択必修：人文社会系科目 自然系科目 実技科目 </div>		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 外国語教育科目 必修：英語（第1～2年次） （外国人留学生：日本語） </div>		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 総合基礎教育科目 </div>		

上記の履修年次は、基本的にはレディネスを考慮したものである。また、専門教育科目の履修年次の幅を広げたことは柔軟な単位履修の考え方に基づくものである。これと関連して、シラバスには「履修条件等」を設け、各授業科目の履修前に受講しておくべき授業科目等を必要に応じて記載するようにした。

添付資料3に、「スポーツ科学部における完成年度の予定時間割表」を示す。

2) 受講者数について

各授業科目の受講者数の多寡は、教育の質を保証するに当たって極めて重要である。本学部がこれを保証するためにとった措置は、以下のとおりである。

- ① 各学年における必修科目である「スポーツ基礎演習」「スポーツキャリア形成」「スポーツ専門演習1」「スポーツ専門演習2」を除く他のすべての授業科目を選択必修または選択として開設する。

これにより、授業本来のあり方である学生各自の自由意志で受講する体制を整えることができると考えられる。これは、前述した「学部教育の特色」の「柔軟な単位履修と自律心の育成」(11頁参照)に結びつくものである。

- ② 「共通科目」「コース科目」「キャリア形成科目」ともに、さらにその区分内を段階的にいくつかに分けて、6～13(平均値:全体6.7、共通5.8、コース6.2、キャリア8.4)の授業科目からなる科目群をつくり(①の授業科目を除く)、そのうちの約70%を選択必修または選択として履修をしなければならない緩やかな縛りを設ける。

これにより、1クラスの平均受講者数を「共通科目」では約120人以下に、また「コース科目」では約60人以下に抑えられることができると考えられる。

- ③ 「共通科目」「コース科目」「キャリア形成科目」における演習科目、実習科目については、必要に応じて受講者数の上限を定め、これを超過した場合は追加のクラスを設ける。

これにより、演習、実習などは一定水準の授業成果が得られる授業形態を整えることができると考えられる。

以上の措置を講ずることにより、学生各自の自由意志で出席する授業を展開できるとともに、大型授業を少なくできるので、教育の質は向上すると考えられる。

3) 成績の評価方法について

本学部の成績の評価方法は、原則として全学の方針に則っておこなう。成績評価基準については各授業科目のシラバスに明記し、厳格な成績評価をおこなう。

なお、GPA制度を活用し、学生が自身の学修状況について把握しやすいように配慮する。

添付資料4に、「スポーツ科学部におけるGPAの取扱いに対する細則」を示す。

4) 履修上限単位数について

4年間をとおして系統的に学修し、学修の成果を着実に得るために、以下のように履修上限単位数を設定した。ただし、教職専門科目(自由科目:14科目、28単位)については算入しないこととした。これにより、教員免許状を取得しようとする学生は過重負担が生じることになる。しかし、もしこれを卒業要件単位に含めると、前述した柔軟な履修単位の考え方のもとに設定した‘縛りのない単位履修(28単位)’に当てることができるために、教員を必ずしも志望しない学生の履修が多くなり、教育の質の低下を招く恐れが生じる。本学部ではこのような事態を引き起こさないようにするために、教職専門科目を卒業要件単位から外すこととした。

第1年次・第2年次・第3年次	: 各 40 単位
第4年次	: 44 単位

5) 履修モデルについて

学生が各自の興味・関心、将来の生活設計に応じて計画的に履修できるように履修モデルを提示することは大切である。

本学部では、直接的に「養成したい具体的な人材」として、以下の5項目を挙げた（11頁参照）。

- ① 地域における競技スポーツや生涯スポーツの場で、a. 指導者、b. 科学的サポートスタッフ、c. マネジメントスタッフとして活躍できる人
- ② 学校体育・スポーツの場で、指導者として活躍できる人
- ③ 地方自治体等のスポーツ行政の場で、公務員として活躍できる人
- ④ スポーツ関連企業の中で、企業人として活躍できる人
- ⑤ 競技スポーツや生涯スポーツにかかわる国際的活動の場で活躍できる人

このうち、⑤については、スポーツ科学部の学生であることを考慮すれば、また国際化している現状を考慮すれば、いずれのモデルにおいても配慮しなければならない事項である。このことについては「キャリア形成科目」の「スポーツ英語」を履修科目に取り入れることによって対応は可能である。したがってここでは、①②③④に示した人材養成に結びつく履修モデルを、競技スポーツコースと生涯スポーツコースに分けて作成することとした。なお、①「c」の「マネジメントスタッフとして活躍できる人」と、③の「地方自治体等のスポーツ行政の場で、公務員として活躍できる人」については、履修科目に共通するものが多いので、ここでは一括して扱うこととした。以上のことを踏まえて作成した履修モデルは、以下のとおりである。

【競技スポーツコース】	
履修モデルA-1	競技スポーツの場で、指導者として活躍を希望する人
履修モデルA-2	競技スポーツの場で、科学的サポートスタッフ（心技体）として活躍を希望する人
履修モデルA-3	競技スポーツの場で、科学的サポートスタッフ（トレーナー）として活躍を希望する人
履修モデルA-4	競技スポーツの場で、マネジメントスタッフとして活躍を希望する人 地方自治体等のスポーツ行政の場で、公務員として活躍を希望する人
履修モデルA-5	学校体育・スポーツの場で、指導者として活躍を希望する人
履修モデルA-6	スポーツ関連企業の中で、企業人として活躍を希望する人
【生涯スポーツコース】	
履修モデルB-1	生涯スポーツの場で、指導者として活躍を希望する人
履修モデルB-2	生涯スポーツの場で、科学的サポートスタッフ（心技体）として活躍を希望する人
履修モデルB-3	生涯スポーツの場で、科学的サポートスタッフ（トレーナー）として活躍を希望する人
履修モデルB-4	生涯スポーツの場で、マネジメントスタッフとして活躍を希望する人 地方自治体等のスポーツ行政の場で、公務員として活躍を希望する人
履修モデルB-5	学校体育・スポーツの場で、指導者として活躍を希望する人
履修モデルB-6	スポーツ関連企業の中で、企業人として活躍を希望する人

添付資料3に、第1年次から第4年次まで（完成年次）の「予定時間割表」を示す。また**添付資料5**に、予定時間割を考慮して作成した「各履修モデルにおける第1年次から第4年次（完成年次）までの履修科目」を示す。学年進行にしたがって「共通科目」「コース科目」「キャリア形成科目」及び「教職専門科目」を履修するにつれて、競技スポーツコースと生涯スポーツコースとの差異、及び各履修モデルの特色が少しずつ明確になってくる。

(3) 履修指導方法

入学時から卒業時まで、学生が各自の目的に沿って円滑に履修ができるようにするために、以下の方法で履修指導を実施する。

学年別ガイダンス：入学時及び各年次の学期始めに実施する。

クラス別ガイダンス、及びクラスでの個別相談：

第1年次「スポーツ基礎演習」 第2年次「スポーツキャリア形成」

第3年次「スポーツ専門演習1」 第4年次「スポーツ専門演習2」

上記の授業は、通年で開設しており、学生の動向を把握するクラスの役割も兼ね備えている。この授業をとおして、担当教員（クラス担任）が学生への伝達事項を周知するとともに、学生が抱えている様々な問題に個別に対処する。

授業等の相談：授業担当教員がオフィスアワー等で随時対応する。

シラバスの提示：以下の内容からなるシラバスを学内ホームページで閲覧できるようにする。

- ①授業科目名 ②担当教員 ③単位数 ④学期 ⑤曜時限
- ⑥授業の形態 ⑦授業の概要 ⑧授業の目的・到達目標 ⑨キーワード
- ⑩毎回の授業の内容 ⑪履修条件等 ⑫成績の評価方法・評価基準
- ⑬授業外の学習 ⑭教科書・参考書 ⑮オフィスアワー
- ⑯履修者へのメッセージ

上記の履修指導では、本学部における教育の特色のひとつである「柔軟な単位履修と自律心の育成」を絶えず念頭におきながら、とくに学生各自の興味・関心、将来設計に基づく履修計画に対応することが何よりも肝要であると考えている。

(4) コースの運営方法

1) 主コースの人数

本学部の定員は170人であるので、主コースの定員はその半数の85±20人程度を見込んでいるが、本学部では学部の特色の1つとして個性の重視を挙げているので、できる限り学生の希望を尊重したいと考えている。

2) 主コースの選定方法

コース科目は、第2年次から第4年次にかけて履修することとなっている。このために、主コースの履修にかかわるガイダンスを第1年次に開設している「スポーツ基礎演習」（必修科目）の後期の授業を活用して行い、第1年次が終了するまでに選定する。

3) 主コース選定に資する知見の提供方法

本学部では、「スポーツ科学の知と技の修得」（基盤教育）と「トップスポーツ（競技者のスポーツ）と地域スポーツ（みんなのスポーツ）との「好循環システム」を推進していくことのできる人材の育成」（実践教育）の2つの教育目標を挙げ（8頁の図を参照）、それを達成するために専門教育科目における共通科目を基盤教育、キャリア形成科目を実践教育として位置づけ、両者をつなぐかけ橋の科目としてコース科目を位置づけている（18頁の図を参照）。このことは、コース科目は共通科目やキャリア形成科目と一体になって教育目標を達成するための核になるきわめて重要な科目であることを示す。このことを踏まえて、前述の履修モデルでは将来の進路として6種類を挙げ、それらに対して生涯スポーツコースと競技スポーツコースのどちらからでも取り組めるように示した（28頁の表を参照）。

一方、本学部では、正課の授業を補完するものとして、様々な教育的意味をもつスポーツ関連の課外活動を重視している。この理由として、課外活動への参加者は、上述の「トップスポーツ（競技者のスポーツ）」の経験者・実践者であり、将来において「地域スポーツ（みんなのスポーツ）」を推進していく人材として貢献できる可能性の高いことが挙げられる。

このように見てくると、主コースを選定する際には、教育課程のみでなく課外活動も考慮することが重要であることが理解できる。本学部ではこのことを踏まえて、前述の「(3) 履修指導方法」(29頁1～21行)に示した学生に対するガイダンスや個別指導において、学生とともにコース選定について話し合う場を設けることが重要であると考えている。学生は、このことをとおして、教育目標の1つとして挙げた「トップスポーツ（競技者のスポーツ）」と「地域スポーツ（みんなのスポーツ）」の好循環システムを推進していく人材と関連づけて、コースを選定することができると考えている。

キ 施設、設備等の整備計画

(1) 山梨学院の所在地、及び校地、運動場

本学は山梨県甲府市の東部に位置し、JR中央本線「酒折駅」から徒歩3分のところにある（住居表示上の住所：甲府市酒折二丁目4番5号）。この甲府市の酒折キャンパスには、校舎等敷地（屋内スポーツ施設を含む）、運動場用地（屋外スポーツ施設）、学生休息施設等がある。

校舎敷地の総面積は71,136㎡、運動場用地の総面積は127,005㎡、両者の合計面積は198,141㎡である。

学生の主たる休息施設としては、キャンパスセンターなどのほかに、屋外の休息施設があり、十分なスペースと機能的で清潔な休息環境を整備している。

校地は山梨学院大学（大学院を含む）と山梨学院短期大学の共用である。

(2) 校舎等設備の整備計画

1) スポーツ科学部の教育研究に使用する教室等

① 講義、演習等の教室

スポーツ科学部スポーツ科学科（入学定員170人、収容定員680人）は、既設の学部・学科の入学定員を減じ、大学全体の入学定員（収容定員）の変更を伴わずに開設するので、授業（講義、演習）は既設の校舎等を既設の学部・学科と共用しながら支障なく行うことが可能である。

なお、②に示すスポーツ科学部教育研究棟（仮称）内に講義室、演習室を設けるので、実験・実習と関連の深い授業は隣接した教室で行うことが可能である。

② 実習室等

本学部の開設に合わせて、以下の実習室を備えた教育研究棟（仮称）（2階建て、3,489㎡）を新築する。

これにより、①と併せてスポーツ科学部の授業を支障なく行うことが可能である。

【スポーツ科学部教育研究棟のおもな施設設備】

- ・ 医科学（生理、体力、バイオメカニクス）系実習室
- ・ 人文社会（マネジメント、心理、教育）系実習室
- ・ コーチング（コーチング、野外活動、障がい者スポーツ）系実習室
- ・ トレーニング実習室（低酸素ルームを含む）
- ・ リハビリテーション実習室
- ・ 情報分析実習室
- ・ 多目的実習室
- ・ 講義室、演習室、自習室、会議室、など

添付資料6に、「スポーツ科学部教育研究棟（仮称）の施工計画」を示す。

2) スポーツ科学部専任教員の研究室

① 既設の学部から移籍する教員は、現在使用しているカレッジスポーツセンターの居室を継続して活用する。

② 新採用教員（13人）は、平成28（2016）年4月より学生募集を停止する経営情報学部棟（40号館）の教員研究室を活用する。

(3) スポーツ施設の整備計画

本学の屋外及び屋内の既設のスポーツ施設は、以下のとおりである。

【屋内スポーツ施設】			
体育館（古屋記念堂）			4,264.00 m ²
武道館（樹徳館）：レスリング場、剣道場、柔道場			3,008.77 m ²
水泳場（シドニー記念水泳場）			1,703.26 m ²
トレーニング場（カレッジスポーツセンター内）			480.46 m ²
研修室（カレッジスポーツセンター内）			480.46 m ²
リハビリテーション室（体育館内）			86.80 m ²
【屋外スポーツ施設】			
陸上競技場	31,000.00 m ²	野球場	30,362.11 m ²
ホッケースタジアム	9,880.00 m ²	サッカー場（和戸富士見）	9,300.00 m ²
ラグビー場	11,775.46 m ²	サッカー場（和戸第二）	6,579.12 m ²
ソフトボール場	8,297.19 m ²	テニス場	6,410.79 m ²
ゴルフ場練習場	1,200 m ²	グラウンド	1,372.50 m ²

既設のスポーツ施設の多くは、大学、短期大学、高等学校、中学校、小学校、幼稚園の共用施設であるが、大学内あるいは大学周辺にあるので、これまで学生の体育実技や課外のスポーツクラブ活動、自発的な健康増進活動に加えて、甲府市をはじめとする地域住民のスポーツ活動・健康増進活動にも積極的に活用されている。

(4) スポーツ科学部における設備・備品の整備計画

前述したスポーツ科学部教育研究棟の実習室に設置する主要な設備・備品は、以下のとおりである。これにより、演習、実験・実習等の授業を支障なく行うことが可能である。

医科学系実習室
体組成分析器、筋力測定器（バイオデックス）、呼吸代謝測定システム、乳酸・血糖分析器 筋電計、ハイスピードカメラ、三次元動作解析装置（バイコン）、床反力計測システム、など
トレーニング実習室／低酸素ルーム
トレッドミル、各種自転車エルゴメータ、など
リハビリテーション実習室
超音波治療器、干渉波治療器、ワールプールバス、など
スポーツ情報分析室
映像分析ソフト、ゲーム分析ソフト、など

添付資料7に、「スポーツ科学部新設時に設置する設備・備品のリスト」を示す。

(5) 図書等の資料及び図書館の整備計画

1) 図書等の整備について

本学の総合図書館において収蔵している図書等の資料、及びスポーツ科学部の開設に合わせて整備する図書等の資料は、以下のとおりである。これにより、授業の予習・復習等に必要な図書等の資料を学内で閲覧することが可能である。

【図書等の資料の種類及び数】

区分	全学部共用	既設学部・併設短期大学の専用図書	スポーツ科学部の専用図書
和書	89,879冊 (12,199冊)	123,725冊 (4,826冊)	7,373冊
洋書	17,602冊 (904冊)	38,193冊 (116冊)	788冊
和雑誌	180冊 (18冊)	261冊 (0冊)	18冊
洋雑誌	2,102冊 (0冊)	2,535冊 (0冊)	0冊
視聴覚資料	12,298点 (204点)	76点 (7点)	197点

(注1) 和雑誌、洋雑誌は、電子ジャーナルを含む。

(注2) () の数値は、スポーツ科学部関連の冊数・点数を示す。

これらの資料に加えて、スポーツ科学部の教育研究内容と重複する既設学部の領域、特に法学、社会学、ビジネス学、経営学、栄養学等については豊富に資料が揃えられており、教育研究において十分な環境となっている。なお、総合図書館では、スポーツ科学関連の図書を含め、毎年新しい図書の購入・整備を計画し、学生の学習環境や教員の教育研究環境を整備していく。

2) デジタルデータベース、電子ジャーナルなどの整備について

本学の蔵書については、目録データの遡及作業は完了しており、すべての蔵書がオンライン目録で検索可能である。また、国立情報学研究所による総合目録や、山梨県内の地域図書館の横断検索に参加し、相互貸借を中心とした他大学や地域の図書館との連携は十分に機能している。

データベースや電子ジャーナルの整備状況については、雑誌や新聞記事の検索データベースなどの一般教養分野（MAGAZINPLUS、聞蔵、ヨミダス歴史館など）から、各学部の学習・研究に資する専門分野（Westlaw Japan/International、日経テレコン21、JDreamⅢなど）まで、18のデータベースを契約している。

また、電子ジャーナルに関しては、日経 BP 記事検索サービスがビジネス、マーケティングに特化した日本語の電子ジャーナル・アーカイブであるが、タイトルの中に健康や医療の分野を含むものである。加えて、EBSCO host や Hein-on-line などの外国雑誌を中心に、約 2,500 タイトルが閲覧可能である。これらのデータベースや電子ジャーナルは、学内ネットワークにおいて、コンピューター実習室や研究室からも利用可能となっている。

3) 閲覧室、閲覧席数などの学習環境について

総合図書館の閲覧室の座席数は合計 494 席であり、現在の学生・教職員数からみて十分な席数が確保されている。全資料の 3 割は開架書架に配架されており、利用者は自由に閲覧をすることができる。加えて、演習やグループ学習など、学生が多目的に活用できるラーニング・コモンズを館内の 4 か所に設けている。開館時間は通常 9 時から 20 時であり、土曜日の開館もおこなっている。

また、キャンパス内には、コンピューターやデジタル・視聴覚機器を備えた「情報図書館 Seeds」があり、DVD を中心とした視聴覚資料の整備もおこなっている。「情報図書館 Seeds」の座席数は 156 席、コンピューターは 100 台ほど設置されている。自由に利用できるオープンスペースのほか、コンピューターを利用した学習活動をおこなう部屋等を備えている。

ク 入学者選抜の概要

(1) アドミッション・ポリシー

本学では、本学が求める学生像（アドミッション・ポリシー）を、以下のように示している。

【山梨学院大学のアドミッション・ポリシー】

- ① 入学に対して明確な目的意識をもっている人
- ② 本学で学ぶという姿勢を大事に思う人
- ③ 常に前向きな向上心を備えている人
- ④ 学業はもとより、スポーツ、資格取得、文化活動や国際交流などにおいても、積極的かつ意欲的に取り組める人
- ⑤ 目標、目的に対して、日々自己を成長させる確かな意思を備えた人
- ⑥ 基礎的な教養を備え、入学後さらにそれを伸ばせるだけの能力を有する人

本学が求める学生像を踏まえて作成した「スポーツ科学部のアドミッション・ポリシー」については、前述したとおりである（9頁参照）。

(2) 選抜方法

1) 入試形態、及び判定項目とその重視度

本学部の入学者選抜では、上記のアドミッション・ポリシーを踏まえて行うこととするが、多様な能力、興味・関心を有する人材を適切に確保するために、AO入試、推薦入試、一般入試（本学独自入試）、大学入試センター試験利用入試（センター方式入試）の4種に分けて実施する。

各入試における判定項目とその重視度は、以下のとおりである。

入 試 区 分		高等学校における活動・成果			大 学 生 活 の 展 望	大 学 卒 業 後 の 展 望
		スポーツ活動	競技力	学 力		
A O 入 試	I 期	5	4	4	5	5
	II 期	5	4	4	5	5
推 薦 入 試	I 期	5	5	3	5	5
	II 期	5	5	3	5	5
一 般 入 試	A 方 式	4	3	5	5	5
	B 方 式	3	3	5	5	5
セ ン タ ー 方 式 入 試	I 期	4	3	5	5	5
	II 期	3	3	5	5	5

(注) 数値が大きいほど、重視度の大きいことを示す。

判定項目の評価方法は、以下のとおりである。

- ・スポーツ活動：「調査書」の特記事項、「自己推薦書」などをもとにして、学校や地域でのスポーツクラブ活動に対する選手やスタッフとしての取り組み、地域社会でのスポーツボランティア活動に対する取り組みなどを評価する。
- ・競技力：「スポーツ競技成績証明書」などをもとにして、各種スポーツ競技大会での競技成績を評価する。
- ・学力：「調査書」の評点、「個別学力試験」「大学入試センター試験」の成績などをもとにして評価する。
- ・大学生活の展望：「自己推薦書」をもとにして、大学での授業やスポーツクラブ活動に対する取り組み、地域社会でのスポーツボランティア活動などに対する取り組みを評価する。
- ・大学卒業後の展望：「自己推薦書」をもとにして、卒業後の生き方、将来設計などを評価する。

2) 募集人員、入試時期

各入試区分における募集人員と入試時期は、以下のとおりである。

入 試 区 分		募 集 人 数		入 試 時 期
		開設初年度	開設次年度以降	
A O 入 試	I 期	25	25	9月中旬～10月上旬
	II 期	10	10	12月中旬
推 薦 入 試	I 期	65	65	11月中旬
	II 期	20	20	12月中旬
一 般 入 試	A方式	40	35	2月上旬
	B方式	10	5	2月下旬
セ ン タ ー 方 式 入 試	I 期	実施しない	8	1月中旬（出願）
	II 期	実施しない	2	1月下旬～2月上旬（出願）

(注) 開設初年度 : 平成28 (2016) 年度を示す。

開設次年度以降 : 平成29 (2017) 年度以降を示す。

3) 出願資格、出願書類、試験科目及び判定方法

各入試における出願資格、出願書類、試験科目及び判定方法は、以下のとおりである。

入 試 区 分		出 願 資 格、出 願 書 類、試 験 科 目、判 定 方 法	
A O 入 試	I 期	出願資格	<ul style="list-style-type: none"> 高等学校を卒業した者、及び平成 28 (2016) 年 3 月に卒業見込の者。または、これと同等以上の学力がある者で、平成 28 年 4 月 1 日において満 18 歳以上 23 歳以下の者。 高等学校の全科目の平均評定が 3.2 以上の者。
		出願書類	<ul style="list-style-type: none"> 調査書 自己推薦書 (スポーツ等の活動記録、大学生生活の展望、卒業後の展望)、ほか
		試験科目	・面接
		判定方法	・出願書類の審査、面接による総合判定
	II 期	出願資格	<ul style="list-style-type: none"> 高等学校を卒業した者、及び平成 28 (2016) 年 3 月に卒業見込の者。または、これと同等以上の学力がある者で、平成 28 年 4 月 1 日において満 18 歳以上 23 歳以下の者。
		出願書類	<ul style="list-style-type: none"> 調査書 自己推薦書 (スポーツ等の活動記録、大学生生活の展望、卒業後の展望)、ほか
		試験科目	・面接
		判定方法	・出願書類の審査、面接による総合判定
推 薦 入 試	I 期	出願資格	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28 (2016) 年 3 月に高等学校卒業見込の者。 高等学校長の推薦を得られる者。 高等学校の全科目の評定平均値が 3.0 以上の者。 全国レベルのスポーツ競技大会において極めて優れた成績を有する者、及び競技スポーツにおいて極めて優れた潜在的能力を有すると認められる者。
		出願書類	<ul style="list-style-type: none"> 調査書 ・ 学校長の推薦書 スポーツ競技成績証明書 自己推薦書 (スポーツ等の活動記録、大学生生活の展望、卒業後の展望)、ほか
		試験科目	・面接
		判定方法	・出願書類の審査、面接による総合判定

入 試 区 分		出願資格、出願書類、試験科目、判定方法	
推薦入試 (つづき)	Ⅱ 期	出願資格	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28 (2016) 年 3 月に高等学校卒業見込の者。 高等学校長の推薦を得られる者。 高等学校の全科目の評定平均値が 3.0 以上の者。 全国レベルのスポーツ競技大会において極めて優れた成績を有する者、及び競技スポーツにおいて極めて優れた潜在的能力を有すると認められる者。
		出願書類	<ul style="list-style-type: none"> 調査書 ・ 学校長の推薦書 スポーツ競技成績証明書 自己推薦書 (スポーツ等の活動記録、大学生生活の展望、卒業後の展望)、ほか
		試験科目	・面接
		判定方法	・出願書類の審査、面接による総合判定
一般入試	A 方式	出願資格	<ul style="list-style-type: none"> 高等学校を卒業した者、及び平成 28 (2016) 年 3 月に卒業見込の者。 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者、もしくは平成 28 年 3 月に修了見込の者。 学校教育法施行規則第 150 条の規程により、高等学校を卒業したと同等以上の学力があると認められる者、及び平成 28 年 3 月までにこれに該当する見込みの者。 本学が独自に行う個別の入学資格審査に合格した者。
		出願書類	<ul style="list-style-type: none"> 調査書 自己推薦書 (スポーツ等の活動記録、大学生生活の展望、卒業後の展望)、ほか
		試験科目	・国語、選択科目 (地理歴史・公民・数学・化学・生物・物理)、英語から 2 教科 2 科目を組み合わせる行う個別学力試験
		判定方法	・出願書類の審査、個別学力検査による総合判定
	B 方式	出願資格	・一般入試 A 方式と同じ。
		出願書類	<ul style="list-style-type: none"> 調査書 自己推薦書 (スポーツ等の活動記録、大学生生活の展望、卒業後の展望)、ほか
		試験科目	・「国語」「地理歴史、公民」「数学」「化学、生物、物理」「英語」の 5 教科 8 科目から 2 科目を自由に選択して行う個別学力試験
		判定方法	・出願書類の審査、個別学力検査による総合判定
センター方式入試	Ⅰ 期	出願資格	・一般入試 A 方式と同じ。
		出願書類	<ul style="list-style-type: none"> 調査書 自己推薦書 (スポーツ等の活動記録、大学生生活の展望、卒業後の展望)、ほか
		試験科目	・大学入試センター試験 (国語、数学、外国語 (英語：リスニング含む)、地理歴史・公民、理科) の範囲から 2 教科 3 科目または 3 教科 3 科目を組み合わせる選択
		判定方法	・出願書類の審査、及び高得点の 2 教科 3 科目または 3 教科 3 科目の成績による総合判定
	Ⅱ 期	出願資格	・一般入試 A 方式と同じ。
		出願書類	<ul style="list-style-type: none"> 調査書 自己推薦書 (スポーツ等の活動記録、大学生生活の展望、卒業後の展望)、ほか
		試験科目	・大学入試センター試験 (国語、数学、外国語 (英語：リスニング含む)、地理歴史・公民、理科) の範囲から 2 教科 2 科目を組み合わせる選択
		判定方法	・出願書類の審査、及び高得点の 2 教科 2 科目の成績による総合判定

(注 1) 高等学校：中等教育学校を含む。

(注 2) センター方式入試：平成 28 (2016) 年度は実施しない。

ケ 資格取得を目的とする場合

本学部では、本学部の教育目的に合致し、卒業後の就職と関連の深い資格取得に必要な科目を、在籍期間中に計画的に履修できるように配慮した。配慮した資格は、以下のとおりである。

【教員免許状】

免許状の種類	資格取得 受験資格 の別	卒業要 件との 関わり	追加科目 履修の 必要性
中学校教諭一種免許状（保健体育）	資格取得	なし	あり
高等学校教諭一種免許状（保健体育）			

【民間資格】

名 称	認定団体	資格取得 受験資格 の別	卒業要 件との 関わり	追加科目 履修の 必要性
共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	公益財団法人日本体育協会	資格取得	なし	あり
スポーツリーダー				
アシスタントマネジャー				
ジュニアスポーツ指導員				
健康運動指導士	公益財団法人	受験資格	なし	なし
健康運動実践指導者	健康・体力づくり事業財団			
トレーニング指導者	特定非営利活動法人 日本トレーニング指導者協会	受験資格	なし	あり
障がい者スポーツ指導員 (初級・中級)	公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会	資格取得	なし	あり

上記の資格のうち、民間資格についてはスポーツ科学部開設後に認定を受けることになっている。

添付資料8に、「民間資格取得にかかわる認定対応授業科目」を示す。

コ 実習の具体的計画

本学部では、学外実習をおこなう授業科目として、以下の科目を開講する。

専門教育科目 「共通科目」「D群 d科目群」 <ul style="list-style-type: none">・「実技実習 d 1 (野外活動：キャンプ)」 (1単位、選択必修)・「実技実習 d 2 (野外活動：水辺)」 (1単位、選択必修)・「実技実習 d 3 (野外活動：雪上)」 (1単位、選択必修) 「コース科目」「生涯スポーツコース」 <ul style="list-style-type: none">・「生涯スポーツ演習 7 (健康運動指導等研修 (事前事後指導を含む))」 (2単位、選択必修) 「キャリア形成科目」「D群：教職 (保健体育) 系」 <ul style="list-style-type: none">・「介護等体験実習 (事前事後指導を含む)」 (2単位、選択必修)
教職専門科目 「教職に関する科目」 <ul style="list-style-type: none">・「教育実習 I」 (2単位、自由)・「教育実習 II」 (2単位、自由)

上記授業科目の具体的な実習計画は、以下のとおりである。

(1) 専門教育科目

1) 「実技実習 d 1 (野外活動：キャンプ)」「実技実習 d 2 (野外活動：水辺)」「実技実習 d 3 (野外活動：雪上)」について

① ねらい

上記の授業科目は、野外活動のもつ幅広い教育効果を体験させるために、実技実習の一つとして開講している。学生は、4年間に1科目以上を履修する(選択必修)。

② 実習先の確保の状況

「キャンプ」は山梨県内の山岳地域(南アルプス、八ヶ岳周辺)、「水辺」は山梨県内の富士五湖周辺、「雪上」は山梨・長野県の高原地域において、いずれも4泊5日(12回)の日程でおこなう。

③ 実習先との連携体制

実習先の施設管理者とは事前に綿密な情報交換をおこなう。このことをとおして、実習水準の確保に鋭意努める。

④ 事前・事後における指導計画

実習前に3回にわたって、野外活動の特性と安全対策、実習計画の立案(装備、食糧、プログラム)、実習に臨む心構えなどについて討議する。実習後のまとめは現地でおこなう。

⑤ 事故等に対する対応

教員、学生ともに、事故等に遭遇したときに備えて保険に加入する。

⑥ その他

いずれの授業科目も担当教員を2人配置している。また、本学部内に「野外活動実習運営委員会」を設置し、担当教員を中心にして組織として取り組む。

2) 「生涯スポーツ演習 7 (健康運動指導等研修 (事前事後指導を含む))」について

① ねらい

この授業科目は、民間資格「健康運動指導士」「健康運動実践指導者」(公益財団法人健康・体力づくり事業財団)の取得にかかわる科目である。資格取得のために、健康産業施設等での7日間40

時間の現場研修・見学が課せられている。

② 実習先の確保の状況

原則として実習先は、山梨県内にある民間スポーツ施設を利用する(10回)。**添付資料9**に実習先リストを示す。これらの施設は、スポーツ科学部の開設と同時に学生募集を停止する経営情報学部において、これまで実施してきたスポーツ経営学系のインターンシップの受入先である。ただし、県内の民間スポーツ施設がそれほど多くない現状を考慮すると、実習期間に幅をもたしておこなうことになる。

③ 実習先との連携体制

実習先とは、a) 実習前後の指導内容、b) 実習内容、c) 実習の評価方法、d) 事故が生じた際の責任体制、e) 施設利用者の個人情報の保護、f) 教員等の巡回指導体制などについて、事前に綿密な情報交換をおこなう。このことをとおして、実習水準の確保に鋭意努める。

④ 事前・事後における指導計画

実習前に3回にわたって、健康産業施設の役割、現状(運営面、指導面)、実習に臨む心構えなどについて討議する。また、実習後には2回にわたって、健康産業施設のこれからの運営・指導のあり方について討議する。

⑤ 事故等に対する対応

教員、学生ともに、事故等に遭遇したときに備えて保険に加入する。

⑥ その他

この授業科目には担当教員1人を配置しているが、健康産業施設との折衝、巡回指導等の業務が多いので、本学部内に「生涯スポーツ演習7運営委員会」を設置し、担当教員を中心にして組織として対応する。

3) 「介護等体験実習(事前事後指導を含む)」について

① ねらい

この授業科目は、教員免許状(中学校教諭一種)の取得にかかわる科目である。免許法では、社会福祉施設等における7日間以上の介護等の体験が課せられている。

② 実習先の確保の状況、及び実習先との連携体制

山梨県内にある社会福祉施設(5日間)、特別支援学校(2日間)を利用するが、学生の履修科目(時間割)が多様であることを考慮すると、実習期間に幅をもたしておこなうことになる。

実習先に関しては、中学校教諭一種免許状(教科:社会)の教員養成に係る課程認定を有する既設の法学部法学科同様に、山梨県教育庁、または山梨県社会福祉協議会と、山梨県内に所在する教職課程を有する他の大学を含め協議のうえ決定する(小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律第3条に定める手続きに基づき、山梨県教育庁の主導及び山梨県社会福祉協議会の協力により山梨県内一括で調整の場を設けており、希望する学生が実習から漏れることはない)。なお、これまでの本学における実習先については、**添付資料10**に示すとおりである。

③ 実習先との連携体制

実習先とは、a) 実習前後の指導内容、b) 実習内容、c) 実習の評価方法、d) 事故が生じた際の責任体制、e) 施設利用者や児童生徒の個人情報の保護、f) 教員等の巡回指導体制などについて、事前に綿密な情報交換をおこなう。このことをとおして、実習水準の確保に鋭意努める。

④ 事前・事後における指導計画

実習前に8回にわたって、実習に臨む心構え、介護等体験の目的と意義、社会福祉施設の現状、特別支援学校の現状などについて討議する。また、実習後には授業時間外指導として3回の事後指導を行い、介護等体験の成果発表に加えて、介護から学んだことについて討議する。

⑤ 事故等に対する対応

教員、学生ともに、事故等に遭遇したときに備えて保険に加入する。

⑥ その他

この授業科目には担当教員1人を配置しているが、実習施設や学校との折衝、巡回指導等の業務が多いので、本学全体の教職課程の運営を担う教職課程運営委員会（教職課程専任教員で構成）により運営する。

(2) 教職専門科目（「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」の場合）

① ねらい

「教育実習Ⅰ」は中学校・高等学校教諭一種（保健体育）、「教育実習Ⅱ」は中学校教諭一種（保健体育）の教員免許状取得にかかわる授業科目である。教育職員免許法施行規則では、「中学校教諭一種免許状」を取得するために3週間（3単位）、「高等学校教諭一種免許状」を取得するために2週間（2単位）の教育実習が課せられている。

② 実習先（教育実習校）の確保の状況、及び実習先との連携体制

教育実習は、これまで本学が教育実習校として提携する山梨県立甲府城西高等学校、山梨県立塩山高等学校、甲府市立甲府商業高等学校、本学の附属学校である山梨学院大学附属中学校、山梨学院大学附属高等学校の5校に、スポーツ科学部の開設を踏まえ、新たに山梨県立甲府第一高等学校、山梨県立甲府東高等学校、山梨県立甲府工業高等学校の3校を加えて、山梨県内にある中学校、高等学校でおこなう。

③ 実習先との連携体制

実習先とは、a) 実習前後の指導内容、b) 実習内容、c) 実習の評価方法、d) 事故が生じた際の責任体制、e) 児童生徒の個人情報の保護、f) 教員等の訪問指導体制などについて、事前に綿密な情報交換をおこなう。これらをとおして、実習水準の確保に鋭意努める。

④ 事前・事後における指導計画

「教育実習研修」により、実習に臨む心構え、教育実習の意義と目的、学校現場の理解、指導方法・評価方法などについて討議する。さらに、授業時間外指導として、オリエンテーションや、体験報告、授業のあり方、教師像などについて4回の事前・事後指導を行う。

また、「教職専門科目」として開講している授業科目、及び「専門教育科目」の「キャリア形成科目 D群：教職（保健体育）系」で開講している授業科目を履修するように指導する。

⑤ 事故等に対する対応

教員、学生ともに、事故等に遭遇したときに備えて保険に加入する。

⑥ その他

本学部では、この授業科目に担当教員1人を配置しているが、教育実習に関しては、大学全体に関わる運営組織「教育実習実施委員会」（学長、学部長、学科長、教職課程運営委員会（教職課程専任教員で構成）、教務部長、実習校学校長により構成）により運営する。

本学部では、この授業科目に担当教員1人を配置しているが、教育実習に関しては、大学全体に関わる運営組織「教育実習実施委員会」（学長、学部長、学科長、教職課程運営委員会（教職課程専任教員で構成）、教務部長、実習校学校長により構成）により運営する。

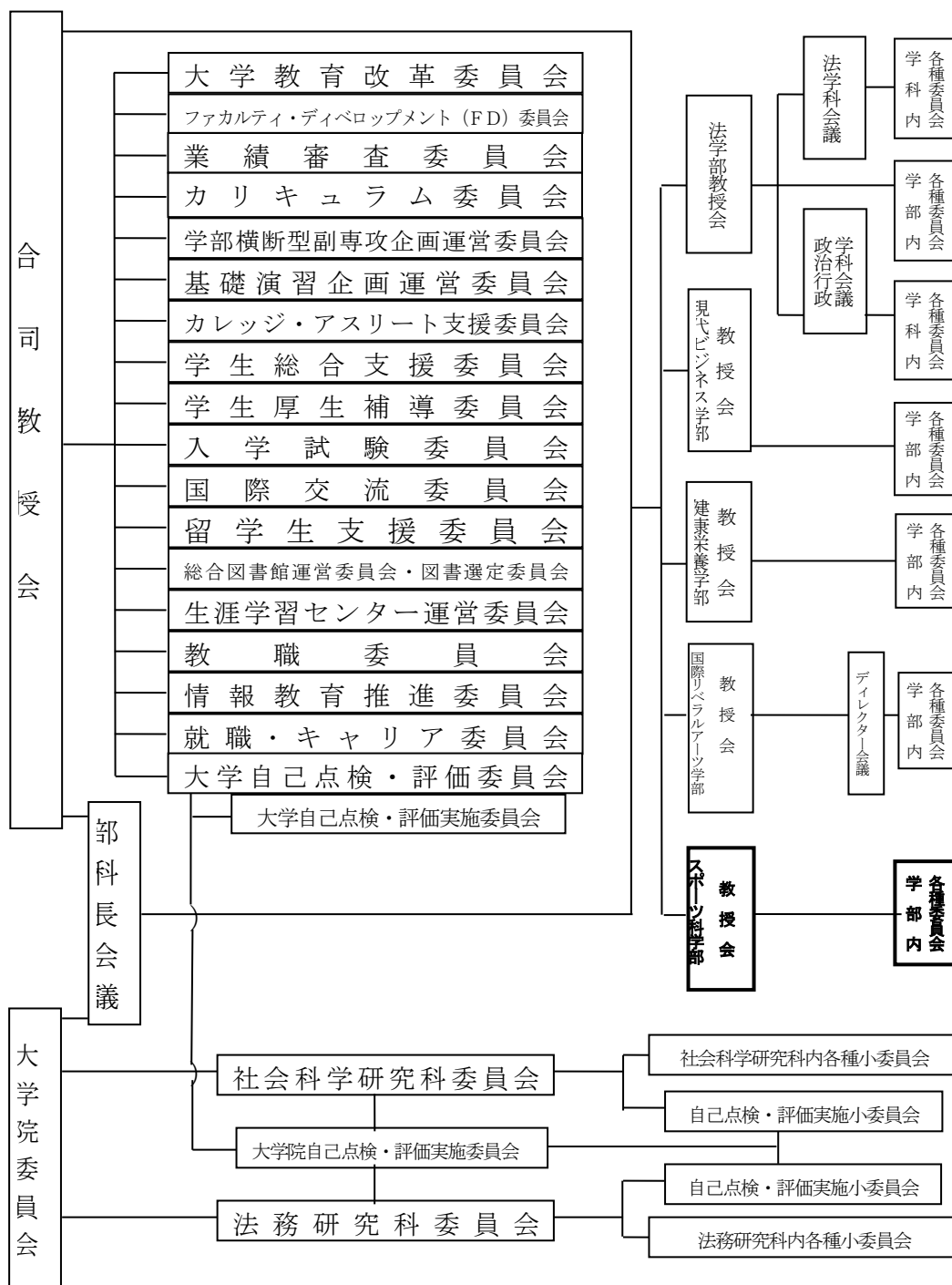
ツ 管理運営

(1) 管理運営機構

1) 概要

教学の管理運営機構は、学長、副学長、学部長、副学部長、学科長、教員（教授、准教授、講師、助手（健康栄養学部管理栄養学科）、及び客員教授、並びに非常勤講師）、職員（事務長、事務員、雇員）からなり、教学に関する管理運営は、合同教授会及び学部教授会、あるいは大学院委員会及び研究科委員会を意思決定の中心に据え、業務分類ごとの連絡・調整は、全学にわたる各種委員会が担っている。

【大学全体の教育組織機構図】



教学面に関わる管理運営体制のうち、本学全体の調整や本学の使命・目的との整合性の確認、あるいは全学にわたる重要事項については、全学合同教授会で審議される。合同教授会は計画的な月例開催のほか、緊急の案件がある場合には臨時でも開催される。

各学部における教学に関わる意思決定機関は、各学部ごとに配置される学部教授会である。学部教授会は計画的な月例開催のほか、緊急の案件がある場合には臨時の学部教授会が開催される場合もある。

このほか、2学科を有する法学部に関しては、学部教授会の下に各学科会議が設置されており、学部教授会終了後に各学科会議が開催される。

全学合同教授会が開催される1週間前には、学長、副学長、大学院各研究科長、各学部長・各学科長から構成される部科長会議が開かれ、学内各所属から持ち寄られた課題を検討・調整し、全学合同教授会の審議事項を決定している。また、部科長会議で審議された大学の基本方針や検討事項は、学部長・学科長や大学院の研究科長を通じて、各学部学科の教授会や大学院の各研究科委員会に伝えられ、審議検討されている。

以上のように、本学の教学の方針は合同教授会において審議され、全教員への周知が図られているが、教学の具体的内容については、各学部教授会、大学院の各研究科委員会が意思決定のための審議を行っており、主体性と独自性を担保している。スポーツ科学部についても、同様に教学についての基本方針は同学部の教授会が主体的に意思決定のための審議を行うことになる。

また、教育計画・研究計画等、事業分類ごとの政策を策定するうえで必要となる調査・調整等の実務については、合同教授会の審議を経て学長より委嘱を受けた各学部を代表する委員によって構成された全学横断的な各種委員会が担い、委員会の策定した具体的な提案が各学部教授会で審議・調整され、最終的に合同教授会で議決される。

全学横断的な各種委員会としては、大学自己点検・評価委員会、大学自己点検・評価実施委員会、大学教育研究改革委員会、ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会、業績審査委員会、カリキュラム委員会、学部横断型副専攻企画運営委員会、基礎演習企画運営委員会、カレッジ・アスリート支援委員会、学生総合支援委員会、学生厚生補導委員会、入学試験委員会、国際交流委員会、総合図書館運営委員会・図書選定委員会、生涯学習センター運営委員会、教職委員会（教職課程運営）、情報教育推進委員会、就職・キャリア委員会がある。

スポーツ科学部においても、これらの全学横断的な各種委員会と連携をとりながら、教学及びその他関連する事項を審議・調整していくこととなる。

2) 教授会等の会議の開催時期と頻度

各会議は、重複をできるだけ避けるために、月例を標準として開催日を次のように定めている。会議開催日を各週の水曜日としているのは、全学において円滑な管理運営を推進するために、週半ばに審議・決定した事項を当該週末までに執行することを念頭に置いた措置である。なおこの他に、必要があれば臨時に会議を招集し開催する。

第1週水曜日 … 各学部教授会、各学科会議（1つの学部で2つの学科を有する法学部法学科・政治行政学科）・ディレクター会議（国際リベラルアーツ学部）

第2週水曜日 … 部科長会議、法務研究科委員会、社会科学研究科委員会、各種委員会

第3週水曜日 … 全学合同教授会、臨時の学部教授会、各種委員会

第4週水曜日 … 各種委員会

スポーツ科学部が開設する平成28（2016）年度以降も、上記の枠組みを踏襲することを予定している。

(2) 教授会

合同教授会及び学部教授会については、『山梨学院大学学則』及び『山梨学院大学教授会規程』により、定められている。

合同教授会（第3水曜日）は、前述のように全学にわたる連絡・調整のための審議を行う機関であり、すべての学部の教授、准教授、講師、助手をもって組織される。学長がこれを招集し、その議長となるが、全学に関する事項につき、各教授会から議案を提示のうえ合同教授会開催の要求があれば、学長はすみやかにこれを招集しなければならないこととされている。審議内容は以下のとおりである。

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| ① 学生の教育に関する重要事項 | ② 名誉教授の推薦に関する事項、 |
| ③ 各種委員会に関する事項 | ④ 各学部、その他の機関の連絡調整に関する事項 |
| ⑤ 国際交流の推進に関する事項 | ⑥ 諸規程の制定及び改廃に関する事項 |
| ⑦ 学長から諮問された事項 | ⑧ その他全学に関する重要事項 |

学部教授会（第1水曜日）は、学部単位の審議機関であり、学部の専任の教授、准教授、講師、助教をもって組織される。学部長が学部教授会を招集し、議長となる。審議事項は法定事項のほか、学部の教育裁量を発揮するための事項を含めており、その詳細は以下のとおりである。

- | | |
|--|-------------------|
| ① 学生の入学、進級、編入学、再入学、転部、転科、転学、退学、休学、復学、除籍、卒業に関する事項 | |
| ② 教育課程に関する事項 | ③ 単位修得及び認定に関する事項 |
| ④ 教育及び研究の改善に関する事項 | ⑤ 学生の指導及び賞罰に関する事項 |
| ⑥ 学部内の教員人事に関する事項 | ⑦ その他教育上必要な事項 |

このうち、⑥に関する事項を審議する際は、原則として教授のみで構成された教授会（人事教授会）として開催することとしている。

スポーツ科学部の意思決定のための審議に関しても、既存の手続きを踏襲することとなる。

(3) 法人の管理運営体制

1) 理事会

理事会は、本法人の業務を決定し、理事の職務執行を監督する意思決定機関として位置付けられている。理事会は、定数7人（常勤3人、非常勤4人）で構成されており、常勤理事は、理事長（大学学長）の他、山梨学院短期大学学事顧問、法人本部事務局長が就任している。理事長は、理事会に法人本部長、秘書室長、総務課長、会計課長等の役職者を陪席させ、関連議案の説明の機会を設けて理事会の機能を十分に発揮させるよう配慮している。

理事会については定例として年次計画を定め開催しているが、開催の必要がある場合には、学校法人山梨学院寄附行為に基づく手続に則り、臨時に行うこととしている。

理事会での決定事項は、学長から教授会、大学院研究科委員会の構成員へ、また、職員には、法人本部事務局長から行政職代表者協議会を通じて周知を図っている。

2) 評議員会

評議員会は、学校法人山梨学院寄附行為に基づき、理事長が諮問する管理運営事項について意見を述べる法人の諮問機関である。定数は15人（大学学長、法人職員4人、学識経験者8人、本学卒業者2人）で構成されている。また、理事長は、評議員会にも、法人本部長、秘書室長、総務課長、会計課長等の役職者を陪席させ、関連議案の説明の機会を設けており、その機能の充実を図っている。

評議会は、理事長によって招集される。理事長があらかじめ評議会の意見を聞かなければならない事項は、以下のとおりである。

- ① 予算、借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く）、及び基本財産の処分並びに運用財産中の不動産及び積立金の処分
- ② 事業計画
- ③ 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄
- ④ 寄附行為の変更
- ⑤ 合併
- ⑥ 目的たる事業の成功の不能による解散
- ⑦ 寄附金品の募集に関する事項
- ⑧ その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの

テ 自己点検・評価

本学では、教育活動の改善及び質の向上を図ることを目的として、学則に自己点検・評価活動を位置付けている。

本学の自己点検・評価の取組みは、平成5（1993）年に「山梨学院大学自己点検・評価規程」を制定し、大学自己評価運営委員会（委員長は学長）を設置したところに始まる。

平成16（2004）年度には、改正された学校教育法の趣旨を踏まえ、それまでの大学自己評価運営委員会を大学自己点検・評価運営委員会（委員長は学長）と改称のうえ、13の個別実施委員会を設置した。同委員会のもとで、平成17（2005）年度の教育活動を対象とした自己点検・評価報告書（『平成17年度山梨学院大学自己点検・評価報告書』平成18（2006）年12月）を作成した。さらに、平成18（2006）年4月には、改めて認証評価制度に対応する組織体制の見直しを行い、自己点検評価運営委員会を自己点検・評価委員会に改称するとともに、自己点検・評価及び認証評価に伴う事業を円滑に行うための機関として、自己点検・評価実施委員会を配置した。

以降、毎年度、この自己点検・評価体制のもとで、各学部・学科、各研究科、各行政組織に属する自己点検・評価実施委員会の委員が中心となり、自己点検を実施している。具体的には、個別組織において自発的に自己点検・評価報告書を作成のうえそれぞれの組織の自己点検・自己評価活動を実践するとともに、それらを大学として一括して取りまとめる形で、年度ごとに『山梨学院大学自己点検評価書』を作成している。

本学の自己点検・評価に係る評価項目は、以下に示す公益財団法人日本高等教育評価機構が行う『大学機関別認証評価』の大学評価基準に準拠し、実施している。

基準1：使命・目的等（基準項目：1-1. 使命・目的及び教育目的の明確性、1-2. 使命・目的及び教育目的の適切性、1-3. 使命・目的及び教育目的の有効性）

基準2：学修と教授（基準項目：2-1. 学生の受入れ、2-2. 教育課程及び教授方法、2-3. 学修及び授業の支援、2-4. 単位認定、卒業・修了認定等、2-5. キャリアガイダンス、2-6. 教育目的の達成状況と評価のフィードバック、2-7. 学生サービス、2-8. 教員の配置・職能開発等、2-9. 教育環境の整備）

基準3：経営・管理と財務（基準項目：3-1. 経営の規律と誠実性、3-2. 理事会の機能、3-3. 大学の意思決定の仕組み及び学長のリーダーシップ、3-4. コミュニケーションとガバナンス、3-5. 業務執行体制の機能性、3-6. 財務基盤と収支、3-7. 会計）

基準4：自己点検・評価（基準項目：4-1. 自己点検・評価の適切性、4-2. 自己点検・評価の誠実性、4-3. 自己点検・評価の有効性）

基準5：本学の使命・目的に基づく本学独自の基準（基準：地域への貢献、基準項目：5-1. 地域貢献に関する方針の明確化と情報共有、5-2. 地域への貢献の具体性）の大項目と、それぞれに関連する小項目「評価の視点」

また、自己点検評価書は、簡易製本した冊子と学内イントラネットを活用した電子媒体により、全教職員が閲覧できる環境を整え、研究教育活動、管理運営に役立てることはもとより、本学の自己点検・評価活動における意識を共有し、不断の大学改革に資するものとして活用している。

スポーツ科学部においても、この自己点検・評価体制のもとで、自己点検・評価を実施していく。

ト 情報の公表

(1) 情報の公表に関する体制

学園の情報の公表に関する体制は、個別の刊行物による公表のほか、法人本部の統括のもと、設置者の情報公開を担う学園広報・広告及び報道機関等との連絡調整を担当するパブリシティセンター（広報課及びweb情報課の2課で構成）を中核として、個別組織と連携しながらインターネットを活用した積極的な情報の公表に務め、その役割を果たしている。また、本学の教育情報の公表に関しては、学校教育法施行規則の一部を改正する省令（平成22年文部科学省令第15号）の趣旨に則り、カリキュラム、学部等の研究紀要、事業報告等に関する具体的な内容については、前述の自己点検・評価委員会、自己点検・評価実施委員会の統括・監査のもと、担当の行政組織によって行われている。なお、教育情報の公表に関しては、法令遵守の観点から学校教育法施行規則第172条の2に規定される諸事項を公表することとどまらず、広く地域・社会に対して教育情報を還元することを通じた貢献を行うことを、その理念として推進している。

(2) 情報の公表に関する具体的な方法

本学では、前述の体制に基づき、積極的な情報の公表を進めているが、現在の本学における個別の情報の公表に関する具体的な方法は、以下に掲げるとおりである。

【情報の公表に関する具体的な方法】

項目	個別刊行物等の名称	具体的な方法
学部等の理念・目的 (アドミッション・カリキュラム・ディプロマの、各ポリシーを含む)	『FRESCO』(新入生情報誌) 『学生便覧』 『山梨学院大学シラバス』 『山梨学院大学案内』 「教育理念及び本学の目指す大学像」	冊子、HP 冊子、学内LAN、HP 冊子、学内LAN、HP 冊子、HP HP
カリキュラム	『学生便覧』 『山梨学院大学案内』	冊子、学内LAN、HP 冊子、HP
シラバス	『山梨学院大学シラバス』	冊子、学内LAN、HP
学則等、諸規程等	『学校法人山梨学院規程集』 『学生便覧』(学生向け；学則・諸規程等抄録)	冊子、学内LAN 冊子、学内LAN、HP
専任教員のプロフィール等	「教員紹介」 「研究開発支援総合ディレクトリ」	学内LAN、HP Readを活用
大学の基本的な情報(入学定員、学生数、教員数等)	「学部学科等の入学定員、学生数の状況」(年度ごと) 『山梨学院報』(年6回)	HP 冊子、学内LAN、HP
自己点検評価書	『自己点検評価書』(年度毎)	冊子、学内LAN、HP
事業計画	『山梨学院運営方針』(年度毎) 『山梨学院事業計画書』(年度毎)	冊子、HP 冊子、HP
財務状況	『山梨学院事業報告書』(年度毎)	冊子、HP

項目	個別刊行物等の名称	具体的な方法
事業成果	『山梨学院事業報告書』(年度毎) 『山梨学院報』(年6回) 「山梨学院ニュースファイル」 『アルファ』(広報誌)	冊子、HP 冊子、学内LAN、HP HP 冊子
教育研究成果	『山梨学院大学法学論集』(年2～3回 法学部) 『山梨学院大学現代ビジネス研究』(年1回 現代ビジネス学部) 『山梨学院大学経営情報学論集』(年1回 経営情報学部) 『山梨学院大学健康栄養学研究』(年1回、健康栄養学部) 『社会科学研究』(年1回 大学院社会科学研究科) 『山梨学院ロージャーナル』(年1回 大学院法務研究科) 『大学改革と生涯学習』(年1回 生涯学習センター) 『山梨学院生涯学習センター研究報告』 (年1回 生涯学習センター)	冊子、国立情報学研究所 「CiNii」の活用(以下、 同じ。)
文部科学大臣の認可に係る申請書等の情報公開	『健康栄養学部(平成21年10月認可)設置認可申請書(抜粋)』、 及び『健康栄養学部設置計画履行状況報告書』(年度毎) 『国際リベラルアーツ学部(平成26年10月認可)設置認可申請書(抜粋)』	学内LAN、HP

(注)「HP」は、インターネットゾーンに公開している本学ホームページへの収録による公表を示す。

平成28(2016)年度の**スポーツ科学部**の開設以降も、このような情報の公表に関する体制・方法を踏襲し、かつ、さらなる教育・研究に資する情報の即時性、透明性を高めていく。なお、新設学部の認可申請時(平成27(2015)年3月末)現在においては、これら本学における個別の情報の公表に係るこれまでの取組みに基づき、日本私立学校振興・共済事業団が平成26(2014)年度より運用を開始した『大学ポートレート(私学版)』を利用して、社会が求める積極的な情報公開をさらに推進するよう努めている。

なお、**スポーツ科学部**の教育研究成果については、研究紀要『山梨学院大学スポーツ科学研究』として、年1回の公表を予定している。

ナ 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

授業改善、教育改善などを目的とするファカルティ・ディベロップメントへの取組みについては、「ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会」が中心となって全学的な活動を推進している。

これまでFD委員会は、全学的に授業アンケートを実施するほか、授業開放による教員相互の教育方法・内容・技術に関する情報交換を推進するとともに、全学的な教員研修会を定期的開催して、教育改善に資する方策等を全学で共有しうよう工夫してきた。

授業アンケートは、年次計画を定め、定期的に行っている。授業アンケートの実施時期は授業展開の半ばとし、アンケート結果の集計を踏まえ、各教員が即時に担当する授業科目に還元することを意図して行っている。また、授業アンケートの内容（設問等）をFD委員会において定期的に検討（点検・評価）し、数値的な把握に関して信憑性が高まるよう工夫を凝らしながら、FD委員会が教授会に提案のうえ全学的に合意が得られたものを使用している。また、授業アンケートの実施にあたっては手順を全学で共通化し、授業アンケートの回収は職員が行うなど厳正に行われている。授業アンケートの集計結果は、FD委員会を通じて当該教員が所属する学部・学科、及び授業科目担当者個人にフィードバックされ、各学部・学科が全学的な教員研修会とは別に自律的・自発的に行う個別単位のFD活動（主に授業アンケートの結果に基づく議論）を通じて、授業改善に役立てている。このようなFD活動に基づき、担当者を異にして同一の授業科目を複数開講する際には、共通する授業内容の提供にとどまらず、担当者相互の連携を深めるためにも有効に機能するオリジナルの共通テキストを執筆・整備し授業にフィードバックするなど、独自の取組みも行われている。既設の学部・学科に共通して配置されている初年次教育に特化した授業科目である「基礎演習」に使用されている本学独自の共通テキストは、その成果の一例である。

なお、既設の学部等においては、初年次教育における総合基礎教育科目のひとつとして「基礎演習」を開設しているが、**スポーツ科学部**においてはこれを開設せず、専門教育科目として第1年次に「スポーツ基礎演習」（必修）、第2年次に「スポーツキャリア形成科目」（必修）を開設することとした。

このほか、本学の専任教員が自律的・自発的に取り組むFD活動のうち、教育方法・技術や管理運営手法の研鑽のために他の大学等に見学・研修に赴く際や、大学関係団体の主催するFDセミナー・ワークショップ等の受講のために出張する際には、所要経費の一部を補助しFD活動を活性化するための仕組みを平成26（2014）年度より全学的に導入した。この仕組みは、開設後の**スポーツ科学部**においても適用される。

二 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 教育課程内の取組について

学部教育において、学問教育とともに専門職業教育を企図することは、すなわちデュアル教育を目論むことは学生の卒業後の生き方を考慮するときわめて重要である。本学部ではこのことを踏まえて、設置計画においては、a) 教育目標を基盤教育と実践教育に分けて提示したこと（8頁の図参照）、b) a)に基づき専門教育科目の科目構成を「共通科目」「コース科目」「キャリア形成科目」の3段階に分けて階層的に提示したこと（17頁の図参照）、c) 卒業要件における単位履修に柔軟性を持たせ、学生の個性及び自律心の育成を重視したこと（11頁参照）、などの工夫を試みた。これらは、就職難の現状を考慮すると直ぐには目指す成果を得ることはできないかも知れないが、教職員と学生が一体となって真摯に取り組めば、近い将来、学生の「社会的・職業的自立」により成果をもたらすものと確信している。

なおここでは、「社会的・職業的自立」にもっとも大きな影響を与えられとされる専門教育科目の「共通科目」「コース科目」「キャリア形成科目」の特徴を、再度示しておくこととする。

共通科目

① スポーツ科学の基礎知識や各種のスポーツ技能を幅広く身に付けることを目的とした科目群である。

② 教員をはじめとする各種資格の取得に関連するスポーツ科学の基幹科目を開講しているが、社会的・職業的自立をとくにねらいとした授業科目としては、以下の科目が挙げられる。

「スポーツ専門演習」（第1年次、必修）

概要 本学の歴史・理念、スポーツ科学部の教育目標、大学生活の過ごし方などに加えて、スポーツ科学の特徴・学問体系、スポーツ科学と職業との関連性（学部卒業後の職域）などのテーマを取りあげ、それを全員で聴講した後に各クラスで討議する。

「スポーツキャリア形成」（第2年次、必修）

概要 スポーツ科学の分野で働くことの意義、各分野で活躍しているOB・OGの経験談に加えて、職業適性の見分け方、自己表現などの就職活動のしかたなどのテーマを取りあげ、それを全員で聴講した後に各クラスで討議する。

コース科目

① 各自の興味・関心、将来設計などに応じて、専門的なスポーツ科学の知識や技能を身につけることを目的とした科目群である。

② 「コース共通」「競技スポーツコース」「生涯スポーツコース」に分けて授業科目を開講しているが、「競技スポーツコース」と「生涯スポーツコース」の授業科目は社会的・職業的自立に結びつく専門的能力を総合的に高めることをねらいとしている。

キャリア形成科目

① 社会的・職業的自立を図るために、専門的なスポーツ科学の知識や技能をより重点的に身につけることを目的とした科目群である。

② [コーチング系][競技スポーツサポート系][生涯スポーツサポート系][教職（保健体育）系][スポーツ英語系]に分けて授業科目を開講しているが、「スポーツ英語系」を除く系の授業科目は、社会的・職業的自立に直接結びつく専門的能力を重点的に高めることをねらいとしている。なお、教員免許状取得のためには、「教職（保健体育）系」の授業科目のほかに、教職専門科目（自由科目）の授業科目の履修が必要である。

(2) 教育課程外の取組について

本学では、昭和61（1986）年度より就職・キャリアセンターを開設して、長年にわたり全学的な体制で組織的に学生たちの社会的・職業的な自立をサポートする体制を整備してきた。就職・キャリアセンターでは、年間を通じて、学生に対する個別のサポート（就職・キャリアに関する個別相談への対応、エントリーシートの添削、模擬面接の実施など）、公務員試験受験予定者を対象としたサポート（日常的な学習のサポート、個別相談・質問への対応、課外講座の提供など）、その他資格試験の受験サポートを目的とした課外講座の提供、キャリア講座・セミナーの開催などを行っている。スポーツ科学部においても、同センターが教育課程外で提供している各種のサポートを受けることになる。

(3) 適切な体制の整備について

本学には、「学生にたくましい人間としての基礎力を育み、学園に意欲と活力を与え、地域にさわやかな元気を送る」という理念のもとに、昭和 52（1977）年に発足した強化育成クラブ制度があり、それを管理・運営する山梨学院カレッジスポーツセンター（平成 18（2006）年度に山梨学院スポーツセンターから名称変更する）がある（5頁参照）。カレッジスポーツセンターの人的組織（スタッフ）は、以下のとおりである。

・センター長（1人）	・副センター長（2人）	・参与（1人）	
・事務長（1人）	・推進員（2人）		
・監督（17人）	・コーチ（7人）	・課員（2人）	・研究員（2人）

上記のスタッフのうち、監督、コーチは、学生の競技力向上とその基礎となる学業を含む生活支援に対して、あるいは将来の生き方、将来設計等に対して、学生との日常的な触れ合いのなかで多大な影響を及ぼしている。一方、上記のスタッフのうち 18 人は、現在、法学部（7人）、現代ビジネス学部（4人）、経営情報学部（6人）、健康栄養学部（1人）に所属する教員である。また、本学部の新設にともなって、このうちの 8 人は専任教員として、8 人は兼任教員（他学部の専任教員）として本学部の教育に直接携わることになっている。

したがって、カレッジスポーツセンターを中心にして、各学部が有機的に連携をとっていけば、強化育成クラブを含むスポーツクラブ所属の学生については、競技スポーツを通じて全学的に「社会的・職業的自立」にかかわる指導体制が構築できると考えられる。また、スポーツクラブに所属している学生が多いスポーツ科学部にとっては、教員が教員と監督・コーチという 2 つの顔をもって取り組むことができるので、その指導体制はより強固になるものと考えられる。

上述のように本学部では、学生の社会的・職業的自立を図るために、(1) で示した専門教育科目による教育課程内でのサポートのみでなく、(3) で示したカレッジスポーツセンター、及び(2) で示した就職・キャリアセンターによる教育課程外でのサポートも併せて、三者が緊密に連携しながら学生をサポートする体制を整備している。

(設置の趣旨等を記載した書類添付資料目次)

- 資料 1 山梨学院教職員任用規程、及び山梨学院教職員就業規則

- 資料 2 スポーツ科学部履修規程
(補足資料：既設学部等の履修規程)

- 資料 3 スポーツ科学部における完成年度の予定時間割表

- 資料 4 スポーツ科学部におけるGPAの取扱いに対する細則
(補足資料：既設学部等のGPAの取扱いに対する細則)

- 資料 5 スポーツ科学部における履修モデル

- 資料 6 スポーツ科学部教育研究棟(仮称)の施工計画

- 資料 7 スポーツ科学部新設時に設置する設備・備品等

- 資料 8 民間資格取得にかかわる認定対応授業科目

- 資料 9 「生涯スポーツ演習7(健康運動指導等研修(事前事後指導を含む))」にかかわる実習先リスト

- 資料 10 「介護等体験実習(事前事後指導を含む)」にかかわる実習先リスト

- 資料 11 教育実習校の承諾書

山梨学院教職員任用規程

(昭和28年2月11日制定)

第1章 総則

第1条 学校法人山梨学院（以下「本学」という。）教職員の任用及び昇任・昇格については、この規程の定めるところによる。

第2条 本学の教職員を次のとおりとする。

- (1) 本学を本務とする教職員を専任教職員という。
- (2) 本学を本務とし、一定期間に限って勤務する教職員を期間採用教職員、大学・短期大学特別任用教員（大学院は特別任用教授）、常勤嘱託教職員という。
- 2 期間採用教職員、特別任用教員及び常勤嘱託教職員の任用は、職種別に定める「期間採用教職員任用規則」、「山梨学院大学法科大学院特別任用教授に関する規程」、「山梨学院大学特別任用教員に関する規程」、「山梨学院短期大学特別任用教員に関する規程」及び「嘱託規則」による。

第3条 教員は、次のとおりとする。

- (1) 大学・短期大学教員とは、教授、准教授、講師、助教及び助手をいう。
- (2) 幼稚園・小学校・中学校・高等学校教員とは、教諭、助教諭、養護教諭、実習助手及び非常勤講師をいう。
- 2 前項第1号の講師を分かつて専任講師と非常勤講師の2種とする。
- 3 大学・短期大学において特に必要と認めた場合は、別に客員教授を置くことができる。
- 4 前項の客員教授に関する事項は、「山梨学院大学大学院客員教授規程」、「山梨学院大学客員教授規程」、「山梨学院短期大学客員教授規程」に定めるところによる。

第4条 職員は、次のとおりとする。

- (1) 事務職員とは、法人本部長、法人本部事務局長、館長・副館長、部長、センター長・副センター長、センター長補佐、所長・副所長、室長、事務局長（参事）、次長・事務局長補佐（副参事）、課長・事務長（主幹）、課長補佐（副主幹）、主任、副主任、主事、参与（嘱託職員の専門職位）、及び課員（非常勤職員等）をいう。
- (2) 技術職員とは、自動車運転手、寮監、守衛及び管財員（業務員）をいう。
- 2 前項の職位は、「職員の職位に関する内規」に定めるところによる。

第5条 教職員を新たに採用する場合に要する書類は、原則として次の各号による。

- (1) 履歴書（3か月以内に撮影した写真添付）
- (2) 研究業績（大学・短期大学教員の場合）
- (3) 健康診断書
- (4) 最終学校卒業等の証明及び学業成績証明書
- (5) 免許書、その他資格を証するもの
- (6) その他必要な書類

第2章 任用

第6条 本学が教職員として任用する者は、教育の崇高な使命を自覚し、本学建学の精神を旨として相互に信頼しあい協力してその理想達成に努めることができる者とする。

第7条 教職員の選考は、人格、学歴、職歴及び学術上、教育上の業績等に基づいて行う。

2 大学・短期大学教員の選考基準は、学校教育法第3条、第8条、第92条の規定に基づく大学設置基準、短期大学設置基準の「教員の資格」の規定を準用する。

3 法科大学院の実務授業科目を担当する教員の選考は、専攻分野における実務経験及び高度の実務の能力を有する者のうちから選考する。

第8条 教職員の任用は、所属学校長の申請に基づいて理事会がこれを行う。

2 大学・短期大学教員の任用は、研究科長・各学部・学科長等が各研究科委員会、大学・短期大学の各人事委員会の提案により、各人事教授会の議を経て当該学長が理事会に申請するものとする。

3 前項の任用に関する取扱いについては、「山梨学院大学大学院教員人事規程」、「山梨学院大学教員人事規程」、「山梨学院短期大学教員の任用及び昇格に関する規則」に定めるところによる。

第9条 前条に定める選考は、次の方法により行われる。

(1) 書類審査

(2) 筆記試験

(3) 面接考査

(4) その他の必要な審査（大学・短期大学教員の身分については、各大学教員資格審査の議を経る。）

2 前項にかかわらず、その事実が明瞭な場合は又はそれを必要としない場合は、一部を省略することができる。

第10条 本学以外に本務を有する者は、原則として専任教職員として採用することはできない。

第11条 第2条に定めるもののほか、必要に応じて非常勤嘱託教職員、非常勤教職員を置くことができる。

2 前項に定める教職員の取扱いについては、「嘱託規則」、「山梨学院非常勤教職員規程」による。

第3章 昇任・昇格

第12条 教職員が次の各号に該当するときは、職種の変更を命ずることがある。

(1) 組織の都合により必要と認められた場合は、昇任（上位の役職位への変更）を命ずることがある。

(2) 現在の資格職位より上位の職位に必要な適格性を満たしていると認められた場合は、昇格を命ずる。

第13条 教職員の昇任・昇格は、所属学校長の申請に基づいて理事会がこれを行う。

2 大学・短期大学教員の昇格は、研究科長・各学部・学科長等が各研究科委員会、大学・短期大学の各人事委員会の提案により、各人事教授会の議を経て当該学長が理事会に申請するものとする。

3 前項の昇格に関する取扱いについては、「山梨学院大学大学院教員昇格規程」、「山梨学院大学教員昇格規程」、「山梨学院短期大学教員の任用及び昇格に関する規則」に定めるところによる。

4 職員の昇任・昇格は「職員の職位に関する内規」に定めるところによる。

第14条 理事長は、この規程の運用について必要と認める場合は、細則を制定することができる。

第15条 この規程を改廃しようとするときは、理事会の議決を経なければならない。

附 則

この規程は、昭和28年2月11日から施行する。

附 則

この規程は、昭和37年1月20日から施行する。

附 則

この規程は、昭和50年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和56年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成元年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成9年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年6月27日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

山梨学院教職員就業規則

(昭和49年3月31日制定)

第1章 総則

(目的)

- 第1条** この規則は、労働基準法第89条に基づき学校法人山梨学院（以下「山梨学院」という。）に勤務する守衛職員・運転手を除く専任の教員、職員（以下「教職員」という。）の就業に関し、基本的事項を定めることを目的とする。
- 2 教職員の職制に関する事項は、別に定める「山梨学院の組織及び職制に関する規則」による。

(遵守義務)

- 第2条** 教職員は、山梨学院の定めた規則、規程に従い相互に信頼しあい協力して職務を遂行し、教育事業の発展に努めなければならない。
- 2 教職員の勤務については、関係法令及び別段の定めがある場合のほかは、この規則による。

第2章 届出事項

(届出事項)

- 第3条** 教職員は、山梨学院に、次の事項について届け出なければならない。
- (1) 現住所及び履歴
 - (2) 家族の氏名、生年月日、続柄及び職業
 - (3) 通勤方法
 - (4) 教員又は職員の資格に関する事項
 - (5) 大学又は短期大学の教員については、研究業績
 - (6) 前各号の事項に変更が生じたとき。

第3章 勤務

(勤務時間)

- 第4条** 教職員の通常の勤務時間は、労働基準法に基づいた勤務時間とする。

(勤務時間)

- 第5条** 教職員の始業及び終業の時刻は、標準として次表のとおりとする。

区別	始業時刻	終業時刻
平日	8時45分	17時00分
土曜日	8時45分	12時30分

- 2 前項の規定にかかわらず、教員の勤務時間及び職務の性質上、これにより難い所属においては別に定める。

(休憩時間)

第6条 休憩時間は、平日（月～金）の正午より午後1時までの間の1時間を原則とする。

(勤務時間の変更等)

第7条 業務の都合により必要があるときは、労働基準法の定める範囲内において、教職員の勤務時間の変更又は時間外勤務を命ずることができる。

2 育児休業及び介護休業等に関する規則の適用を受ける教職員が申し出た場合においては、時間外勤務（深夜勤務を含む）を命じない。

(育児時間)

第8条 生後満1年に達しない生児を育てる女子教職員は、1日2回各30分間の育児時間を請求することができる。

2 前項に定める育児時間は、1日1回60分にまとめて請求することができる。

3 前2項に定める育児時間は、有給とする。

(遅刻・早退等)

第9条 教職員の遅刻、早退及び勤務時間中の私用外出は、その都度所属長に届け出なければならない。

第4章 出勤日、休日休暇及び欠勤

(変形労働時間制)

第10条 業務の都合により必要があるときは1年以内の期間を単位とする変形労働時間制の労使協定を締結し、協定期間を平均して1週の所定勤務時間が40時間を超えない範囲内で、特定の週において週40時間、特定の日において8時間を超える変形労働時間制による勤務を命ずることができる。

(休日)

第11条 教職員の休日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に定める休日
- (3) 創立記念日（6月3日）
- (4) 夏季休暇
- (5) 年末年始
- (6) 所属学校（園）長が臨時に定めた日

2 前項に定める休日のほか、土曜日を休校とする学校等に所属する教職員については、当分の間、土曜日を休日扱いとし、その日に勤務することを命ぜられている教職員のほかは勤務を要しない。

(振替休日)

第12条 業務の都合により必要があるときは、前条の休日を他の日に振り替えて勤務を命ずることができる。

(休 暇)

第13条 教職員は、次の各号の一に該当する場合は、事前の届け出により、次のとおり休暇を受けることができる。

- (1) 年次有給休暇 各年度20日。ただし、5月以降において、新に教職員となった者の、その年度における年次有給休暇は次表のとおりとする。

教職員となった月	休暇の期間	7月	15日	10月	10日	翌年 1月	5日
5月	18日	8月	13日	11月	8日	2月	3日
6月	17日	9月	12日	12月	7日	3月	2日

- (2) 婚姻休暇 (本人) 3日以内
(3) 配偶者の出産 1日
(4) 教職員の分べん休暇 産前6週間 (多胎妊娠の場合は14週間) 及び産後8週間
(5) 女性教職員の生理休暇 2日以内
(6) 実父母の祭日 1日
(7) 忌引休暇 次表忌引日数表による。

死 亡 し た 者		日 数
配 偶 者		10 日
血 族	1 親等の直系尊属 (父母)	7 日
	同 卑属 (子)	5 日
	2 親等の直系尊属 (祖父母)	3 日
	同 卑属 (孫)	1 日
	2 親等の傍系者 (兄弟姉妹)	3 日
3 親等の傍系尊属 (伯叔父母)	1 日	
姻 族	1 親等の直系尊属	3 日
	同 卑属	1 日
	2 親等の直系尊属	1 日
	2 親等の傍系者	1 日
3 親等の傍系尊属	1 日	

備考 1 生計を一にする姻族の場合は血族に準ずる。

2 葬祭のため遠隔の地に赴く必要がある場合には、実際に要した往復日数を加算することができる。

- (8) 選挙権その他公民としての権利を行使し、又は公の職務を執行する場合 やむを得ないと認められる時間又は日数
(9) 裁判員、証人、鑑定人、参考人等として、国会、裁判所、地方公共団体の議会、その他官公署へ出頭する場合 やむを得ないと認められる時間又は日数
(10) 天災事変、その他交通機関の事故等により出勤が不可抗力と認められる時間又は日数
(11) 教員免許状更新講習、学会、研究会、調査、資料集収、その他教職員の職務と密接な関係ある研究、学習活動に参加し、又は出張に必要な時間又は日数
(12) 前各号に定めるもののほか、山梨学院の都合により休業するとき。

(休暇と休日の関係)

第14条 前条の休暇は、すべて出勤と同様に取扱い、勤務成績に参酌されない。

2 休暇中に休日を含む場合は、休暇日数に算入する。

(傷病休暇)

第15条 教職員は、次の規定により、有給の傷病休暇を受けることができる。

(1) 私傷病の場合は、90日以内

(2) 業務上の理由により傷病をこうむった場合、又は結核性疾患の者は、360日以内

(3) 前2号に規定する有給休暇7日以上をとる場合は医師の診断書を提出しなければならない。

(欠勤)

第16条 教職員が休暇を受ける条件を欠いて休む場合は欠勤とする。

(休暇等の届出)

第17条 教職員は休暇を受けるか欠勤する場合は、その前日までに、別に定める書式によってその期間と理由を記して所属長に届け出なければならない。ただし、緊急やむを得ない場合は、口頭又は電話にて届け出るものとする。

(育児休業・介護休業)

第17条の2 教職員のうち必要のある者は、山梨学院に申し出て育児・介護休業をし、又は勤務時間の短縮等の措置を受けることができる。

2 育児・介護休業等に必要な事項については、「山梨学院育児休業等に関する規則」及び「山梨学院介護休業等に関する規則」で定める。

(子の看護休暇)

第17条の3 教職員のうち小学校就学始期に達するまでの子を養育する者は、子が負傷し、又は疾病にかかった場合、その子を看護するための休暇を受けることができる。

2 子の看護休暇に関する規定は、別に定める「山梨学院介護休業等に関する規則」による。

(介護休暇)

第17条の4 要介護状態にある家族を介護その他の世話をする教職員は、介護休暇を受けることができる。

2 介護休暇に関する規定は、別に定める「山梨学院介護休業等に関する規則」による。

第5章 給与

(給与)

第18条 教職員の給料及び諸手当の支給については、別に定める「山梨学院給与規程」による。

第6章 休職、退職及び解雇

(休 職)

第19条 教職員が、次の各号の一に該当するときは休職とする。

- (1) 勤続3年以上の教職員が、傷病欠勤となり180日を超えるとき。
- (2) 勤続3か年未満の教職員が、傷病欠勤となり90日を超えるとき。
- (3) 結核性患者又は業務上の理由により傷病をこうむった教職員が360日を超えたとき。

(休職期間)

第20条 教職員の休職期間は、次の通りとする。

- (1) 前条第1号の教職員は、休職発令の日より180日以内
- (2) 前条第2号の教職員は、休職発令の日より90日以内
- (3) 前条第3号の教職員は、休職発令の日より720日以内とする。

(在職期間の計算)

第21条 休職期間はその2分の1を在職期間に算定する。

(退 職)

第22条 教職員が次の各号の一に該当するときは退職とする。

- (1) 自己都合により退職を願い出たとき
 - (2) 定年に達したとき
 - (3) 死亡したとき
 - (4) 期間を定めて雇用された教職員が、その期間が満了したとき
 - (5) 解雇（懲戒解雇及び諭旨解雇）されたとき
- 2 自己都合により退職しようとするときは、退職願を書面をもって、少なくとも1か月前までに所属長を経由して理事長に提出しなければならない。

(解雇及びその基準)

第22条の2 教職員が次の各号の一に該当するときは、解雇されることがある。

- (1) 懲戒に関する規程に定める懲戒解雇又は諭旨解雇に該当するとき
 - (2) 休職期間を超えて未だ復職が困難であるとき
 - (3) 学則又は教育課程の改廃により教職員が過員となったとき
 - (4) 業務の変更若しくは縮小の場合
 - (5) 職務の遂行に必要な能力を著しく欠き、かつ、他の所属に転換することもできないとき
 - (6) 不可抗力による災害によって事業の継続が不可能になったとき
- 2 前項第1号及び第6号に該当し、労働基準監督署の認定を受けたときは、予告をせず即時解雇する。
- 3 前項に該当する場合を除き、前項各号により解雇するときは、少なくとも60日前に予告するか、又は60日分の平均給与を支給する。

(定年退職)

第23条 教職員が、満65歳に達した日の属する年度の末日をもって、定年退職とする。
ただし、山梨学院が必要と認めた者については、在職期間を延長することができる。

(退職金等)

第24条 教職員の退職に際し退職金を支給する。退職金の算定は別に定める山梨学院教職員退職手当支給規程による。

第7章 職場異動、出向及び出張

(職場異動)

第25条 山梨学院は、その設置する学校運営の必要により職場異動を発令することができる。

(事務引継ぎ)

第26条 教職員が職場異動の発令を受けたときは、5日以内に事務引継ぎを完了して異動赴任しなければならない。

(出 向)

第26条の2 山梨学院は、都合により出向を命ずることができる。その取り扱いについては別に定める「職員の出向に関する規程」による。

(出 張)

第26条の3 業務の都合により出張勤務した場合は、所定の勤務時間を勤務したものとみなす。

2 出張に関する事項は、別に定める「山梨学院旅費規程」で定める。

(職務兼務)

第27条 山梨学院は、教職員に本務以外の職務を兼務させることができる。

第8章 福利厚生

(福利厚生)

第28条 教職員は、本学の福利厚生施設を利用することができる。

(私学事業団)

第29条 教職員は、日本私立学校振興・共済事業団に加入するものとする。

(子女等の授業料減免)

第30条 教職員及びその扶養する子女が、山梨学院の設置する学校に在学するときは、その授業料を減免することができる。その取り扱いについては、別に定める「教職員及びその子女に対する学費減免規程」による。

第9章 安全及び衛生

(安全規律)

第31条 教職員は、常にその業務に関する危険防止に努め、校舎内外の整理整頓に注意し、災害防止及び予防に努めなければならない。

(健康診断)

第32条 教職員は常に保健衛生に留意し、山梨学院の行う定期健康診断を受けなければならない。

(出勤の停止)

第32条の2 教職員が伝染病の疾病、精神障害又は勤務のために病状が悪化するおそれがある疾病にかかったときは、医師の意見に基づきその期間出勤を停止することがある。

第10章 災害補償

(災害補償)

第33条 教職員が業務上又は通勤により、被災したときは、労働者災害補償保険法及び関係法令の定めるところによる。

第11章 表彰及び懲戒

(表 彰)

第34条 教職員が多年勤務してその功績が顕著であった場合、又は教育上他の模範となるべき功労があった場合は、これを表彰する。

(懲 戒)

第35条 教職員がその職務を怠り、職務上の義務に違反し山梨学院の名誉を傷つける等の行為のあった場合は、別に定める「山梨学院教職員懲戒規程」による。

附 則

本則は、昭和49年3月31日から施行する。

附 則

この規則は、平成2年11月30日から施行する。

附 則

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年6月30日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 第23条の規定にかかわらず、平成22年度以前の採用者の定年年齢は、従前のとおり満67歳に達した日の属する年度の末日をもって、定年退職とする。

山梨学院大学スポーツ科学部履修規程

(平成28年4月1日制定)

(教育課程)

第1条 山梨学院大学学則(以下、「学則」とする。)第9条の定めに基づき、スポーツ科学部スポーツ科学科(以下、「本学部」という。)の教育課程を編成する。教育課程表は、別に定める。

(授業科目の履修)

第2条 授業科目の履修は、学則の定め、及び本規程に掲げる事項に留意し、教育組織あるいは教育支援に携わる行政組織の助言を得て、計画を作成することとする。

2 履修の方法は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 毎学期の始めに、その学期に履修しようとする全ての科目について履修登録を行わなければならない。この手続を行わないときは、科目の履修ができなくなり、試験の受験資格を与えない。なお、通年科目の履修については、前期に行うものとする。
- (2) 履修登録は必ず指定された期間に所定の手続を行わなければならない。なお、原則として指定期間以外の登録手続は受付けない。
- (3) 履修登録時には、登録科目に誤りのないよう確認のうえ、必要な手続をとらなければならない。なお、履修手続が確定した後の科目の変更は認めない。
- (4) 年次別に定める履修単位数の最高限度を超えて登録することはできない。

区 分	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次
年間上限単位数	40単位	40単位	40単位	44単位

- (5) 単位を修得した同一科目を再履修することはできない。
- (6) 上級年次に年次配当されている科目については、下級年次で履修することはできない。下級年次に配当されている科目を履修する場合には、この限りではない。
- (7) 同一科目においてクラスを指定している場合には、指定のクラスで履修しなければならない。
- (8) 専門演習(卒業論文等を含む。)を履修しようとする者は、あらかじめ担当教員の承認を得なければならない。
- (9) 同一時限に科目を重複して履修登録することはできない。重複して履修登録をした場合、両科目とも無効とする。

(試 験)

第3条 試験は定期試験及び追・再試験として科目ごとに行う。

- 2 試験は、前項に定めるものに加え、科目担当教員の判断において随時行うことができる。
- 3 定期試験は、前期末及び学年末に行う。
- 4 定期試験の実施に際しては、各学部長・学科長、教務部長が交代で試験実施本部長の任を負う。

(追試験)

第4条 追試験とは、定期試験をやむを得ない理由のため受験できなかった場合に「試験欠席届」(1科目に1枚)を提出し、実施を認められた者に対して行う試験をいう。届出には、公的機関及びそれに準ずると認められる次の証明書の添付を必要とする。

欠 席 理 由	必 要 書 類
親族(3親等以内)の死亡若しくは葬儀	会葬礼状等(葬儀日程等が確認できる印刷物)
疾 病 等	医療機関発行の診断書(ただし、歯科は対象としない)
交 通 事 故	事故証明書
電 車 等 の 遅 延	遅延証明書(駅等で発行)
就 職 試 験	採用試験を実施した機関(企業・団体・官公庁等)の証明を受け、就職・キャリアセンターにて認印を受けたもの(ただし、就職活動は対象としない)
大学等の代表として出場する競技会若しくは全国レベル以上の大会への出場	当該大会のプログラム又は参加を証明する文書に所属クラブの責任者(部長)の認印を受けたもの
そ の 他	受験できなかった理由を証明する文書又は証明可能な書類

- 2 「試験欠席届」は、原則として当該科目の試験終了後3日以内に届け出ることとする。なお、届出期間を指定する場合がある。
- 3 追試験の評価は、通常の試験に準ずる。
- 4 追試験を欠席した者に対し、再度の追試験は実施しない。
- 5 追試験を受験することが不相当と認められた者（出席不良な者、正当な理由なく定期試験を受験しなかった者等）は、追試験を受験することはできない。
- 6 追試験受験の可否を決定するに際し必要があるときは、履修する学生本人を呼び出すことがある。

（再試験）

- 第5条 再試験とは、当該科目の定期試験の評価を一時保留として、再度の教育効果の測定を行う試験をいう。
- 2 定期試験を放棄し受験しなかった者には、再試験の受験資格を与えない。また、前条に定める追試験の再試験は、実施しない。
 - 3 演習、実験、実習、実技科目の再試験は実施しない。
 - 4 再試験実施の有無は、科目担当教員の判断による。
 - 5 再試験は、第4年次生に限り実施する。ただし、健康栄養学部管理栄養学科の専門教育科目については、全学年において実施する。
 - 6 再試験の最高評価は、可（C）とする。
 - 7 再試験の受験を許可された者は、所定の再試験料（1科目につき1,000円）を納入しなければならない。
 - 8 再試験を受験することが不相当と認められた者（出席不良な者、正当な理由なく定期試験を受験しなかった者等）は、再試験を受けることはできない。
 - 9 再試験受験の可否を決定するに際し必要があるときは、履修する学生本人を呼び出すことがある。

（試験の受験資格）

- 第6条 次の各号に掲げる事項に該当する場合には、受験資格を与えない。
- (1) 学生証（身分証明書）の提示がない者
 - (2) 履修登録のない科目
 - (3) 学費等の納付義務を怠っている者
 - (4) 当該試験科目の欠席時数が1/3以上の者

（試験受験上の注意）

- 第7条 試験を受験する際には、次の各号に掲げる事項を遵守することとする。
- (1) 受験の際には必ず監督者の指示に従い所定の席に着席し、学生証を机上通路側に提示する。
 - (2) 試験の開始前に許可のないノート、教科書、参考書はバッグ等に入れて椅子の下に置く。このほか、携帯電話等の持ち込み許可のない電子機器等については、必ず電源を切った上でバッグ等にしまう。また、時計のアラーム機能や、時計以外の機能の使用は禁止とする。
 - (3) 下敷きは原則として使用できない。
 - (4) ノート、教科書、参考書等、持ち込み許可の場合、試験時の貸し借りを全て禁止する。
 - (5) 試験開始15分経過後は入室できない。また30分経過しなければ退出できない。
 - (6) 答案を書き終えた者は、答案用紙を所定の場所に提出し、速やかに退室する。
 - (7) 答案は、たとえ白紙であっても氏名、学籍番号を明記し提出することとする。なお、記名等についてはボールペン・万年筆等、インクを用いた筆記用具で記入する。
 - (8) 試験において不正行為のあった者については退出を求める。また、その後の処理については試験実施本部長の指示に従う。

（試験受験上の不正行為）

- 第8条 事情聴取の結果、不正行為の事実が認定された場合には、その後の受験を停止し、当該学期の全ての科目の受験を無効とする（評価は試験放棄の扱いとする）。ただし、事情を勘案して、既に受験した科目を無効にしないことができる。
- 2 不正行為を行った者は、学則第43条に基づく懲戒の対象とする。
 - 3 不正行為を行った者は、その事実を全学に公示し、保証人（保護者）に連絡する。

(成績評価の基準)

第9条 成績評価の基準は次による。

100点	—	90点	Ⓐ	合格
89点	—	80点	A	
79点	—	70点	B	
69点	—	60点	C	
59点	—	0点	D	

2 不合格の科目については、再試験あるいは再履修により単位を修得しなければならない。

3 成績評価の基準に基づき、1単位あたりの成績評価の平均値をグレードポイントアベレージ (GPA) として示し利用する。なお、グレードポイントアベレージの取扱いに関する細則は、別に定める。

(単位制度)

第10条 授業科目の単位数は、学則第10条の定めに基づき、次の各号に掲げる基準によって計算する。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、本学が定める時間の授業をもって1単位とすることができる。

(3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前二号に規定する基準を考慮して本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

(進級要件)

第11条 第2年次から第3年次に進級するためには、40単位の最低修得単位数を充足していなければならない。なお、修得単位数の積算には、自由科目に係る単位は含まない。

2 第2年次留年となった者の履修は、当該年度の第2年次のものを適用し、所定の基準を充たさなければならない。また、第3年次に適用されている授業科目は、これを履修できない。

(卒業論文・卒業研究等)

第12条 学則第9条の定めに基づく卒業論文・卒業研究等の取扱いについては、次の各号による。

(1) 卒業論文を作成する者は、第4年次に必修科目「スポーツ専門演習2」を履修し、担当教員の指導を受けるものとする。

(2) 卒業論文の単位認定は、指導教員が論文審査にあたり、試問のうえ、可否の判定を行う。合格した論文の評価は、Ⓐ (秀)、A (優)、B (良)、C (可) とする。

(3) 卒業論文等を含む専門演習の履修登録は、第4年次生で卒業見込者が指定の期間に行うものとする。

(4) 担当教員は、卒業論文等を作成するための基礎能力、及び履修要件の可否等について判断のうえ、専門演習の履修登録を許可する。

(5) 卒業論文は、指定した期日までに提出しなければならない。

(6) 卒業論文には目次を付し、本文には頁数を記入するとともに、文献の引用についてはその出典を明記するものとする。

(7) 卒業論文の表紙には、題名、指導教員名、提出者氏名 (学部、学科、学籍番号)、提出年度を記入するものとする。

(8) 卒業年次に卒業論文の履修登録を行い、その年度に提出できなかった場合又は提出したが所定の水準に達しなかった場合には、次年度において指導教員の許可を得られた者のみ、同じ専門演習を履修することができる。

(9) 卒業論文を卒業研究に替える場合には、事前に担当教員の許可を得なければならない。なお、卒業研究は、卒業論文と同等あるいはそれ以上の研究成果としなければならない。

(卒業要件)

第13条 卒業のためには、次の単位を修得していなければならない。

科目区分				卒業要件単位数			
総合基礎 教育科目	基幹・基礎		1科目2単位：選択必修		20以上：選択必修	20以上	
	発展・主題	人間・文化	1科目2単位：選択必修				
		国際・社会	1科目2単位：選択必修				
		環境・科学	1科目2単位：選択必修				
		教育・学習	1科目2単位：選択必修				
外国語 教育科目	英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳ		8：必修		8		
専門教育科目	共通科目	A群	スポーツ基礎演習	4：必修	42以上		
			スポーツキャリア形成	4：必修			
		B群：人文社会系		10以上：選択必修			
		C群：自然系		10以上：選択必修			
		D群：実技系		4群（a～d科目群）に分かれている		8以上：選択必修	
	コース 科目	共通		スポーツ専門演習1	4：必修	26以上	
				スポーツ専門演習2	4：必修		
		主コース	a科目群：講義		6以上：選択必修		
			b科目群：講義		6以上：選択必修		
			c科目群：演習		6以上：選択必修		
		他コース	a科目群：講義		0以上：選択		
			b科目群：講義		0以上：選択		
	c科目群：演習		0以上：選択				
キャリア 形成科目	A群：コーチング系 B群：競技スポーツサポート系 C群：生涯スポーツサポート系 D群：教職（保健体育）系 E群：スポーツ英語系		6以上：選択必修		6以上		
教職専門科目	教職に関する科目	（自由科目のため卒業要件に算入しない。）		—：—		—	
				総計	124以上		

（学部横断型副専攻）

第14条 学則第9条第2項に定める学生の所属する学部学科における教育課程の学修のほか、本学の保証に基づき学生が所属する学部学科の分野以外の特定分野または特定課題に関する教育課程（「学部横断型副専攻」という。）の学修活動は、本学部には適用しない。

（教職課程）

第15条 教育職員免許法（昭和24年5月31日）に基づき、本学部に教職課程を置く。

2 本学部の教職課程履修規程は、別に定める。

（長期履修学生）

第16条 学則第59条の4の定めに基づく長期履修学生の履修に関しては、別に定めるところを除き本規程を準用する。

（準用規程）

第17条 研究生、特別聴講学生、科目等履修生、聴講生の履修に関しては、別に定めるところを除き本規程を準用する。

（規程の改廃）

第18条 この規程の改廃は、カリキュラム委員会の議を経て合同教授会の承認を得なければならない。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

山梨学院大学法学部・現代ビジネス学部・経営情報学部・健康栄養学部履修規程

(平成24年4月1日制定)

(教育課程)

第1条 山梨学院大学学則(以下、「学則」とする。)第9条の定めに基づき、各学部学科において教育課程を編成する。教育課程表は、別に定める。

(授業科目の履修)

第2条 授業科目の履修は、学則の定め、及び本規程に掲げる事項に留意し、教育組織あるいは教育支援に携わる行政組織の助言を得て、計画を作成することとする。

2 履修の方法は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 毎学期の始めに、その学期に履修しようとする全ての科目について履修登録を行わなければならない。この手続を行わないときは、科目の履修ができなると同時に、試験の受験資格を与えない。なお、通年科目の履修については、前期に行うものとする。
- (2) 履修登録は必ず指定された期間に所定の手続を行わなければならない。なお、原則として指定期間以外の登録手続は受付けない。
- (3) 履修登録時には、登録科目に誤りのないよう確認のうえ、必要な手続をとらなければならない。なお、履修手続が確定した後の科目の変更は認めない。
- (4) 年次別に定める履修単位数の最高限度を超えて登録することはできない。

【法学科、政治行政学科、経営情報学科】

区分	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次	
年間上限単位数	40単位		44単位		44単位		48単位	
学期区分	前期	後期	前期	後期	前期	後期	特段の定めなし	
半期下限単位数	12単位	12単位	12単位	12単位	12単位	12単位		
半期上限単位数	28単位		32単位		32単位			

【現代ビジネス学科】

区分	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次	
年間上限単位数	48単位		48単位		48単位		50単位	
学期区分	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
半期上限単位数	24単位	24単位	24単位	24単位	24単位	24単位	24単位	26単位

【管理栄養学科】

区分	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次	
年間上限単位数	44単位		44単位		44単位		48単位	

- (5) 単位を修得した同一科目を再履修することはできない。
- (6) 上級年次に年次配当されている科目については、下級年次で履修することはできない。下級年次に配当されている科目を履修する場合には、この限りではない。
- (7) 同一科目においてクラスを指定している場合には、指定のクラスで履修しなければならない。
- (8) 専門演習(卒業論文等を含む。)を履修しようとする者は、あらかじめ担当教員の承認を得なければならない。
- (9) 同一時限に科目を重複して履修登録することはできない。重複して履修登録をした場合、両科目とも無効とする。

(試験)

第3条 試験は定期試験及び追・再試験として科目ごとに行う。

- 2 試験は、前項に定めるものに加え、科目担当教員の判断において随時行うことができる。
- 3 定期試験は、前期末及び学年末に行う。
- 4 定期試験の実施に際しては、各学部長・学科長、教務部長が交代で試験実施本部長の任を負う。

(追試験)

第 4 条 追試験とは、定期試験をやむを得ない理由のため受験できなかった場合に「試験欠席届」(1科目に1枚)を提出し、実施を認められた者に対して行う試験をいう。届出には、公的機関及びそれに準ずると認められる次の証明書の添付を必要とする。

欠席理由	必要書類
親族(3親等以内)の死亡若しくは葬儀	会葬礼状等(葬儀日程等が確認できる印刷物)
疾病等	医療機関発行の診断書(ただし、歯科は対象としない)
交通事故	事故証明書
電車等の遅延	遅延証明書(駅等で発行)
就職試験	採用試験を実施した機関(企業・団体・官公庁等)の証明を受け、就職・キャリアセンターにて認印を受けたもの(ただし、就職活動は対象としない)
大学等の代表として出場する競技会若しくは全国レベル以上の大会への出場	当該大会のプログラム又は参加を証明する文書に所属クラブの責任者(部長)の認印を受けたもの
その他	受験できなかった理由を証明する文書又は証明可能な書類

- 「試験欠席届」は、原則として当該科目の試験終了後3日以内に届け出ることとする。なお、届出期間を指定する場合がある。
- 追試験の評価は、通常の試験に準ずる。
- 追試験を欠席した者に対し、再度の追試験は実施しない。
- 追試験を受験することが不相当と認められた者(出席不良な者、正当な理由なく定期試験を受験しなかった者等)は、追試験を受験することはできない。
- 追試験受験の可否を決定するに際し必要があるときは、履修する学生本人を呼び出すことがある。

(再試験)

- 第 5 条 再試験とは、当該科目の定期試験の評価を一時保留として、再度の教育効果の測定を行う試験をいう。
- 定期試験を放棄し受験しなかった者には、再試験の受験資格を与えない。また、前条に定める追試験の再試験は、実施しない。
 - 演習、実験、実習、実技科目の再試験は実施しない。
 - 再試験実施の有無は、科目担当教員の判断による。
 - 再試験は、第4年次生に限り実施する。ただし、健康栄養学部管理栄養学科の専門教育科目については、全学年において実施する。
 - 再試験の最高評価は、可(C)とする。
 - 再試験の受験を許可された者は、所定の再試験料(1科目につき1,000円)を納入しなければならない。
 - 再試験を受験することが不相当と認められた者(出席不良な者、正当な理由なく定期試験を受験しなかった者等)は、再試験を受けることはできない。
 - 再試験受験の可否を決定するに際し必要があるときは、履修する学生本人を呼び出すことがある。

(試験の受験資格)

第 6 条 次の各号に掲げる事項に該当する場合には、受験資格を与えない。

- 学生証(身分証明書)の提示がない者
- 履修登録のない科目
- 学費等の納付義務を怠っている者
- 当該試験科目の欠席時数が1/3以上の者

(試験受験上の注意)

第 7 条 試験を受験する際には、次の各号に掲げる事項を遵守することとする。

- 受験の際には必ず監督者の指示に従い所定の席に着席し、学生証を机上通路側に提示する。
- 試験の開始前に許可のないノート、教科書、参考書はバッグ等に入れて椅子の下に置く。このほか、携帯電話等の持ち込み許可のない電子機器等については、必ず電源を切った上でバッグ等にしまう。また、時計のアラーム機能や、時計以外の機能の使用は禁止とする。

- (3) 下敷きは原則として使用できない。
- (4) ノート、教科書、参考書等、持ち込み許可の場合、試験時の貸し借りを全て禁止する。
- (5) 試験開始15分経過後は入室できない。また30分経過しなければ退出できない。
- (6) 答案を書き終えた者は、答案用紙を所定の場所に提出し、速やかに退室する。
- (7) 答案は、たとえ白紙であっても氏名、学籍番号を明記し提出することとする。なお、記名等についてはボールペン・万年筆等、インクを用いた筆記用具で記入する。
- (8) 試験において不正行為のあった者については退出を求める。また、その後の処理については試験実施部長の指示に従う。

(試験受験上の不正行為)

第8条 事情聴取の結果、不正行為の事実が認定された場合には、その後の受験を停止し、当該学期の全ての科目の受験を無効とする(評価は試験放棄の扱いとする)。ただし、事情を勘案して、既に受験した科目を無効にしないことができる。

- 2 不正行為を行った者は、学則第43条に基づく懲戒の対象とする。
- 3 不正行為を行った者は、その事実を全学に公示し、保証人(保護者)に連絡する。

(成績評価の基準)

第9条 成績評価の基準は次による。

100点	—	90点	④	}	合格
89点	—	80点	A		
79点	—	70点	B		
69点	—	60点	C		
59点	—	0点	D		
					不合格

- 2 不合格の科目については、再試験あるいは再履修により単位を修得しなければならない。
- 3 成績評価の基準に基づき、1単位あたりの成績評価の平均値をグレードポイントアベレージ(GPA)として示し利用する。なお、グレードポイントアベレージの取扱いに関する細則は、別に定める。

(単位制度)

第10条 授業科目の単位数は、学則第10条の定めに基づき、次の各号に掲げる基準によって計算する。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、本学が定める時間の授業をもって1単位とすることができる。
 - (3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前二号に規定する基準を考慮して本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

(進級要件)

第11条 第2年次から第3年次に進級するためには、次表に掲げる最低修得単位数を充足していなければならない。

学部学科	最低修得単位数
法 学 部 法 学 科	40単位
法 学 部 政 治 行 政 学 科	40単位
現代ビジネス学部現代ビジネス学科	40単位
経営情報学部経営情報学科	40単位
健康栄養学部管理栄養学科	40単位

- 2 第2年次留年となった者の履修は、当該年度の第2年次のものを適用し、所定の基準を充たさなければならない。また、第3年次に適用されている授業科目は、これを履修できない。

(卒業論文・卒業研究等)

第12条 学則第9条の定めに基づく卒業論文・卒業研究等の取扱いについては、次の各号による。

- (1) 卒業論文を作成する者は、第4年次に専門演習を履修し、担当教員の指導を受けるものとする。
- (2) 卒業論文の単位認定は、指導教員が論文審査にあたり、試問のうえ、可否の判定を行う。合格した論文の評価は、④(秀)、A(優)、B(良)、C(可)とする。
- (3) 卒業論文等を含む専門演習の履修登録は、第4年次生で卒業見込者が指定の期間に行うものとする。
- (4) 担当教員は、卒業論文等を作成するための基礎能力、及び履修要件の可否等について判断のうえ、専門演習の履修登録を許可する。
- (5) 卒業論文は、学科の指定した期日までに提出しなければならない。
- (6) 卒業論文には目次を付し、本文には頁数を記入するとともに、文献の引用についてはその出典を明記するものとする。
- (7) 卒業論文の表紙には、題名、指導教員名、提出者氏名(学部、学科、学籍番号)、提出年度を記入するものとする。
- (8) 卒業年次に卒業論文の履修登録を行い、その年度に提出できなかった場合又は提出したが所定の水準に達しなかった場合には、次年度において指導教員の許可を得られた者のみ、同じ専門演習を履修することができる。
- (9) 学部学科ごとの定めにより、卒業論文を卒業研究に替える場合には、事前に担当教員の許可を得なければならない。なお、卒業研究は、卒業論文と同等あるいはそれ以上の研究成果としなければならない。

(卒業要件)

第13条 卒業のためには、次の単位を修得していなければならない。

学部学科	卒業要件
法学部 法学科	必修科目及び選択必修科目を含め、総合基礎教育科目28単位以上、外国語教育科目8単位以上、専門教育科目88単位以上の、合計124単位以上を修得
法学部 政治行政学科	
現代ビジネス学部 現代ビジネス学科	
経営情報学部 経営情報学科	必修科目及び選択必修科目を含め、総合基礎教育科目20単位以上、外国語教育科目6単位以上、専門教育科目98単位以上の、合計124単位以上を修得
健康栄養学部 管理栄養学科	

2 法学部法学科、法学部政治行政学科、現代ビジネス学部現代ビジネス学科、経営情報学部経営情報学科の共通選択枠の取扱いについては、次による。

- (1) 専門教育科目の卒業要件単位88単位のうち、24単位については共通選択枠とし、総合基礎教育科目及び外国語教育科目の各卒業要件単位を超えて修得した授業科目の単位を含めることができる。
- (2) 共通選択枠には、他学科開設の専門教育科目を履修し修得した単位を、24単位を限度として含めることができる。なお、他学科学生の履修を認める科目は、教育効果を考慮のうえ当該科目を開設する学部・学科ごとに定める。ただし、専門教育科目において卒業論文等の作成など一定の学修成果を単位修得の要件とする演習科目については、原則として他の学科に所属する学生に対して履修を認めない。
- (3) 教職課程履修者については、教育職員免許状の取得を要件として、「教職に関する科目」を履修し修得した単位を、24単位を限度として共通選択枠に含めることができる。
- (4) 前3号の取扱いは、その何れか若しくは全てを組み合わせても、共通選択枠として定める24単位を超過することはできない。

(学部横断型副専攻)

第14条 学則第9条第2項の定めに基づき、学生は、自身の希望により、所属する学部学科における教育課程の学修のほか、本学の保証に基づき学生が所属する学部学科の分野以外の特定分野または特定課題に関する教育課程(以下、「学部横断型副専攻」という。)の学修活動(以下、「教育プログラム」という。)を加えることができる。

- 2 学部横断型副専攻の教育プログラムに関する教育課程に基づく教育課程表は、別に定める。
- 3 学部横断型副専攻の教育プログラムに掲げる要件を充足した者には、卒業時に本学が学修証明(Certificate)を発行する。学修証明に関する規則は、別に定める。

- 4 学部横断型副専攻の利用に際し他学科開設の専門教育科目の履修、および修得した単位の取扱いは、前条に定めるとおりとする。ただし、学部横断型副専攻の教育プログラムに定める専門演習については、利用者限り他学科開設科目の履修を認める。なお、教育効果に配慮し、他学科の専門演習を履修した場合、他の専門演習の履修および中途変更を認めない。
- 5 学部横断型副専攻の教育プログラムの利用を途中で取り止めた際の既修得単位の取扱いは、前条に定めるとおりとする。
- 6 学部横断型副専攻を利用する場合には、所定の登録手続を行わなければならない。
- 7 健康栄養学部管理栄養学科の学生は、学部横断型副専攻を利用することはできない。

(教職課程)

第15条 教育職員免許法(昭和24年5月31日)に基づき、本学に開設する学部学科に教職課程を置く。

- 2 教職課程履修規程は、別に定める。

(社会教育主事養成課程)

第16条 社会教育法(昭和24年6月10日)に基づき、法学部政治行政学科に社会教育主事養成課程を置く。

当該課程は、将来、社会教育主事となる資格を得るための所定の基礎資格を取得するために定められた必要単位を修得するための課程として開設する。

- 2 社会教育主事となる資格を得るための所定の基礎資格を得るためには、次の規定に従い科目を履修し、単位を修得しなければならない。なお、社会教育主事養成課程の充当科目は、法学部政治行政学科の専門教育科目として開設する。

科 目 (法令上の科目)	要件 単位	相 当 科 目 (本学における開講科目)	配当 年次	開講 時期	単位	備 考
生涯学習概論	4	生涯学習概論Ⅰ	1年	前期	2	社会教育主事養成課程必修
		生涯学習概論Ⅱ	1年	後期	2	社会教育主事養成課程必修
社会教育計画	4	社会教育計画論Ⅰ	2年	前期	2	社会教育主事養成課程必修
		社会教育計画論Ⅱ	2年	後期	2	社会教育主事養成課程必修
社会教育演習 社会教育実習 社会教育課題研究	4	社会教育演習	3年	通年	4	社会教育主事養成課程必修
社会教育特講Ⅰ	12	現代社会と市民形成Ⅰ	2年	前期	2	社会教育主事養成課程必修
		現代社会と市民形成Ⅱ	2年	後期	2	社会教育主事養成課程必修
社会教育特講Ⅱ		地域おこしと生涯学習	2年	前期	2	社会教育主事養成課程必修
		生涯学習施設論	2年	後期	2	社会教育主事養成課程必修
社会教育特講Ⅲ		教育行政学Ⅰ	3年	前期	2	社会教育主事養成課程では 4単位以上を選択必修
		教育行政学Ⅱ	3年	後期	2	
		都 市 政 策	3年	通年	4	
		地 域 社 会 学	2年	通年	4	
		自 治 体 行 政 学	2年	前期	4	
		地 域 政 治 論	2年	前期	4	

(管理栄養士養成課程)

第17条 健康栄養学部管理栄養学科を卒業し、管理栄養士国家試験の受験資格を得るためには、栄養士法(昭和22年12月29日)、栄養士法施行令、および栄養士法施行規則の定めに基づき、別に定める管理栄養士養成課程並びに栄養士養成課程履修規程に従い科目を履修し、単位を修得しなければならない。

(栄養士養成課程)

第18条 健康栄養学部管理栄養学科を卒業し、栄養士の資格を得るためには、栄養士法(昭和22年12月29日)、栄養士法施行令、および栄養士法施行規則の定めに基づき、別に定める管理栄養士養成課程並びに栄養士養成課程履修規程に従い科目を履修し、単位を修得しなければならない。

(長期履修学生)

第19条 学則第59条の4の定めに基づく長期履修学生の履修に関しては、別に定めるところを除き本規程を準用する。

(準用規程)

第20条 研究生、特別聴講学生、科目等履修生、聴講生の履修に関しては、別に定めるところを除き本規程を準用する。

(規程の改廃)

第21条 この規程の改廃は、カリキュラム委員会の議を経て合同教授会の承認を得なければならない。

(雑 則)

第22条 国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科、並びにスポーツ科学部スポーツ科学科の履修規程は、別に定める。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

- (1) 従前の山梨学院大学履修規程(昭和53年4月1日制定)は、これを廃止する。
- (2) 第14条に定める学部横断型副専攻に関する規定は、平成24年度入学生より適用する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

- (1) この規程の名称変更に伴う適用範囲は、施行日以降に対象学部(に在籍する)の全学年とする。
- (2) 第2条及び第6条に定める現代ビジネス学部現代ビジネス学科に係る改正規定は平成27年度入学生より適用し、平成26年度以前に入学した者の履修等に係る経過措置は、別に定める。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

山梨学院大学法学部・現代ビジネス学部・経営情報学部・健康栄養学部履修規程新旧比較対照表

(傍線部分は改正箇所)

新	旧
<p>(雑 則) 第22条 国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科、<u>並びにスポーツ科学部スポーツ科学科</u>の履修規程は、別に定める。</p> <p>附 則 この規程は、<u>平成28年4月1日</u>から施行する。</p>	<p>(雑 則) 第22条 国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科の履修規程は、別に定める。</p> <p>附 則 この規程は、<u>平成27年4月1日</u>から施行する。</p>

予 定 時 間 割 (前 期)

	月 曜 日	火 曜 日	水 曜 日	木 曜 日	金 曜 日	備 考
1	<ul style="list-style-type: none"> ◎競技スポーツ演習1 (マネジメント) ◎競技スポーツ演習4 (体力) ◎生涯スポーツ演習1 (スポーツプロモーション) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎競技スポーツ戦術論 ◎競技スポーツ傷害論 ◎現代スポーツ論 	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ史 ○スポーツ心理学 ◎競技スポーツトレーニング論 ◎スポーツビジネス論 ◎健康体力論 	<ul style="list-style-type: none"> ◆経済学I ◎競技スポーツ演習3 (ゲーム分析) ◎生涯スポーツ演習2 (スポーツマネジメント) ◎生涯スポーツ演習3 (スポーツビジネス) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自然の探求I ◎体育科内容・指導論2 (体育実技) ※教育史 	<ul style="list-style-type: none"> ◆総合基礎教育科目 ★外国語教育科目 英語・日本語：週2回 ○共通科目 ◎コース科目
2	<ul style="list-style-type: none"> ◎競技スポーツ演習2 (バイオメカニクス) ◎生涯スポーツ演習5 (高齢者・要介護者のスポーツ活動) ◎生涯スポーツ演習6 (野外活動・教育) 	<ul style="list-style-type: none"> ○実技実習a1 (トレーニング/体つくり運動) ○実技実習a5 (陸上競技：長距離) ○実技実習b5 (バレーボール) ◎競技スポーツ体力論 ◎障がい者スポーツ論 ◎生涯スポーツ政策論 	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ基礎演習 ◎スポーツコミュニケーション論 ◎子どもスポーツ論 ◎スポーツ英語a1 	<ul style="list-style-type: none"> ◆日本の古典の世界I ◆平和学I ○スポーツキャリア形成 ◎競技スポーツ演習5 (心理) ◎競技スポーツ演習6 (傷害) ◎生涯スポーツ演習4 (子どものスポーツ活動) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校と子どもI ◎スポーツ専門演習1 ※子どもの発達と社会I 	<ul style="list-style-type: none"> ◎キャリア形成科目 ※教職専門科目 数値：履修年次 集中授業： ○実技実習a7 (スケート) ○実技実習d1 (野外活動：キャンプ) ○実技実習d2 (野外活動：水辺) ◎生涯スポーツ演習7 (健康運動指導等研修)
3	<ul style="list-style-type: none"> ◆異文化コミュニケーション ○コーチング論 (運動学、運動方法を含む) ◎保健体育科教育法1 (体育) ◎スポーツ英語b1 	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ経営学 ○スポーツ傷害論 ◎競技スポーツ情報戦略論 ◎レクリエーション論 ◎スポーツ英語b4 	<ul style="list-style-type: none"> ◆現代日本文化と東アジアI ◆観光・ホスピタリティ概論 ○実技実習a2 (ダンス) ○実技実習a4 (陸上競技：短距離・跳躍・投てき) ○実技実習b1 (バスケットボール) ○実技実習b7 (ソフトボール) ◎種目別コーチング演習3 (水泳) ◎種目別コーチング演習6 (サッカー) ◎種目別コーチング演習12 (レスリング) 	<ul style="list-style-type: none"> ○実技実習a6 (水泳・水中運動) ○実技実習b2 (サッカー) ○実技実習c1 (柔道) ○実技実習c2 (レスリング) ◎種目別コーチング演習1 (陸上競技：短距離・障害) ◎種目別コーチング演習10 (ソフトボール) ◎種目別コーチング演習13 (空手道) ※生徒指導・教育相談 	<ul style="list-style-type: none"> ◆人間と科学I ◆青年と社会 ◎スポーツ専門演習2 ※教職概論 	<ul style="list-style-type: none"> ○実技実習d2 (野外活動：水辺) ◎生涯スポーツ演習7 (健康運動指導等研修)
4	<ul style="list-style-type: none"> ★英語Ⅲ ★日本語Ⅲ (外国人留学生対象) ◎介護等体験実習 (事前事後指導を含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ★英語Ⅲ ★日本語Ⅲ (外国人留学生対象) ◎種目別コーチング演習2 (陸上競技：長距離・駅伝) ◎種目別コーチング演習5 (バスケットボール) ◎種目別コーチング演習8 (ホッケー) ◎種目別コーチング演習11 (柔道) 	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ医学 ○実技実習a3 (器械運動) ○実技実習b6 (テニス) ◎競技スポーツ栄養論 ◎学校保健学 (小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆宗教と人間I ◆生物と環境I ◆心理学I ◎種目別コーチング演習4 (スケート) ◎種目別コーチング演習7 (ラグビー) ◎種目別コーチング演習9 (バレーボール) ◎スポーツ英語a3 ※特別活動論 	<ul style="list-style-type: none"> ◎体育科内容・指導論1 (体育理論) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎キャリア形成科目 ※教職専門科目 数値：履修年次
5	<ul style="list-style-type: none"> ★英語I ★日本語I (外国人留学生対象) 	<ul style="list-style-type: none"> ★英語I ★日本語I (外国人留学生対象) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆音楽と文化I 	<ul style="list-style-type: none"> ◆教育と社会I 	<ul style="list-style-type: none"> ※教育実習研修 	<ul style="list-style-type: none"> ◎キャリア形成科目 ※教職専門科目 数値：履修年次

予 定 時 間 割 (後 期)

	月 曜 日	火 曜 日	水 曜 日	木 曜 日	金 曜 日	備 考
1	◎競技スポーツサポート演習1 (マネジメント) ◎競技スポーツサポート演習4 (体力) ◎生涯スポーツサポート演習1 (スポーツプロモーション)	◆法学 (日本国憲法) ○スポーツ栄養学 ◎障がい者競技スポーツ論 ◎生涯スポーツマネジメント論	○スポーツ社会学 ○スポーツバイオメカニクス (機能解剖学を含む) ◎競技スポーツマネジメント論 ◎高齢者スポーツ論 (要介護者を含む)	◆経済学Ⅱ ○体力論 ◎競技スポーツサポート演習3 (戦術・ゲーム分析) ◎生涯スポーツサポート演習2 (スポーツマーケティング) ◎生涯スポーツサポート演習5 (障がい者スポーツ)	◆自然の探求Ⅱ ○情報処理 (統計を含む) ※道德教育指導論	◆ 総合基礎教育科目 ★ 外国語教育科目 英語・日本語：週2回 ○ 共通科目 ◎ コース科目 ◎ キャリア形成科目 ※ 教職専門科目
2	◎競技スポーツサポート演習2 (バイオメカニクス) ◎生涯スポーツサポート演習4 (高齢者スポーツ) ◎生涯スポーツサポート演習6 (野外活動・教育)	○実技実習 a 1 (トレーニング/体づくり運動) ○実技実習 a 5 (陸上競技：長距離) ○実技実習 b 3 (ラグビー) ○実技実習 b 5 (バレーボール) ◎競技スポーツコーチング論	○スポーツ基礎演習 ◎競技スポーツ心理論 ◎スポーツマーケティング論 ◎スポーツ英語 a 2	◆日本の古典の世界Ⅱ ◆平和学Ⅱ ○スポーツキャリア形成 ◎競技スポーツサポート演習5 (心理) ◎競技スポーツサポート演習6 (傷害) ◎生涯スポーツサポート演習3 (子どもスポーツ)	◆学校と子どもⅡ ◎スポーツ専門演習1 ※子どもの発達と社会Ⅱ	数値：履修年次 集中授業： ○実技実習 d 3 (野外活動：雪上)
3	○スポーツ生理学 ◎健康心理論 ◎保健体育科指導論 ◎スポーツ英語 b 2	○スポーツ教育論 ○野外活動・教育論 ◎競技スポーツ技術論 ◎生涯スポーツプロモーション論 ◎スポーツ英語 b 3	◆現代日本文化と東アジアⅡ ○実技実習 a 2 (ダンス) ○実技実習 a 4 (陸上競技：短距離・跳躍・投てき) ○実技実習 b 1 (バスケットボール) ○実技実習 b 7 (ソフトボール) ○実技実習 c 3 (空手道) ◎種目別コーチング演習3 (水泳) ◎種目別コーチング演習6 (サッカー) ◎種目別コーチング演習12 (レスリング) ※教育方法論	○実技実習 a 6 (水泳・水中運動) ○実技実習 b 2 (サッカー) ○実技実習 b 4 (ホッケー) ○実技実習 c 1 (柔道) ◎種目別コーチング演習1 (陸上競技：短距離・障害) ◎種目別コーチング演習10 (ソフトボール) ◎種目別コーチング演習13 (空手道) ※進路指導論	◆人間と科学Ⅱ ◆観光と自然保護 ◆生活世界の探究 ◎スポーツ専門演習2 ※教育課程論	
4	★英語Ⅳ ★日本語Ⅳ (外国人留学生対象)	★英語Ⅳ ★日本語Ⅳ (外国人留学生対象) ◎種目別コーチング演習2 (陸上競技：長距離・駅伝) ◎種目別コーチング演習5 (バスケットボール) ◎種目別コーチング演習8 (ホッケー) ◎種目別コーチング演習11 (柔道)	◆富士山と観光 ○スポーツ哲学 (体育原理を含む) ○実技実習 a 3 (器械運動) ◎保健体育科教育法2 (保健) ◎衛生学 (公衆衛生学を含む)	◆宗教と人間Ⅱ ◆生物と環境Ⅱ ◆食生活と健康 ◆心理学Ⅱ ◎種目別コーチング演習4 (スケート) ◎種目別コーチング演習7 (ラグビー) ◎種目別コーチング演習9 (バレーボール) ◎スポーツ英語 a 4	◎保健科内容・指導論	
5	★英語Ⅱ ★日本語Ⅱ (外国人留学生対象)	★英語Ⅱ ★日本語Ⅱ (外国人留学生対象)	◆音楽と文化Ⅱ	◆教育と社会Ⅱ	※教職実践演習 (中・高)	

法学部・現代ビジネス学部・経営情報学部・健康栄養学部・スポーツ科学部のグレード・ポイント・アベレージの取扱いに関する細則

(制定：平成24年4月1日)

(成績評価の基準に対する成績の表示およびG P)

第 1 条 成績評価の基準に対する成績の表示およびグレード・ポイント（以下、「G P」という。）は、次のとおりとする。

区分	評価	成績評価基準	G P	評 価 内 容 (英文表記)
合 格	④	100～90 点	4.0	特に優れている (Excellent)
	A	89～80 点	3.0	優れている (Very Good)
	B	79～70 点	2.0	妥当と認められる (Good)
	C	69～60 点	1.0	合格と認められる (Satisfactory)
不合格	D	59 点以下	0.0	合格と認められる最低限の成績に達していない (Failure)
G P 対象外	R	単位認定科目	—	転編入や留学などにより他大学等で修得した科目を本学の単位として認定 (Recognition)
	W	履修中止	—	所定の手続を経て履修を中止 (Withdrawal)

(G P Aの算出期間)

第 2 条 グレード・ポイント・アベレージ（以下、「G P A」という。）は、在学中を累積するもの（以下、「累積G P A」という。）と、年度あるいは学期ごとに算出を行うもの（以下、「年度G P A」、あるいは「学期G P A」という。）とする。

(G P Aの算出方法)

第 3 条 G P Aの算出方法は、次のとおりとする。

$$\frac{(4.0 \times \text{④の修得単位数}) + (3.0 \times \text{Aの修得単位数}) + (2.0 \times \text{Bの修得単位数}) + (1.0 \times \text{Cの修得単位数})}{\text{総履修登録単位数 (「D」の単位数を含む。)}}$$

- 2 累積G P Aを算出する場合には、第1項に掲げる総履修登録単位数には、不合格科目（D評価）を再履修し合格の評価を得た場合、および再履修の結果再びD評価であった場合、それぞれ再履修前のD評価については算入しない。
- 3 年度G P Aあるいは学期G P Aを算出する場合には、第1項に掲げる総履修登録単位数には、当該期間の不合格科目（D評価）を算入する。
- 4 G P Aは、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位までの数値で算出し、表記する。
- 5 G P Aの算出に際しては、卒業要件単位に参入しない科目を含まない。
- 6 前項に定めるもののほか、教育指導効果を考慮して、一部の科目を含まないことができる。

(G P Aの用途)

第 4 条 G P Aは、履修および就学指導、その他学生指導に必要な場合に利用する。

(G P Aの表示)

第 5 条 G P Aは、成績通知書および成績証明書に表示する。

(細則の改廃)

第 6 条 この細則の改廃は、カリキュラム委員会の議を経て合同教授会の承認を得なければならない。

(雑 則)

第 7 条 国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科のグレード・ポイント・アベレージの取扱いに関する細則は、別に定める。

附 則

この細則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成27年4月1日から施行する。

- (1) この細則の名称変更に伴う適用範囲は、施行日以降に対象学部在籍する全学年とする。

附 則

この細則は、平成28年4月1日から施行する。

- (1) この細則の名称変更に伴う適用範囲は、施行日以降に対象学部在籍する全学年とする。

法学部・現代ビジネス学部・経営情報学部・健康栄養学部・スポーツ
科学部のグレード・ポイント・アベレージの取扱いに関する細則

(傍線部分は改正箇所)

新	旧
<p>法学部・現代ビジネス学部・経営情報学部・健康栄養学部・<u>スポーツ科学部</u>のグレード・ポイント・アベレージの取扱いに関する細則</p> <p>附 則 この細則は、平成28年4月1日から施行する。 <u>(1) この細則の名称変更に伴う適用範囲は、施行日以降に対象学部</u>に在籍する全学年とする。</p>	<p>法学部・現代ビジネス学部・経営情報学部・健康栄養学部のグレード・ポイント・アベレージの取扱いに関する細則</p> <p>附 則 この細則は、平成27年4月1日から施行する。</p>

履修モデルA-2 競技スポーツコース

競技スポーツの場で、「科学的サポートスタッフ（心技体）」として活躍を希望する人

科目区分		卒業要件単位数		第1年次（40単位）		第2年次（40単位）		第3年次（40単位）		第4年次（44単位）		修得単位数			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
総合基礎教育科目	基幹・基礎 2以上	20以上： 選択必修	20 以上	人間と科学Ⅰ	人間と科学Ⅱ							4	20		
	人間・文化 2以上			日本の古典の世界	日本の古典の世界							4			
	国際・社会 2以上					現代日本文化と東アジアⅠ	現代日本文化と東アジアⅡ					4			
	環境・科学 2以上			自然の探求Ⅰ	自然の探求Ⅱ							4			
	教育・社会 2以上					心理学Ⅰ	心理学Ⅱ					4			
外国語教育科目		8：必修	8	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ					8	8		
共通科目	A群	スポーツ基礎演習	4：必修	スポーツ基礎演習	スポーツ基礎演習							4	40		
		スポーツキャリア形成	4：必修			スポーツキャリア形成	スポーツキャリア形成					4			
	B群：人文社会系		10以上： 選択必修	36 以上	スポーツ心理学 コーチング論	スポーツ教育論	スポーツ経営学	野外活動・教育論						10	
	C群：自然系		10以上： 選択必修		スポーツ傷害論	体力論 スポーツ生理学 情報処理	スポーツ医学	スポーツバイオメカニクス スポーツ栄養学						14	
	D群： 実技系	a科目群 3以上	8以上： 選択必修		トレーニング/体づくり運動		水泳・水中運動	陸上競技：長距離						3	
		b科目群 3以上					バスケットボール	バレーボール	サッカー					3	
		c科目群 1以上					柔道							1	
		d科目群 1以上				野外運動：キャンプ								1	
	共通	スポーツ専門演習 1・2	8：必修		26 以上					スポーツ専門演習1	スポーツ専門演習1	スポーツ専門演習2		スポーツ専門演習2	8
	主コース	a科目群	6以上： 選択必修					競技スポーツトレーニング論	競技スポーツコーチング論	スポーツ情報戦略論 スポーツコミュニケーション論	競技スポーツマネジメント論			障がい者競技スポーツ論	12
b科目群		6以上： 選択必修					競技スポーツ体力論	競技スポーツ心理論	競技スポーツ栄養論 競技スポーツ傷害論	競技スポーツ技術論	競技スポーツ戦術論		12		
c科目群		6以上： 選択必修					演習4（体力）		演習2（バイオメカニクス） 演習5（心理）				6		
他コース	a科目群	0以上：選択													
	b科目群	0以上：選択							障がい者スポーツ論		子どもスポーツ論	4			
	c科目群	0以上：選択													
キャリア形成科目	A群：コーチング系		6以上： 選択必修	6 以上					種目別コーチング演習（柔道）			4			
	B群：競技スポーツサポート系									演習2（バイオメカニクス） 演習5（体力）		演習4（心理）	6		
	C群：生涯スポーツサポート系														
	D群：教職（保健体育）系														
	E群：スポーツ英語系									スポーツ英語a1（会話）	スポーツ英語a2（会話）			4	
教職専門科目：教職に関する科目 （自由科目のため卒業要件に算入しない。）												（0）			
総計		124 以上		18 （0）	20 （0）	20 （0）	20 （0）	20 （0）	14 （0）	6 （0）	6 （0）	124 （0）			
				38 （0）		40 （0）		34 （0）		12 （0）					

履修モデルA-3 競技スポーツコース

競技スポーツの場で、「科学的サポートスタッフ（トレーナー）」として活躍を希望する人

科目区分		卒業要件単位数		第1年次（40単位）		第2年次（40単位）		第3年次（40単位）		第4年次（44単位）		修得単位数		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
総合基礎教育科目	基幹・基礎 2以上	20以上： 選択必修	20 以上	人間と科学Ⅰ	人間と科学Ⅱ							4	20	
	人間・文化 2以上			日本の古典と世界Ⅰ	日本の古典と世界Ⅱ									4
	国際・社会 2以上			異文化コミュニケーション										2
	環境・科学 2以上				富士山と観光		観光と自然保護							4
	教育・社会 2以上			心理学Ⅰ	心理学Ⅱ		食生活と健康							6
外国語教育科目		8：必修	8	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ					8	8	
共通科目	A群	スポーツ基礎演習	4：必修	スポーツ基礎演習								4	42	
		スポーツキャリア形成	4：必修			スポーツキャリア形成	スポーツキャリア形成					4		
	B群：人文社会系		10以上： 選択必修		コーチング論	スポーツ教育	スポーツ心理学	スポーツ社会学						12
	C群：自然系		10以上： 選択必修		スポーツ経営学		スポーツ史							
	D群： 実技系	a科目群 3以上	8以上： 選択必修	36 以上	スポーツ傷害論	スポーツ生理学	スポーツ医学	スポーツ栄養学						14
		b科目群 3以上			スポーツバイオメカニクス		体力論							
		c科目群 1以上			トレーニング/体づくり運動	水泳・水中運動	スケート							3
		d科目群 1以上			テニス	バスケットボール		ラグビー						3
						柔道						1		
									野外運動：キャンプ					1
専門教育科目	共通	スポーツ専門演習1・2	8：必修					スポーツ専門演習1	スポーツ専門演習1	スポーツ専門演習2	スポーツ専門演習2	8	40	
	主コース	a科目群	6以上： 選択必修				競技スポーツコーチング論	競技スポーツトレーニング論	競技スポーツマネジメント論	スポーツコミュニケーション論		12		
		b科目群	6以上： 選択必修			競技スポーツ傷害論	競技スポーツ栄養論	競技スポーツ体力論	競技スポーツ心理論		競技スポーツ技術論	10		
		c科目群	6以上： 選択必修			演習6（傷害）		演習2（バイオメカニクス）		演習5（心理） 演習4（体力）		8		
	他コース	a科目群	0以上：選択											
		b科目群	0以上：選択			子どもスポーツ論						2		
		c科目群	0以上：選択											
キャリア形成科目	A群：コーチング系		6以上： 選択必修	6 以上					種目別コーチング演習（水泳）			4	14	
	B群：競技スポーツサポート系									演習2（バイオメカニクス） 演習6（傷害）		演習4（体力）		6
	C群：生涯スポーツサポート系													
	D群：教職（保健体育）系													
	E群：スポーツ英語系									スポーツ英語b1（会話）	スポーツ英語b2（会話）			
教職専門科目：教職に関する科目 （自由科目のため卒業要件に算入しない。）												（0）		
総計		124 以上		20 （0）	20 （0）	18 （0）	21 （0）	15 （0）	16 （0）	8 （0）	6 （0）	124 （0）		
				40 （0）		39 （0）		31 （0）		14 （0）				

履修モデルA-4 競技スポーツコース

競技スポーツの場で、「マネジメントスタッフ」として活躍を希望する人／地方自治体等のスポーツ行政の場で「公務員」として活躍を希望する人

科目区分		卒業要件単位数	第1年次(40単位)		第2年次(40単位)		第3年次(40単位)		第4年次(44単位)		修得単位数			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
総合基礎教育科目	基幹・基礎 2以上	20以上: 選択必修	20以上	経済学Ⅰ	法学(日本国憲法)							4		
	人間・文化 2以上			音楽と文化Ⅰ	音楽と文化Ⅱ							4		
	国際・社会 2以上			平和学Ⅰ	平和学Ⅱ							4		
	環境・科学 2以上					観光・ホスピタリティ概論						2		
	教育・社会 2以上					教育と社会Ⅰ 青年と社会	教育と社会Ⅱ					6		
外国語教育科目		8:必修	8	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ					8	8	
専門教育科目	A群	スポーツ基礎演習	4:必修	スポーツ基礎演習	スポーツ基礎演習							4		
		スポーツキャリア形成	4:必修			スポーツキャリア形成	スポーツキャリア形成					4		
	B群:人文社会系		10以上: 選択必修	36以上	スポーツ史	スポーツ教育論	スポー心理学	スポーツ哲学					16	
					スポーツ経営学	スポーツ社会学	コーチング論	野外活動・教育論						
	C群:自然系		10以上: 選択必修		スポーツ医学	体力論 情報処理	スポーツ傷害論	スポーツ生理学 スポーツ栄養学						12
	D群: 実技系	a科目群 3以上	8以上: 選択必修		陸上競技:短・跳・投	陸上競技:長距離		水泳・水中運動						3
		b科目群 3以上				サッカー	バレーボール	ラグビー					3	
		c科目群 1以上						レスリング						1
		d科目群 1以上				野外運動:キャンプ								1
	共通	スポーツ専門演習1・2	8:必修						スポーツ専門演習1	スポーツ専門演習1	スポーツ専門演習2	スポーツ専門演習2		8
	主コース	a科目群	6以上: 選択必修					競技スポーツマネジメント論	スポーツコミュニケーション論 競技スポーツ情報戦略論	障がい者競技スポーツ論 競技スポーツコーチング論				10
		b科目群	6以上: 選択必修					競技スポーツ心理論	競技スポーツ体力論		競技スポーツ傷害論			6
		c科目群	6以上: 選択必修						演習1(マネジメント) 演習4(体力)		演習6(傷害) 演習5(心理)			8
	他コース	a科目群	0以上:選択					生涯スポーツ政策論	現代スポーツ論	生涯スポーツプロモーション論				6
b科目群		0以上:選択												
c科目群		0以上:選択												
キャリア形成科目	A群:コーチング系		6以上: 選択必修	6以上					種目別コーチング演習(バレーボール)			4		
	B群:競技スポーツサポート系									演習1(マネジメント)		演習5(心理)		4
	C群:生涯スポーツサポート系									演習2(マネジメント)				2
	D群:教職(保健体育)系													
	E群:スポーツ英語系									スポーツ英語b1(会話)	スポーツ英語b2(会話)			
教職専門科目:教職に関する科目 (自由科目のため卒業要件に算入しない。)												(0)		
総計		124以上			18 (0)	20 (0)	20 (0)	20 (0)	20 (0)	14 (0)	8 (0)	4 (0)	124 (0)	
					38 (0)		40 (0)		34 (0)		12 (0)			

履修モデルA-5 競技スポーツコース

学校体育・スポーツの場で、「指導者」として活躍を希望する人（中・高教諭一種免許状取得を希望する人）

科目区分		卒業要件単位数	第1年次（40単位）		第2年次（40単位）		第3年次（40単位）		第4年次（44単位）		修得単位数			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
総合基礎教育科目	基幹・基礎 2以上	20以上： 選択必修	20以上	人間と科学Ⅰ	法学							4		
	人間・文化 2以上			宗教と人間Ⅰ									2	
	国際・社会 2以上				平和学Ⅱ								2	
	環境・科学 2以上					生物と環境Ⅰ	生物と環境Ⅱ						4	
	教育・社会 2以上				教育と社会Ⅰ	教育と社会Ⅱ	学校と子どもⅠ	学校と子どもⅡ					8	
外国語教育科目		8：必修	8	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ					8		
共通科目	A群	スポーツ基礎演習	4：必修	スポーツ基礎演習	スポーツ基礎演習							4		
		スポーツキャリア形成	4：必修			スポーツキャリア形成	スポーツキャリア形成					4		
	B群：人文社会系		10以上： 選択必修	42以上	スポーツ史	スポーツ教育論	スポーツ心理学 コーチング論	スポーツ社会学					10	
	C群：自然系		10以上： 選択必修		スポーツ傷害論	スポーツ生理学 情報処理		体力論					10	
	D群： 実技系	a科目群 3以上	8以上： 選択必修		トレーニング/体づくり運動 器械運動	水泳・水中運動	陸上競技：短・跳・投 陸上競技：長距離		ダンス					6
		b科目群 3以上			バレーボール ソフトボール	サッカー ホッケー		バスケットボール					5	
		c科目群 1以上					柔道							1
		d科目群 1以上									野外運動：キャンプ	野外運動：雪上		
	共通	スポーツ専門演習 1・2	8：必修						スポーツ専門演習1	スポーツ専門演習1	スポーツ専門演習2	スポーツ専門演習2		8
	主コース	a科目群	6以上： 選択必修						競技スポーツコーチング論	競技スポーツトレーニング論	競技スポーツマネジメント論			6
b科目群		6以上： 選択必修				競技スポーツ体力論	競技スポーツ心理論		競技スポーツ技術論				6	
c科目群		6以上： 選択必修						演習2（バイオメカニクス） 演習4（体力）		演習5（心理）			6	
他コース	a科目群	0以上：選択												
	b科目群	0以上：選択												
	c科目群	0以上：選択												
キャリア形成科目	A群：コーチング系		6以上： 選択	28以上										
	B群：競技スポーツサポート系								演習2（バイオメカニクス） 演習4（体力） 演習5（心理）				6	
	C群：生涯スポーツサポート系													
	D群：教職（保健体育）系						保健体育科教育法1 体育科内容・指導論1	保健体育科教育法2	介護等体験実習 体育科内容・指導論2 学校保健学 衛生学	保健体育科指導論 保健科内容・指導論				18
	E群：スポーツ英語系								スポーツ英語a1（会話）	スポーツ英語a2（会話）				4
教職専門科目：教職に関する科目 （自由科目のため卒業要件に算入しない。）					教職概論 子どもの発達と社会Ⅰ 特別活動論 生徒指導・教育相談	子どもの発達と社会Ⅱ 教育課程論 教育方法論 進路指導論	教育史	道徳教育指導論	教育実習研修 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	教職実践演習（中・高）		(28)		
総計		124以上		20 (0)	20 (0)	20 (8)	20 (8)	19 (2)	19 (2)	4 (6)	2 (2)	124 (28)		
				40 (0)		40 (16)		38 (4)		6 (8)				

履修モデルA-6 競技スポーツコース
 スポーツ関連企業の中で、「企業人」として活躍を希望する人

科目区分		卒業要件単位数		第1年次(40単位)		第2年次(40単位)		第3年次(40単位)		第4年次(44単位)		修得単位数			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
総合基礎教育科目	基幹・基礎 2以上	20以上: 選択必修	20 以上	経済学Ⅰ	経済学Ⅱ		法学(日本国憲法)					6	20		
	人間・文化 2以上					音楽と文化Ⅰ						2			
	国際・社会 2以上			現代日本文化と東アジアⅠ	現代日本文化と東アジアⅡ							4			
	環境・科学 2以上			富士山と観光	観光・ホスピタリティ概論							4			
	教育・社会 2以上			食生活と健康		生活世界の探究						4			
外国語教育科目		8:必修	8	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ					8	8		
共通科目	A群	スポーツ基礎演習	4:必修	スポーツ基礎演習	スポーツ基礎演習							4	42		
		スポーツキャリア形成	4:必修			スポーツキャリア形成	スポーツキャリア形成					4			
	B群:人文社会系		10以上: 選択必修	36 以上	スポーツ経営学	スポーツ社会学	スポーツ史	野外活動・教育論						12	
	C群:自然系		10以上: 選択必修		スポーツ心理学		コーチング論								
	D群: 実技系		8以上: 選択必修		スポーツ医学	体力論		スポーツ生理学							14
					スポーツ傷害論	スポーツバイオメカニクス 情報処理		スポーツ栄養学							
					a科目群 3以上	陸上競技:短・跳・投	陸上競技:長距離	トレーニング/体づくり運動							3
					b科目群 3以上	テニス	サッカー		バレーボール						3
	c科目群 1以上		1以上				レスリング								1
					d科目群 1以上		1以上			野外運動:雪上					
専門教育科目	共通	スポーツ専門演習 1・2	8:必修						スポーツ専門演習1	スポーツ専門演習1	スポーツ専門演習2	スポーツ専門演習2	8	40	
	主コース	a科目群	6以上: 選択必修				スポーツコミュニケーション論	競技スポーツマネジメント論 競技スポーツコーチング論	競技スポーツ情報戦略論	障がい者競技スポーツ論					10
		b科目群	6以上: 選択必修					競技スポーツ体力論	競技スポーツ心理論	競技スポーツ傷害論	競技スポーツ栄養論		8		
		c科目群	6以上: 選択必修			演習1(マネジメント)		演習4(ゲーム分析) 演習5(心理)		演習6(傷害)			8		
	他コース	a科目群	0以上:選択			スポーツビジネス論		生涯スポーツ政策論	スポーツマーケティング論				6		
		b科目群	0以上:選択												
		c科目群	0以上:選択												
キャリア形成科目	A群:コーチング系		6以上: 選択必修	6 以上									14		
	B群:競技スポーツサポート系								演習1(マネジメント)		演習5(心理)			4	
	C群:生涯スポーツサポート系									演習2(マーケティング)					2
	D群:教職(保健体育)系														
	E群:スポーツ英語系									スポーツ英語a1(会話)	スポーツ英語a2(会話)	スポーツ英語b1(会話)		スポーツ英語b2(会話)	
教職専門科目:教職に関する科目 (自由科目のため卒業要件に算入しない。)													(0)		
総計		124 以上		18 (0)	22 (0)	20 (0)	20 (0)	14 (0)	14 (0)	8 (0)	8 (0)	124 (0)			
				40 (0)		40 (0)		28 (0)		16 (0)					

履修モデルB-1 生涯スポーツコース
生涯スポーツの場で、「指導者」として活躍することを希望する人

科目区分		卒業要件単位数		第1年次(40単位)		第2年次(40単位)		第3年次(40単位)		第4年次(44単位)		修得単位数			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
総合基礎教育科目	基幹・基礎 2以上	20以上: 選択必修	20以上	経済学Ⅰ	経済学Ⅱ							4	20		
	人間・文化 2以上					音楽と文化Ⅰ	音楽と文化Ⅱ					4			
	国際・社会 2以上			現代日本文化と東アジアⅠ	現代日本文化と東アジアⅡ							4			
	環境・科学 2以上					自然の探求Ⅰ	自然の探求Ⅱ					4			
	教育・社会 2以上					青年と社会	食生活と健康					4			
外国語教育科目		8:必修	8	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ					8	8		
共通科目	A群	スポーツ基礎演習	4:必修	スポーツ基礎演習	スポーツ基礎演習							4	42		
		スポーツキャリア形成	4:必修			スポーツキャリア形成	スポーツキャリア形成					4			
	B群:人文社会系		10以上: 選択必修	36以上	コーチング	スポーツ社会学	スポーツ心理学							14	
					スポーツ経営学	野外活動・教育論	スポーツ史	スポーツ教育論							
	C群:自然系		10以上: 選択必修		スポーツ医学	スポーツ生理学	体力論	スポーツ栄養学							12
					スポーツ傷害論	情報処理									
	D群: 実技系	a科目群 3以上	8以上: 選択必修		トレーニング/体づくり運動	水泳・水中運動		ダンス							3
		b科目群 3以上			テニス	サッカー		バレーボール							3
		c科目群 1以上						レスリング							1
		d科目群 1以上								野外運動:水辺					1
専門教育科目	共通	スポーツ専門演習1・2	8:必修						スポーツ専門演習1	スポーツ専門演習1	スポーツ専門演習2	スポーツ専門演習2	8	40	
	主コース	a科目群	6以上: 選択必修					生涯スポーツプロモーション論	生涯スポーツ政策論		現代スポーツ論	生涯スポーツマネジメント論	8		
		b科目群	6以上: 選択必修			障がい者スポーツ論	健康体力論	健康心理論					12		
		c科目群	6以上: 選択必修			レクリエーション論	子どもスポーツ論	高齢者スポーツ論		演習4(子どものスポーツ活動)	演習7(健康運動 研修)		8		
	他コース	a科目群	0以上:選択								スポーツコミュニケーション論		2		
		b科目群	0以上:選択												
		c科目群	0以上:選択						演習5(心理)				2		
キャリア形成科目	A群:コーチング系		6以上: 選択必修	6以上					種目別コーチング演習(サッカー)			4	14		
	B群:競技スポーツサポート系														
	C群:生涯スポーツサポート系										演習3(子どもスポーツ)			演習6(野外活動・教育)	6
	D群:教職(保健体育)										演習5(障がい者)				
	E群:スポーツ英語系									スポーツ英語a1(会話)	スポーツ英語a2(会話)				4
教職専門科目:教職に関する科目 (自由科目のため卒業要件に算入しない。)													(0)		
総計		124以上			18 (0)	18 (0)	21 (0)	18 (0)	19 (0)	14 (0)	10 (0)	6 (0)	124 (0)		
					36 (0)		39 (0)		33 (0)		16 (0)				

履修モデルB-2 生涯スポーツコース

生涯スポーツの場で、「科学的サポートスタッフ（心技体）」として活躍を希望する人

科目区分		卒業要件単位数		第1年次（40単位）		第2年次（40単位）		第3年次（40単位）		第4年次（44単位）		修得単位数				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
総合基礎教育科目	基幹・基礎 2以上	20以上： 選択必修	20 以上	人間と科学Ⅰ	人間と科学Ⅱ							4	20			
	人間・文化 2以上			日本の古典の世界	日本の古典の世界									4		
	国際・社会 2以上					現代日本文化と東アジアⅠ	現代日本文化と東アジアⅡ							4		
	環境・科学 2以上			自然の探求Ⅰ	自然の探求Ⅱ									4		
	教育・社会 2以上					心理学Ⅰ	心理学Ⅱ							4		
外国語教育科目		8：必修	8	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ					8	8			
共通科目	A群	スポーツ基礎演習	4：必修	スポーツ基礎演習	スポーツ基礎演習							4	44			
		スポーツキャリア形成	4：必修			スポーツキャリア形成						4				
	B群：人文社会系		10以上： 選択必修	36 以上	スポーツ心理学 コーチング論	スポーツ教育論	スポーツ経営学 スポーツ史	野外活動・教育論 スポーツ社会学						14		
	C群：自然系		10以上： 選択必修		スポーツ医学 スポーツ傷害論	体力論 スポーツ生理学 情報処理		スポーツバイオメカニクス スポーツ栄養学						14		
	D群： 実技系	a科目群 3以上	8以上： 選択必修		トレーニング/体づくり運動		水泳・水中運動	陸上競技：短・跳・投						3		
		b科目群 3以上			バスケットボール	バレーボール		サッカー				3				
		c科目群 1以上				空手道						1				
		d科目群 1以上						野外運動：キャンプ				1				
	専門教育科目	共通	スポーツ専門演習 1・2		8：必修					スポーツ専門演習1	スポーツ専門演習1	スポーツ専門演習2		スポーツ専門演習1	8	42
		主コース	a科目群		6以上： 選択必修			生涯スポーツ政策論		現代スポーツ論	生涯スポーツプロモーション 生涯スポーツマネジメント論				8	
b科目群			6以上： 選択必修				健康体力論 子どもスポーツ論	健康心理論 高齢者スポーツ論	障がい者スポーツ論		レクリエーション論		12			
c科目群			6以上： 選択必修						演習4(子どものスポーツ活動) 演習5(高齢者のスポーツ活動)		演習6(野外活動・教育) 演習7(健康運動指導等研修)		8			
他コース		a科目群	0以上：選択					スポーツコミュニケーション論	障がい者競技スポーツ論			4				
		b科目群	0以上：選択					競技スポーツ体力論	競技スポーツ心理論			4				
		c科目群	0以上：選択													
キャリア形成科目	A群：コーチング系		6以上： 選択必修	6 以上									10			
	B群：競技スポーツサポート系															
	C群：生涯スポーツサポート系									演習3(子どもスポーツ) 演習6(高齢者スポーツ)		演習5(障がい者スポーツ)		6		
	D群：教職(保健体育)系															
	E群：スポーツ英語系									スポーツ英語a1(会話)	スポーツ英語a2(会話)			4		
教職専門科目：教職に関する科目 (自由科目のため卒業要件に算入しない。)												(0)				
総計		124 以上			20 (0)	20 (0)	20 (0)	20 (0)	16 (0)	16 (0)	8 (0)	4 (0)	124 (0)			
					40 (0)	40 (0)	32 (0)	12 (0)								

履修モデルB-3 生涯スポーツコース

生涯スポーツの場で、「科学的サポートスタッフ（トレーナー）」として活躍を希望する人

科目区分		卒業要件単位数		第1年次（40単位）		第2年次（40単位）		第3年次（40単位）		第4年次（44単位）		修得単位数			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
総合基礎教育科目	基幹・基礎 2以上	20以上： 選択必修	20 以上	人間と科学Ⅰ	人間と科学Ⅱ							4	20		
	人間・文化 2以上					音楽と文化Ⅰ	音楽と文化Ⅱ					4			
	国際・社会 2以上			平和学Ⅰ										2	
	環境・科学 2以上					観光・ホスピタリティ概論	観光と自然保護							4	
	教育・社会 2以上			心理学Ⅰ	心理学Ⅱ		食生活と健康							6	
外国語教育科目		8：必修	8	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ					8	8		
共通科目	A群	スポーツ基礎演習	4：必修	スポーツ基礎演習	スポーツ基礎演習							4	40		
		スポーツキャリア形成	4：必修			スポーツキャリア形成	スポーツキャリア形成					4			
	B群：人文社会系		10以上： 選択必修	36 以上	スポーツ心理学 コーチング論	スポーツ教育論	スポーツ経営学	野外活動・教育論						10	
	C群：自然系		10以上： 選択必修		スポーツ傷害論 スポーツ医学	スポーツ生理学 スポーツバイオメカニクス 情報処理		スポーツ栄養学 体力論						14	
	D群： 実技系	a科目群 3以上	8以上： 選択必修		トレーニング/体づくり運動		水泳・水中運動	陸上競技：長距離						3	
		b科目群 3以上			サッカー	ラグビー		ホッケー				3			
		c科目群 1以上				空手道						1			
		d科目群 1以上								野外活動：水辺				1	
	共通	スポーツ専門演習 1・2	8：必修		26 以上					スポーツ専門演習1	スポーツ専門演習1	スポーツ専門演習2		スポーツ専門演習2	8
		a科目群	6以上： 選択必修					生涯スポーツ政策論		現代スポーツ論	生涯スポーツマネジメント論 生涯スポーツプロモーション論	スポーツビジネス論			10
b科目群			6以上： 選択必修					子どもスポーツ論	健康体力論	障がい者スポーツ論	健康心理論 高齢者スポーツ論	レクリエーション論		12	
			c科目群			6以上： 選択必修			演習4（子どものスポーツ活動）		演習5（高齢者のスポーツ活動） 演習6（野外活動・教育）			6	
他コース		a科目群	0以上：選択												
		b科目群	0以上：選択				競技スポーツ傷害論		競技スポーツ体力論				4		
	c科目群	0以上：選択					演習6（傷害）				2				
キャリア形成科目	A群：コーチング系	6以上： 選択必修	6 以上												
	B群：競技スポーツサポート系							演習4（体力） 演習6（傷害）				4			
	C群：生涯スポーツサポート系							演習4（高齢者スポーツ） 演習3（子どもスポーツ）			演習5（障がい者スポーツ）	6			
	D群：教職（保健体育）系														
	E群：スポーツ英語系								スポーツ英語b1（会話）	スポーツ英語b2（会話）			4		
教職専門科目：教職に関する科目 （自由科目のため卒業要件に算入しない。）													(0)		
総計		124 以上		20 (0)	18 (0)	19 (0)	20 (0)	17 (0)	20 (0)	6 (0)	4 (0)	124 (0)			
				38 (0)		39 (0)		37 (0)		10 (0)					

履修モデルB-4 生涯スポーツコース

生涯スポーツの場で、「マネジメントスタッフ」として活躍を希望する人／地方自治体等のスポーツ行政の場で、「公務員」として活躍を希望する人

科目区分		卒業要件単位数	第1年次(40単位)		第2年次(40単位)		第3年次(40単位)		第4年次(44単位)		修得単位数			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
総合基礎教育科目	基幹・基礎 2以上	20以上: 選択必修	20以上	人間と科学 I	法学(日本国憲法)							4		
	人間・文化 2以上			宗教と人間 I	宗教と人間 II							4		
	国際・社会 2以上			平和学 I	平和学 II							4		
	環境・科学 2以上					観光・ホスピタリティ概論						2		
	教育・社会 2以上					青年と社会 教育と社会 I	生活世界の探求					6		
外国語教育科目		8:必修	8	英語 I	英語 II	英語 III	英語 IV					8	8	
共通科目	A群	スポーツ基礎演習	4:必修	スポーツ基礎演習	スポーツ基礎演習							4		
		スポーツキャリア形成	4:必修			スポーツキャリア形成	スポーツキャリア形成					4		
	B群:人文社会系		10以上: 選択必修	36以上	スポーツ史	スポーツ教育論	スポー心理学	スポーツ哲学					16	
					スポーツ経営学	スポーツ社会学	コーチング論	野外活動・教育論						
	C群:自然系		10以上: 選択必修		スポーツ医学	体力論 情報処理	スポーツ傷害論	スポーツ生理学 スポーツ栄養学						12
	D群: 実技系	a科目群 2以上	8以上: 選択必修		トレーニング/体づくり運動		水泳・水中運動	陸上競技:長距離						3
		b科目群 3以上			ソフトボール	バスケットボール	テニス						3	
		c科目群 1以上						柔道					1	
		d科目群 1以上				野外運動:雪上							1	
	共通	スポーツ専門演習1・2	8:必修						スポーツ専門演習1	スポーツ専門演習1	スポーツ専門演習2	スポーツ専門演習1		8
主コース	a科目群	6以上: 選択必修				生涯スポーツ政策論	生涯スポーツプロモーション論	スポーツビジネス論	生涯スポーツマネジメント論 スポーツマーケティング論	現代スポーツ論			12	
	b科目群	6以上: 選択必修						子どもスポーツ論 レクリエーション論	健康心理論 高齢者スポーツ論	健康体力論 障がい者スポーツ論			12	
	c科目群	6以上: 選択必修					演習1(プロモーション) 演習2(マネジメント)		演習3(ビジネス)			6		
他コース	a科目群	0以上:選択					競技スポーツマネジメント論					2		
	b科目群	0以上:選択												
	c科目群	0以上:選択												
キャリア形成科目	A群:コーチング系		6以上: 選択必修	6以上										
	B群:競技スポーツサポート系								競技スポーツマネジメント				2	
	C群:生涯スポーツサポート系									演習1(プロモーション) 演習6(野外活動・教育)		演習2(マーケティング)		6
	D群:教職(保健体育)系													
	E群:スポーツ英語系									スポーツ英語b1(会話)	スポーツ英語b2(会話)			4
教職専門科目:教職に関する科目 (自由科目のため卒業要件に算入しない。)												(0)		
総計		124以上			18 (0)	20 (0)	20 (0)	20 (0)	14 (0)	18 (0)	10 (0)	4 (0)	124 (0)	
					38 (0)		40 (0)		32 (0)		14 (0)			

履修モデルB-5 生涯スポーツコース

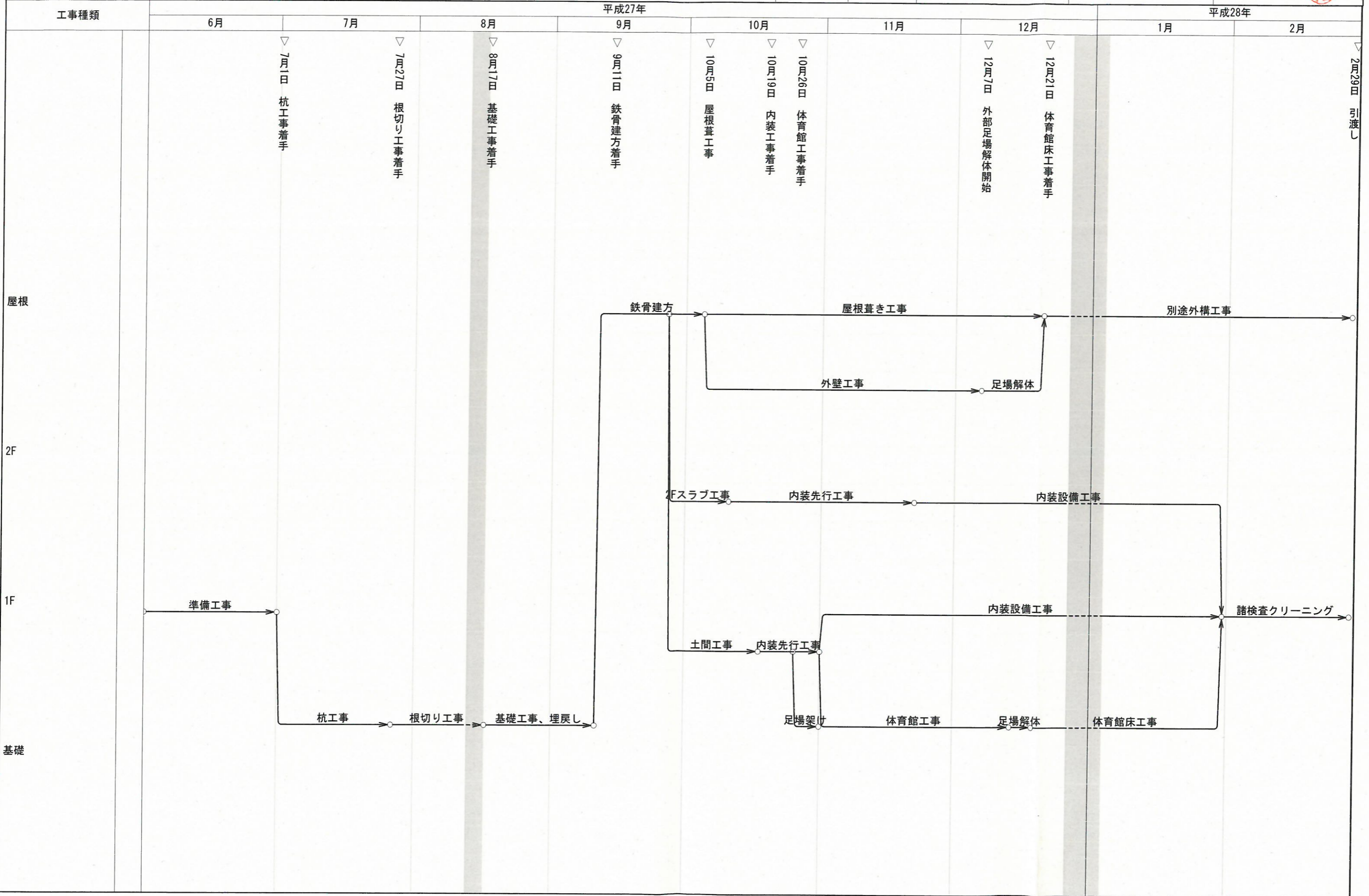
学校体育・スポーツの場で、「指導者」として活躍を希望する人（中・高教諭一種免許状取得を希望する人）

科目区分		卒業要件単位数		第1年次（40単位）		第2年次（40単位）		第3年次（40単位）		第4年次（44単位）		修得単位数		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
総合基礎教育科目	基幹・基礎 2以上	20以上： 選択必修	20以上	人間と科学Ⅰ	法学							4	20	
	人間・文化 2以上			宗教と人間Ⅰ								2		
	国際・社会 2以上				平和学Ⅱ	異文化コミュニケーション						4		
	環境・科学 2以上						生物と環境Ⅱ					2		
	教育・社会 2以上			教育と社会Ⅰ	教育と社会Ⅱ	学校と子どもⅠ	学校と子どもⅡ					8		
外国語教育科目		8：必修	8	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ					8	8	
共通科目	A群	スポーツ基礎演習	4：必修	スポーツ基礎演習	スポーツ基礎演習							4	42	
		スポーツキャリア形成	4：必修			スポーツキャリア形成	スポーツキャリア形成					4		
	B群：人文社会系		10以上： 選択必修		スポーツ史	スポーツ教育論	コーチング論	スポーツ哲学						10
	C群：自然系		10以上： 選択必修		スポーツ傷害論	スポーツ生理学		スポーツ栄養学						10
	D群： 実技系	a科目群 3以上	8以上： 選択必修	42以上	トレーニング/体づくり運動 器械運動	水泳・水中運動	陸上競技：短・跳・投 陸上競技：長距離	ダンス						6
		b科目群 3以上			バレーボール	バスケットボール		ラグビー						5
		c科目群 1以上			ソフトボール	サッカー								1
		d科目群 1以上				柔道								2
	野外運動：キャンプ								野外運動：水辺					
	専門教育科目	コース科目	共通	スポーツ専門演習 1・2	8：必修				スポーツ専門演習1	スポーツ専門演習1	スポーツ専門演習2	スポーツ専門演習2		8
主コース			a科目群	6以上： 選択必修			現代スポーツ論	生涯スポーツプロモーション論	生涯スポーツ政策論				6	
			b科目群	6以上： 選択必修					子どもスポーツ論	健康体力論 健康心理論			6	
		c科目群	6以上： 選択必修					演習1（プロモーション） 演習4（子どもスポーツ）		演習6（野外活動・教育）		6		
他コース		a科目群	0以上：選択											
		b科目群	0以上：選択											
		c科目群	0以上：選択											
キャリア形成科目	A群：コーチング系	6以上： 選択	28以上										28	
	B群：競技スポーツサポート系													
	C群：生涯スポーツサポート系									演習1（プロモーション） 演習3（子どもスポーツ） 演習6（野外活動・教育）				6
	D群：教職（保健体育）系					保健体育科教育法1 体育科内容・指導論1	保健体育科教育法2	介護等体験実習 体育科内容・指導論2 学校保健学 衛生学	保健体育科指導論 保健科内容・指導論					18
	E群：スポーツ英語系								スポーツ英語b1（会話）	スポーツ英語b2（会話）				4
教職専門科目：教職に関する科目 （自由科目のため卒業要件に算入しない。）					教職概論 子どもの発達と社会Ⅰ 特別活動論 生徒指導・教育相談	子どもの発達と社会Ⅱ 教育課程論 教育方法論 進路指導論	教育史	道徳教育指導論	教育実習研修 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	教職実践演習（中・高）		(28)	(28)	
総計		124以上		20 (0)	20 (0)	19 (8)	20 (8)	21 (2)	18 (2)	4 (6)	2 (2)	124 (28)		
				40 (0)		39 (16)		39 (4)		6 (8)				

履修モデルB-6 生涯スポーツコース
 スポーツ関連企業の中で、「企業人」として活躍を希望する人

科目区分		卒業要件単位数		第1年次(40単位)		第2年次(40単位)		第3年次(40単位)		第4年次(44単位)		修得単位数			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
総合基礎教育科目	基幹・基礎 2以上	20以上: 選択必修	20 以上	経済学Ⅰ	経済学Ⅱ		法学(日本国憲法)					6	20		
	人間・文化 2以上					音楽と文化Ⅰ						2			
	国際・社会 2以上			現代日本文化と東アジアⅠ	現代日本文化と東アジアⅡ							4			
	環境・科学 2以上				富士山と観光	観光・ホスピタリティ概論						4			
	教育・社会 2以上						生活世界の探究					4			
外国語教育科目		8:必修	8	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ					8	8		
共通科目	A群	スポーツ基礎演習	4:必修	スポーツ基礎演習	スポーツ基礎演習							4	40		
		スポーツキャリア形成	4:必修			スポーツキャリア形成	スポーツキャリア形成					4			
	B群:人文社会系		10以上: 選択必修	36 以上	スポーツ経営学	スポーツ社会学	スポーツ史	野外活動・教育論						14	
			10以上: 選択必修		スポーツ心理学	スポーツ教育論	コーチング論								
	C群:自然系				8以上: 選択必修	スポーツ医学	体力論		スポーツ生理学						10
			D群: 実技系			スポーツ傷害論	情報処理								3
	a科目群 3以上				8以上: 選択必修	トレーニング/体づくり運動	陸上競技:長距離	スケート							3
	b科目群 3以上					柔道	テニス	サッカー		ホッケー					1
	c科目群 1以上						野外運動:雪上								
	d科目群 1以上														
専門教育科目	共通	スポーツ専門演習1・2	8:必修						スポーツ専門演習1	スポーツ専門演習1	スポーツ専門演習2	スポーツ専門演習2	8	42	
	主コース	a科目群	6以上: 選択必修				生涯スポーツ政策論 現代スポーツ論	生涯スポーツプロモーション論	スポーツビジネス論	生涯スポーツマネジメント論 スポーツマーケティング論			12		
		b科目群	6以上: 選択必修			レクリエーション論	高齢者スポーツ論 健康心理論	子どもスポーツ論 障がい者スポーツ論		健康体力論		12			
		c科目群	6以上: 選択必修					演習1(プロモーション) 演習2(マネジメント)		演習3(ビジネス) 演習6(野外活動・教育)		8			
	他コース	a科目群	0以上:選択					スポーツコミュニケーション論				2			
		b科目群	0以上:選択												
		c科目群	0以上:選択												
キャリア形成科目	A群:コーチング系		6以上: 選択必修	6 以上									14		
	B群:競技スポーツサポート系														
	C群:生涯スポーツサポート系									演習1(プロモーション) 演習2(マーケティング)		演習6(野外活動・教育)		6	
	D群:教職(保健体育)系														
	E群:スポーツ英語系									スポーツ英語a1(会話)	スポーツ英語a2(会話)	スポーツ英語b1(会話)		スポーツ英語b2(会話)	8
教職専門科目:教職に関する科目 (自由科目のため卒業要件に算入しない。)												(0)			
総計		124 以上		18 (0)	22 (0)	20 (0)	20 (0)	16 (0)	12 (0)	10 (0)	6 (0)	124 (0)			
				40 (0)		40 (0)		28 (0)		16 (0)		124 (0)			

No.	現場略称	工 事 名 称	工 程 表 名 称	作 成 年 月 日	2015年1月20日
		(仮称) 山梨学院大学 スポーツ科学部棟計画	工 事 総 合 工 程 表	変 更 年 月 日	



屋根

2F

1F

基礎

▽2月29日 引渡し

御見積書

学校法人 山梨学院 御中

下記の通りお見積り申し上げます。

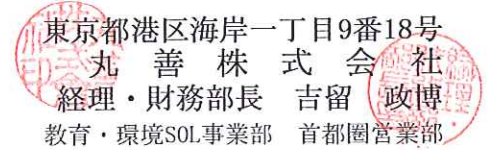
件名： 山梨学院大学スポーツ科学部（仮称）
設置に係る機械・器具・校具・備品 一式

納期： 別途お打合せ

納入場所： 別途お打合せ

支払条件： 別途お打合せ

見積有効期限： 3ヶ月



担当者：切替 隆介
電話 03-6367-6061
FAX 03-6367-6169



御見積金額： ¥175,589,958.- (消費税8%含む)

明細書

品名	仕様	数量	単価	金額(税込8%)	備考
【機械・器具・校具・備品】					
開設前年度(平成27年度)分					
■新設学部専用室機械・器具・校具・備品					
・機械・器具		79 点		128,042,101	
・校具		9 点		350,999	
・備品		11 点		422,713	
■他学部共用室機械・器具・校具・備品					
・機械・器具		158 点		33,157,132	
・校具		226 点		10,761,152	
・備品		58 点		2,855,861	
※別紙明細参照					
合計		541 点		¥175,589,958	

明細書

通しNO	棟名	階	系統	室名	NO	分類	品名	数量	単位	品番	メーカー	文科省区分	納入単価(税別)	納入金額(税別)	納入単価(税込)	納入金額(税込)	購入年次		
																	開設前年度	開設年度	開設次年度
1	スポーツ科学部棟	2F	トレーニング室/低酸素ルーム	トレーニング室	S1	専門備品	低酸素ルーム	1				機械・器具	29,786,364	29,786,364	32,169,273	32,169,273	○		
2	スポーツ科学部棟	2F	トレーニング室/低酸素ルーム	トレーニング室	S3	専門備品	トレッドミル	1		BM-2300	S&ME	機械・器具	5,434,740	5,434,740	5,869,519	5,869,519	○(1台)		
3	スポーツ科学部棟	2F	トレーニング室/低酸素ルーム	トレーニング室	T3	専門備品	トレッドミル制御装置	1		PH-203	S&ME	機械・器具	279,216	279,216	301,553	301,553	○(1台)		
4	スポーツ科学部棟	2F	トレーニング室/低酸素ルーム	トレーニング室	T3	専門備品	パルスオキシメータ (SpO2計)	2		n'オクサ300i	コニミタ	機械・器具	128,040	256,081	138,284	276,567	○		
5	スポーツ科学部棟	2F	トレーニング室/低酸素ルーム	トレーニング室	S5	専門備品	自転車エルゴメータ	1		828E	Monark	機械・器具	339,048	339,048	366,172	366,172	○		
6	スポーツ科学部棟	2F	トレーニング室/低酸素ルーム	トレーニング室	S1	専門備品	Birgate用自転車エルゴメータ (891E)	1		894E	Monark	機械・器具	1,495,800	1,495,800	1,615,464	1,615,464	○		
7	スポーツ科学部棟	2F	医学系(生理)	医学系実験実習室	S5	専門備品	呼吸代謝測定システム	1		170E-3AE-310s	計医科学	機械・器具	6,681,240	6,681,240	7,215,739	7,215,739	○		
8	スポーツ科学部棟	2F	医学系(生理)	医学系実験実習室	T2	専門備品	心拍入カユニット	1			計医科学	機械・器具	90,745	90,745	98,005	98,005	○		
9	スポーツ科学部棟	2F	医学系(生理)	医学系実験実習室	S8	専門備品	乳酸・血糖分析器	1		Biosen Cline	EKF	機械・器具	3,490,200	3,490,200	3,769,416	3,769,416	○		
10	スポーツ科学部棟	2F	医学系(生理)	医学系実験実習室	T3	専門備品	乳酸分析器(簡易型)	2		Lactate Pro Lt-1730	アークレイ	機械・器具	65,815	131,630	71,080	142,161	○		
11	スポーツ科学部棟	2F	医学系(生理)	医学系実験実習室	T3	専門備品	全自動血圧系	1		INDEX-i	キャノン(カワノ)ソリューションズ	機械・器具	274,230	274,230	296,168	296,168	○		
12	スポーツ科学部棟	2F	医学系(生理)	医学系実験実習室	S11	専門備品	肺機能計(スパイロメータ)	1		AS507	計医科学	機械・器具	678,096	678,096	732,344	732,344	○		
13	スポーツ科学部棟	2F	医学系(生理)	医学系実験実習室	GL1	専門備品	心拍系(polar)	15		M400	Polar	機械・器具	28,919	433,782	31,232	468,485	○		
14	スポーツ科学部棟	2F	医学系(生理)	医学系実験実習室	S11	専門備品	湿度計	1		SK-110TRH I I TYPE1	佐藤計量器製作所	機械・器具	28,919	28,919	31,232	31,232	○		
15	スポーツ科学部棟	2F	医学系(体力)	医学系実験実習室	T3	専門備品	デジタル身長計・座高計	1		I35368	NISHI	機械・器具	87,745	87,745	94,764	94,764	○		
16	スポーツ科学部棟	2F	医学系(体力)	医学系実験実習室	S14	専門備品	体重計	1		TK-11818	竹井機器	機械・器具	67,803	67,803	73,227	73,227	○		
17	スポーツ科学部棟	2F	医学系(体力)	医学系実験実習室	T3	専門備品	マルチン人体測定器	1		T. K. K1214b	竹井機器	機械・器具	87,745	87,745	94,764	94,764	○		
18	スポーツ科学部棟	2F	医学系(体力)	医学系実験実習室	T3	専門備品	皮下脂肪計	1		TK-11258	竹井機器	機械・器具	48,858	48,858	52,767	52,767	○		
19	スポーツ科学部棟	2F	医学系(体力)	医学系実験実習室	S16	専門備品	体組成分析器	1		Inbody720	Inbody	機械・器具	2,393,040	2,393,040	2,584,483	2,584,483	○		
20	スポーツ科学部棟	2F	医学系(体力)	医学系実験実習室	S21	専門備品	上記管理ソフト	1				機械・器具	149,565	149,565	161,530	161,530	○		
21	スポーツ科学部棟	2F	医学系(体力)	医学系実験実習室	T3	専門備品	データ管理専用パソコン	1				機械・器具	226,342	226,342	244,449	244,449	○		
22	スポーツ科学部棟	2F	医学系(体力)	医学系実験実習室	S31	専門備品	握力計	2		T. K. K5410	竹井機器	機械・器具	27,919	55,838	30,152	60,305	○		
23	スポーツ科学部棟	2F	医学系(体力)	医学系実験実習室	S32	専門備品	長座体前屈計	2		T. K. K5412	竹井機器	機械・器具	37,890	75,780	40,921	81,842	○		
24	スポーツ科学部棟	2F	医学系(体力)	医学系実験実習室	S33	専門備品	背筋力計	1		T. K. K5402	竹井機器	機械・器具	47,861	47,861	51,690	51,690	○		
25	スポーツ科学部棟	2F	医学系(体力)	医学系実験実習室	S34	専門備品	全身反応測定器	1		T. K. K5408	竹井機器	機械・器具	478,608	478,608	516,897	516,897	○		
26	スポーツ科学部棟	2F	医学系(体力)	医学系実験実習室	T1	専門備品	跳躍力測定器	1		PTS-102	DKH	機械・器具	344,000	344,000	371,519	371,519	○		
27	スポーツ科学部棟	2F	医学系(体力)	医学系実験実習室	T1	専門備品	跳躍力測定器用解析装置	1			DKH	機械・器具	224,348	224,348	242,295	242,295	○		
28	スポーツ科学部棟	2F	医学系(心理)	医学系実験実習室		専門備品	心拍変動測定器	1		TK-11244	竹井機器	機械・器具	84,762	84,762	91,543	91,543	○		
29	スポーツ科学部棟	2F	医学系(心理)	医学系実験実習室		専門備品	呼吸測定装置	1		TP-6	トヨフジ	機械・器具	332,068	332,068	358,633	358,633	○		
30	スポーツ科学部棟	2F	医学系(心理)	医学系実験実習室		専門備品	呼吸測定プログラム	1		WIN	トヨフジ	機械・器具	381,928	381,928	412,482	412,482	○		
31	スポーツ科学部棟	2F	医学系(心理)	医学系実験実習室		専門備品	体温36.5. Rバイオフィードバック装置	1		TP-14	トヨフジ	機械・器具	354,006	354,006	382,326	382,326	○		
32	スポーツ科学部棟	2F	医学系(心理)	医学系実験実習室	R8	専門備品	BI07プログラム	1		BI07プログラム	トヨフジ	機械・器具	381,928	381,928	412,482	412,482	○		
33	スポーツ科学部棟	2F	医学系(心理)	医学系実験実習室		専門備品	データ収集アダプタ	1		50354	トヨフジ	機械・器具	299,160	299,160	323,093	323,093	○		
34	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室		専門備品	3次元動作解析装置(バイコン)	1	式	バイコンシステム	DKH	機械・器具	32,614,144	32,614,144	35,223,275	35,223,275	○		
35	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室		専門備品	同上キャリブレーションキット	1		402983	DKH	機械・器具	247,281	247,281	267,063	267,063	○		
36	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室		専門備品	同上アクセサリキット	1		ACCKIT	DKH	機械・器具	269,217	269,217	290,754	290,754	○		
37	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室		専門備品	同上HASPプロテクトドングル	2		9936000	DKH	機械・器具	98,713	197,426	106,610	213,220	○		
38	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室		専門備品	同上データ処理装置	1		VPS	DKH	機械・器具	1,079,859	1,079,859	1,166,248	1,166,248	○		
39	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室	R2	専門備品	床反力計測システム	1		PTS-1960	DKH	機械・器具	17,922,873	17,922,873	19,356,702	19,356,702	○		
40	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室		専門備品	データ解析処理装置	1		PH-264	DKH	機械・器具	224,348	224,348	242,295	242,295	○		
41	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室		専門備品	靴入れ(4列6段)扉なし	2		SBX-46TSAW	コクヨ	備品	53,802	107,603	58,106	116,211	○		
42	スポーツ科学部棟	2F	コーチング系(情報分析)	情報分析室	R5	専門備品	パーソナルコンピュータ	1		XPS13 Graphio Pro	Deil	機械・器具	129,603	129,603	139,971	139,971	○		
43	スポーツ科学部棟	2F	コーチング系(情報分析)	情報分析室		専門備品	プリンター	1		LP-M720F	エプソン	機械・器具	94,944	94,944	102,539	102,539	○		
44	スポーツ科学部棟	2F	コーチング系(情報分析)	情報分析室		専門備品	液晶プロジェクター	1		EB-W28	エプソン	機械・器具	92,232	92,232	99,610	99,610	○		
45	スポーツ科学部棟	2F	コーチング系(情報分析)	情報分析室	R7	専門備品	テレビモニター	1		LC-50W20	シャープ	機械・器具	85,751	85,751	92,611	92,611	○		
46	スポーツ科学部棟	2F	コーチング系(情報分析)	情報分析室		専門備品	テレビモニタースタンド	1		PMC-1450	KIC	機械・器具	127,629	127,629	137,839	137,839	○		
47	スポーツ科学部棟	2F	コーチング系(情報分析)	情報分析室	R9	専門備品	ゲーム分析ソフト	6		スト-コード	フロッピーディスク	機械・器具	1,385,969	8,315,814	1,496,847	8,981,079	○		
48	スポーツ科学部棟	2F	コーチング系(情報分析)	情報分析室	R10	専門備品	ゲーム分析ソフト用PC	6		Macbook Pro	アップル	機械・器具	257,252	1,543,511	277,832	1,666,992	○		
49	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	情報分析室	F5	専門備品	作業机	2		DDC-189F-Z9W9	トーキ	備品	30,556	61,112	33,001	66,001	○		
50	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	情報分析室	F7b	専門備品	ホワイトボード	1		BBX-1809WW	トーキ	備品	39,349	39,349	42,497	42,497	○		
51	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	医学系実験実習室	F9	専門備品	作業机	6		DDC-189F-Z9W9	トーキ	備品	30,556	183,337	33,001	198,004	○		
52	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	医学系実験実習室	C3	専門備品	ホワイトボード	2		ERHP-FB100-Z9	トーキ	校具	39,349	78,698	42,497	84,993	○		
53	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	医学系実験実習室		専門備品	PC机	3		CZR147HA-W9W9	トーキ	機械・器具	30,466	91,399	32,904	98,711	○		
54	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	医学系実験実習室		専門備品	椅子	3		KF-330GS-W9Y3	トーキ	校具	28,672	86,015	30,965	92,896	○		
55	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	トレーニング室	C5	専門備品	作業机	2		DDC-189F-Z9W9	トーキ	校具	30,556	61,112	33,001	66,001	○		
56	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	トレーニング室	C3	専門備品	ホワイトボード	1		BBX-1809WW	トーキ	校具	39,349	39,349	42,497	42,497	○		
57	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	トレーニング室	C4	専門備品	冷蔵庫	1		SJ-PD27Y	シャープ	校具	59,826	59,826	64,612	64,612	○		
						専門品合計		99						119,273,901		128,815,813			

明 細 書

通しNo	棟名	階	系統	室名	No	分類	品名	数量	単位	品番	メーカー	文科省区分	納入単価(税別)	納入金額(税別)	納入単価(税込)	納入金額(税込)	購入年次		
																	開設前年度	開設年度	開設次年度
58	スポーツ科学部棟	1F	リハビリ系	リハビリ実習室	R2	共用備品	エクササイズベッド	6		SPR-1068P	酒井医療	機械・器具	56,835	341,008	61,381	368,289	○		
59	スポーツ科学部棟	1F	リハビリ系	リハビリ実習室	R4	共用備品	製氷機	1		CM60A	酒井医療	機械・器具	668,057	668,057	721,502	721,502	○		
60	スポーツ科学部棟	1F	リハビリ系	リハビリ実習室	R6	共用備品	エクササイズミラー (壁固定)	2		SPR-5130	酒井医療	機械・器具	161,530	323,060	174,453	348,905	○		
61	スポーツ科学部棟	1F	リハビリ系	リハビリ実習室		共用備品	ブライオボックスII	1		T6904D	酒井医療	機械・器具	31,409	31,409	33,921	33,921	○		
62	スポーツ科学部棟	1F	リハビリ系	リハビリ実習室	R9	共用備品	々	1		T6904A	酒井医療	機械・器具	33,403	33,403	36,075	36,075	○		
63	スポーツ科学部棟	1F	リハビリ系	リハビリ実習室	R10	共用備品	々	1		T6904B	酒井医療	機械・器具	38,388	38,388	41,459	41,459	○		
64	スポーツ科学部棟	1F	リハビリ系	リハビリ実習室	R6	共用備品	車椅子ビッグサイズ	1		KJP-4	酒井医療	機械・器具	156,545	156,545	169,068	169,068	○		
65	スポーツ科学部棟	1F	リハビリ系	リハビリ実習室	R9	共用備品	タンゴ スパインボードセット	1		B00D0XFPP4	ans	機械・器具	143,084	143,084	154,531	154,531	○		
66	スポーツ科学部棟	1F	リハビリ系	リハビリ実習室	R10	共用備品	四つ折りコンパクト担架	1		B00A32788M	ans	機械・器具	78,771	78,771	85,073	85,073	○		
67	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	更衣室	F5	共用備品	靴入れ(2列6段)扉なし	6		SBX-26TSAW	コクヨ	備品	35,937	215,625	38,812	232,875	○		
68	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	ブライオボックスII (30cm)	2		T6904A	NISHI	機械・器具	33,403	66,806	36,075	72,150	○		
69	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	ブライオボックスII (45cm)	2		T6904B	NISHI	機械・器具	38,388	76,777	41,459	82,919	○		
70	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	マット	10		AN0130	々	機械・器具	167,513	1,675,128	180,914	1,809,138	○		
71	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	鉄棒	1		AA200S05	々	機械・器具	304,116	304,116	328,445	328,445	○		
72	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	跳び箱	4		AL10300	々	機械・器具	169,507	678,028	183,068	732,270	○		
73	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	跳び箱運搬車	4		EKF535	々	機械・器具	77,774	311,095	83,996	335,983	○		
74	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	鏡	5		HD9022	々	機械・器具	194,435	972,173	209,989	1,049,946	○		
75	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	テレビモニター	1		LC-50W20	シャープ	機械・器具	84,754	84,754	91,534	91,534	○		
76	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	ブルーレイレコーダ	1		BD-T3700	シャープ	機械・器具	109,681	109,681	118,455	118,455	○		
77	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	バレボールの支柱	2		DE1015	々	機械・器具	348,985	697,970	376,904	753,808	○		
78	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	支柱カバー	2		DE1901	々	機械・器具	40,881	81,762	44,152	88,303	○		
79	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	ネット	2		DE8003	々	機械・器具	59,826	119,652	64,612	129,224	○		
80	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	ボール整理台	1		DK0111	々	機械・器具	129,623	129,623	139,993	139,993	○		
81	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	ボールかご	2		DK0600	々	機械・器具	27,919	55,838	30,152	60,305	○		
82	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	間仕切りネット	1		HA1310	々	機械・器具	618,202	618,202	667,658	667,658	○		
83	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	ホワイトボード	2				機械・器具	29,414	58,829	31,768	63,535	○		
84	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	スポーツカウンタ	1		KT-601	SEIKO	機械・器具	84,754	84,754	91,534	91,534	○		
85	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	得点板	2		DS0302	々	機械・器具	154,551	309,101	166,915	333,829	○		
86	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	審判台 (バレーボール)	2		DL1040	々	機械・器具	161,530	323,060	174,453	348,905	○		
87	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	床清掃用モップ+ラック	1			々	機械・器具	94,725	94,725	102,302	102,302	○		
88	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	スチール棚	1		9m x 0.9m x 1.8m		機械・器具	160,533	160,533	173,376	173,376	○		
89	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	製氷機	1		CM60A	酒井医療	機械・器具	658,086	658,086	710,733	710,733	○		
90	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	冷水器	1			日立	機械・器具	119,652	119,652	129,224	129,224	○		
91	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	靴入れ(4列6段)扉なし	4		SBX-46TSAW	コクヨ	備品	53,802	215,206	58,106	232,423	○		
92	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	AED	1		CU-SPI	CUメディカルシステム	備品	219,362	219,362	236,911	236,911	○		
93	スポーツ科学部棟		野外活動・教育系	野外活動	R10	共用備品	ベースキャンピング用テント(8-10人用)	10		マックスワイドドーム420	コーランマン	機械・器具	71,073	710,733	76,759	767,592	○		
94	スポーツ科学部棟		野外活動・教育系	野外活動		共用備品	山岳用テント(4-5人用)	10		ステラリッジテント4型	モンベル	機械・器具	47,386	473,862	51,177	511,771	○		
95	スポーツ科学部棟		野外活動・教育系	野外活動		共用備品	収納倉庫	1		4.5m x 1.8m	イカ	機械・器具	498,550	498,550	538,434	538,434	○		
96	スポーツ科学部棟		陸上競技系	陸上競技系	R8	共用備品	ブライオボックス	2		T6904A	NISHI	機械・器具	34,201	68,401	36,937	73,873	○		
97	スポーツ科学部棟		陸上競技系	陸上競技系		共用備品	ブライオボックス	2		T6904B	NISHI	機械・器具	39,186	78,372	42,321	84,642	○		
98	スポーツ科学部棟		陸上競技系	陸上競技系	R9	共用備品	ブライオボックス	2		T6905C	NISHI	機械・器具	44,371	88,742	47,921	95,841	○		
99	スポーツ科学部棟		陸上競技系	陸上競技系		共用備品	ラバーバーベル (28mmタイプ)	2		IIセット 10kgシャフト1本	NISHI	機械・器具	138,298	276,596	149,362	298,723	○		
100	スポーツ科学部棟		陸上競技系	陸上競技系		共用備品	プレートラックII	1		T1024B	NISHI	機械・器具	83,756	83,756	90,457	90,457	○		
101	スポーツ科学部棟		陸上競技系	陸上競技系	R6	共用備品	ダブルマンオーバースピード	2		T7429A	NISHI	機械・器具	28,417	56,835	30,691	61,381	○		
102	スポーツ科学部棟		陸上競技系	陸上競技系		共用備品	イーザーアップテント3x6m	1			ミズノ	機械・器具	189,449	189,449	204,605	204,605	○		
103	スポーツ科学部棟		陸上競技系	陸上競技系	R9	共用備品	光電管 Blower timing system	1			BROWER	機械・器具	388,869	388,869	419,979	419,979	○		
104	スポーツ科学部棟		陸上競技系	陸上競技系	R10	共用備品	スロープボード (走幅跳路切板)	1		T6905C	NISHI	機械・器具	40,881	40,881	44,152	44,152	○		
105	スポーツ科学部棟		陸上競技系	陸上競技系	R12	共用備品	収納倉庫	1		4.5m x 1.8m	イカ	機械・器具	498,550	498,550	538,434	538,434	○		
106	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室	C1	共用備品	インテグレートッドカメラ	4		AW-HE120w	パナソニック	機械・器具	1,058,920	4,235,681	1,143,634	4,574,535	○		
107	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室	C3	共用備品	機器収納ラック	1			パナソニック	機械・器具	3,540,000	3,540,000	3,823,200	3,823,200	○		
108	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室	C4	共用備品	P2カードレコーダ	4		AG-HPD24	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○		
109	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室	C5	共用備品	P2カードドライヴ	1		AU-XPDI	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○		
110	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室		共用備品	ブルーレイレコーダ	1		DMR-T300R	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○		
111	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室		共用備品	マルチビューワ	1	式	MV-1620HSA	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○		
112	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室		共用備品	電源制御ユニット	1		WU-L61	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○		
113	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室	C1	共用備品	HDMI/SDI変換機	3		HSDC200-A	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○		
114	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室	C2	共用備品	HDMIスプリッタ	1		HSP0102-3D	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○		
115	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室	C3	共用備品	スイッチングハブ	1		PN28080	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○		
116	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室	C4	共用備品	マルチタッチディスプレイ65型	1		TH-80LFB70J	パナソニック	機械・器具	744,000	744,000	803,520	803,520	○		

明細書

区分	棟名	階	系統	室名	NO	分類	品名	数量	単位	品番	メーカー	文科省区分	納入単価(税別)	納入金額(税別)	納入単価(税込)	納入金額(税込)	購入年次		
																	開設前年度	開設年度	開設次年度
	117	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室	C5	共用備品	上記専用スタンド	1	PDE-VI500L	パナソニック	機械・器具	106,690	106,690	115,225	115,225	○		
	118	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室		共用備品	SDI/HDMI変換器	1	SDHDC-200	パナソニック	機械・器具	133,611	133,611	144,300	144,300	○		
	119	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室		共用備品	カードレコーダコントローラ	1	式	パナソニック	機械・器具	1,435,824	1,435,824	1,550,690	1,550,690	○		
	120	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室		共用備品	カメラコントローラ	2	AW-RP50N	パナソニック	機械・器具	255,258	510,515	275,678	551,356	○		
	121	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室	C5	共用備品	ケーブル・雑材料	1			機械・器具	691,987	691,987	747,346	747,346	○		
	122	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室	C2	共用備品	ビデオプロジェクタ(5400 l m)	1	PT-EZ580J	パナソニック	機械・器具	1,077,800	1,077,800	1,164,024	1,164,024	○		
	123	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室	C3	共用備品	天吊り金具	1	ET-PKD120S+PKE300B	パナソニック	機械・器具	91,270	91,270	98,572	98,572	○		
	124	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室	C4	共用備品	HDMI受信機	1	COS-RS100HD-A	パナソニック	機械・器具	69,797	69,797	75,381	75,381	○		
	125	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室	C5	共用備品	110インチスクリーン	1	ES-WX110BR	パナソニック	機械・器具	484,700	484,700	523,476	523,476	○		
	126	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室	C6	共用備品	スクリーンボックス	1	KFBM-3000SW	パナソニック	機械・器具	107,687	107,687	116,302	116,302	○		
	127	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室		共用備品	天吊りスピーカ	2	WS-LA208	パナソニック	機械・器具	83,756	167,513	90,457	180,914	○		
	128	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室		共用備品	収容ワゴン	1		パナソニック	機械・器具	2,562,547	2,562,547	2,767,551	2,767,551	○		
	129	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室	C2	共用備品	デジタルミキサー		WR-DX002	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○		
	130	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室	C3	共用備品	ワイヤレスチューナー		WX-URS04	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○		
	131	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室	C4	共用備品	ブルーレイレコーダ		DMR	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○		
	132	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室	C5	共用備品	DVD/VHSレコーダ		HR-DV5	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○		
	133	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室	C7	共用備品	デジタルマルチスイッチャー		MSD-501	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○		
	134	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室		共用備品	デジタルアンプ		WP-DA112	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○		
	135	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室		共用備品	HDMI同軸ケーブル送信器		式 COS-TS100HD-A	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○		
	136	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室		共用備品	操作パネル			パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○		
	137	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室	E1	共用備品	制御I/Fユニット			パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○		
	138	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室	E2a1	共用備品	電源制御ユニット		WU-L61	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○		
	139	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室	E2a2	共用備品	ビデオプロジェクタ(3500 l m)	1	PT-CW331R	パナソニック	機械・器具	529,460	529,460	571,817	571,817	○		
	140	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室	E2a3	共用備品	プロジェクタカート	1	PJ-1	パナソニック	機械・器具	91,733	91,733	99,072	99,072	○		
	141	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室	E2b	共用備品	ブルーレイレコーダ	1	DMR	パナソニック	機械・器具	53,843	53,843	58,151	58,151	○		
	142	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室	E3	共用備品	100インチモバイルスクリーン	1	KPR-100V	パナソニック	機械・器具	94,725	94,725	102,302	102,302	○		
	143	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室	E4	共用備品	ワイヤレスマイク	3	WX-4100B	パナソニック	機械・器具	45,867	137,600	49,536	148,608	○		
	144	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室	E5	共用備品	ワイヤレスマイク ペンシル型	1	WX-4800	パナソニック	機械・器具	61,820	61,820	66,766	66,766	○		
	145	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	講義室	E7	共用備品	ケーブル・雑材料	1			機械・器具	153,553	153,553	165,838	165,838	○		
	146	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	ラウンジ	F1	共用備品	テーブル	19	TNV-09C7ER	トキ	校具	59,676	1,133,852	64,451	1,224,560	○		
	147	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	ラウンジ	F2	共用備品	椅子	76	LNW-31DR	トキ	校具	32,530	2,472,309	35,133	2,670,094	○		
	148	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	事務室		共用備品	椅子	4	KF-330GS-W9Y3	トキ	校具	28,672	114,686	30,965	123,861	○		
	149	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	事務室		共用備品	システム収納	2	HTM-109ASS-W9	トキ	校具	41,325	82,650	44,631	89,262	○		
	150	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	事務室	F6	共用備品	冷蔵庫	1	SJ-PD27Y	シャープ	備品	59,826	59,826	64,612	64,612	○		
	151	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	自習室		共用備品	学習机	18	DW-1260BNA-W9W9	トキ	校具	29,165	524,973	31,498	566,971	○		
	152	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	自習室	F2	共用備品	書棚	6	HTM-109ASS-W9	トキ	校具	41,325	247,949	44,631	267,785	○		
	153	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	自習室		共用備品	書架(3連7段 ブックラポート:メタル製板付)	1	KCJA371-268SOR	金剛	校具	169,650	169,650	183,222	183,222	○		
	154	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	講義室		共用備品	学習机(3人用)	20	THZ-184MSW9W9W9	トキ	校具	41,325	826,496	44,631	892,616	○		
	155	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	講義室		共用備品	学習机(2人用)	20	THZ-154MSW9W9W9	トキ	校具	40,293	805,856	43,516	870,325	○		
	156	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	講義室	F3	共用備品	白板	2	4.5mx1.2m		校具	259,246	518,492	279,986	559,971	○		
	157	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	講義室		共用備品	PC机	2	OZR147HA-W9W9	トキ	機械・器具	30,466	60,933	32,904	65,807	○		
	158	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	事務室		共用備品	椅子	2	KF-330GS-W9Y3	トキ	校具	28,672	57,343	30,965	61,931	○		
	159	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	演習室	F5	共用備品	学習机(3人用)	8	THZ-184MSW9W9W9	トキ	校具	41,325	330,598	44,631	357,046	○		
	160	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	演習室	F6	共用備品	学習机(2人用)	12	THZ-154MSW9W9W9	トキ	校具	40,293	483,514	43,516	522,195	○		
	161	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	演習室		共用備品	白板	2	4.5mx1.2m		校具	259,246	518,492	279,986	559,971	○		
	162	スポーツ科学部棟		什器・備品	演習室		共用備品	システム収納・2枚引違戸	4	HTM-2191HSS	トキ	校具	40,203	160,812	43,419	173,677	○		
	163	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	演習室		共用備品	PC机	2	OZR147HA-W9W9	トキ	機械・器具	30,466	60,933	32,904	65,807	○		
	164	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	演習室		共用備品	椅子	2	KF-330GS-W9Y3	トキ	校具	28,672	57,343	30,965	61,931	○		
	165	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	リハビリ実習室	F6	共用備品	椅子	1	KF-330GS-W9Y3	トキ	備品	28,672	28,672	30,965	30,965	○		
	166	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	リハビリ実習室		共用備品	システム収納	2	HTM-2191HSS	トキ	備品	40,293	80,586	43,516	87,032	○		
	167	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	リハビリ実習室	F2	共用備品	ホワイトボード	2	BBX-1809WW	トキ	備品	39,349	78,698	42,497	84,993	○		
	168	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	リハビリ実習室		共用備品	PC机	1	OZR147HA-W9W9	トキ	機械・器具	30,466	30,466	32,904	32,904	○		
	169	スポーツ科学部棟	1F	什器・備品	リハビリ実習室		共用備品	椅子	1	KF-330GS-W9Y3	トキ	校具	28,672	28,672	30,965	30,965	○		
	170	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	人文社会系実験実習室		共用備品	作業机	4	DDC-189F-Z9W9	トキ	備品	30,556	122,225	33,001	132,002	○		
	171	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	人文社会系実験実習室	F4a	共用備品	ホワイトボード	2	BBX-1809WW	トキ	備品	39,349	78,698	42,497	84,993	○		
	172	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	人文社会系実験実習室		共用備品	靴入れ(4列6段)扉なし	1	SBX-46TSAW	コクヨ	備品	53,802	53,802	58,106	58,106	○		
	173	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	人文社会系実験実習室		共用備品	PC机	2	OZR147HA-W9W9	トキ	機械・器具	30,466	60,933	32,904	65,807	○		
	174	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	人文社会系実験実習室		共用備品	椅子	2	KF-330GS-W9Y3	トキ	校具	28,672	57,343	30,965	61,931	○		
	175	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	コーチング系実習室	F7a	共用備品	作業机	4	DDC-189F-Z9W9	トキ	備品	30,556	122,225	33,001	132,002	○		

通しNO	棟名	階	系統	室名	NO	分類	品名	数量	単位	品番	メーカー	文科省区分	納入単価(税別)	納入金額(税別)	納入単価(税込)	納入金額(税込)	購入年次		
																	開設前年度	開設年度	開設次年度
176	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	コーチング系実習室	F3	共用備品	ホワイトボード	2		BBX-1809WW	イトキ	備品	39,349	78,698	42,497	84,993	○		
177	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	コーチング系実習室		共用備品	PC机	2		CZR147HA-W9W9	イトキ	機械・器具	30,466	60,933	32,904	65,807	○		
178	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	コーチング系実習室		共用備品	椅子	2		KF-330GS-W9Y3	イトキ	校具	28,672	57,343	30,965	61,931	○		
179	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	教員共同研究室	F6	共用備品	事務机	1		CFLN-302SES#9#9	イトキ	備品	120,789	120,789	130,452	130,452	○		
180	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	教員共同研究室	F7a	共用備品	事務机	1		CFLN-302EES#9#9	イトキ	備品	109,706	109,706	118,482	118,482	○		
181	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	教員共同研究室	F1	共用備品	椅子	12		KF-330GS-W9Y3	イトキ	備品	28,672	344,059	30,965	371,584	○		
182	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	教員共同研究室	F4a	共用備品	システム収納	5		HTM-109AAS-W9	イトキ	備品	41,325	206,624	44,631	223,154	○		
183	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	教員共同研究室	F2	共用備品	応接ソファ	4		LDM-11AP-B4	イトキ	備品	29,165	116,661	31,498	125,994	○		
184	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	教員共同研究室	F3	共用備品	冷蔵庫	1		SJ-PD27Y	シャープ	備品	59,826	59,826	64,612	64,612	○		
185	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	教員共同研究室		共用備品	6人用パーソナルロッカー	4		BWU-RN62DM79DSAW	コクヨ	備品	83,258	333,031	89,918	359,674	○		
186	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	教員共同研究室		共用備品	PC机	2		CZR147HA-W9W9	イトキ	機械・器具	30,466	60,933	32,904	65,807	○		
187	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	教員共同研究室		共用備品	椅子	2		KF-330GS-W9Y3	イトキ	校具	28,672	57,343	30,965	61,931	○		
188	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	応接室		共用備品	事務机	1		CZR147HA-W9W9	イトキ	機械・器具	30,466	30,466	32,904	32,904	○		
189	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	応接室		共用備品	椅子	1		KF-337GS-W9Y3	イトキ	校具	36,434	36,434	39,349	39,349	○		
190	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	応接室	C1	共用備品	応接テーブル	1		TXW-1264NRS-51	イトキ	校具	71,791	71,791	77,534	77,534	○		
191	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	応接室	C2	共用備品	応接ソファ	4		LXW-11CT-51K5N	イトキ	校具	67,484	269,935	72,882	291,530	○		
192	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	応接室	C3	共用備品	書庫	1		HXW-A118HG-51	イトキ	校具	89,335	89,335	96,482	96,482	○		
193	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	応接室	C4	共用備品	キャビネット	1		HXW-A078AA-51	イトキ	校具	110,738	110,738	119,597	119,597	○		
194	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	応接室		共用備品	テレビモニター	1		LC-50W20	シャープ	機械・器具	85,751	85,751	92,611	92,611	○		
195	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	応接室		共用備品	ブルーレイレコーダ	1		BD-T3700	シャープ	機械・器具	109,681	109,681	118,455	118,455	○		
196	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	応接室		共用備品	テレビ台	1		A-5214	ハヤミ	校具	57,832	57,832	62,458	62,458	○		
197	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	多目的会議室		共用備品	会議机	10		THZ-184MSW9#9#9	イトキ	校具	41,325	413,248	44,631	446,308	○		
198	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	多目的会議室	C2	共用備品	ホワイトボード	1		BBX-1809WW	イトキ	校具	39,349	39,349	42,497	42,497	○		
199	スポーツ科学部棟	2F	什器・備品	多目的会議室		共用備品	書架(3連7段 フックサポート、スチール製板付)	1		KCJA371-268SOR	金剛	校具	169,650	169,650	183,222	183,222	○		
						共用備品合計		442						43,309,393		46,774,144			
						合計		541						162,583,294		175,589,958			

明細書

通しNO	棟名	階	系統	室名	NO	分類	品名	数量	単位	品番	メーカー	文科省区分	納入単価(税別)	納入金額(税別)	納入単価(税込)	納入金額(税込)	購入年次		
																	開設前年度	開設年度	開設次年度
1	スポーツ科学部棟	2F	トレーニング室/低酸素ルーム	トレーニング室	S3	専門備品	トレッドミル	1		BM-2300	S&ME	機械・器具	5,434,740	5,434,740	5,869,519	5,869,519		○(1台)	
2	スポーツ科学部棟	2F	トレーニング室/低酸素ルーム	トレーニング室	T3	専門備品	トレッドミル制御装置	1		PH-203	S&ME	機械・器具	279,216	279,216	301,553	301,553		○(1台)	
3	スポーツ科学部棟	2F	トレーニング室/低酸素ルーム	トレーニング室	T2	専門備品	自転車エルゴメータ	3		Wattbike trainer	Wattbike	機械・器具	347,026	1,041,077	374,788	1,124,363		○	
4	スポーツ科学部棟	2F	トレーニング室/低酸素ルーム	トレーニング室	S11	専門備品	自転車エルゴメータ	2		Wattbike pro	Wattbike	機械・器具	347,026	694,051	374,788	749,575		○	
5	スポーツ科学部棟	2F	トレーニング室/低酸素ルーム	トレーニング室		専門備品	Wingate用アームクランクエルゴメータ	1		891EW	Monark	機械・器具	1,745,100	1,745,100	1,884,708	1,884,708		○	
6	スポーツ科学部棟	2F	医学系(生理)	医学系実験実習室	GL2	専門備品	心拍系(polar)	5		V800	Polar	機械・器具	57,838	289,188	62,465	312,323		○	
7	スポーツ科学部棟	2F	医学系(生理)	医学系実験実習室	GL4	専門備品	ライフライザー	1		3(7)イグ-05コーチ		機械・器具	77,283	77,283	83,466	83,466		○	
8	スポーツ科学部棟	2F	医学系(生理)	医学系実験実習室		専門備品	ダグラスバッグ	5		TK-11288 50l	竹井機器	機械・器具	37,894	189,468	40,925	204,625		○	
9	スポーツ科学部棟	2F	医学系(生理)	医学系実験実習室	S1	専門備品	ダグラスバッグ	5		TK-11288 100l	竹井機器	機械・器具	48,863	244,314	52,772	263,859		○	
10	スポーツ科学部棟	2F	医学系(生理)	医学系実験実習室	S2	専門備品	ダグラスバッグ	5		TK-11288 150l	竹井機器	機械・器具	53,849	269,244	58,157	290,784		○	
11	スポーツ科学部棟	2F	医学系(生理)	医学系実験実習室	T3	専門備品	ダグラスバッグ	5		TK-11288 200l	竹井機器	機械・器具	61,826	309,132	66,773	333,863		○	
12	スポーツ科学部棟	2F	医学系(生理)	医学系実験実習室	S3	専門備品	ダグラスバッグ	5		TK-11288 250l	竹井機器	機械・器具	67,810	339,048	73,234	366,172		○	
13	スポーツ科学部棟	2F	医学系(生理)	医学系実験実習室	T3	専門備品	ダグラスバッグ	4		TK-11288 300l	竹井機器	機械・器具	72,796	291,182	78,619	314,477		○	
14	スポーツ科学部棟	2F	医学系(生理)	医学系実験実習室	S5a	専門備品	ダグラスバッグ	4		TK-11288 500l	竹井機器	機械・器具	89,748	358,992	96,928	387,711		○	
15	スポーツ科学部棟	2F	医学系(生理)	医学系実験実習室	S5b	専門備品	ダグラスバッグ用Y型三方活栓	4		TK-11309 c	竹井機器	機械・器具	47,866	191,462	51,695	206,779		○	
16	スポーツ科学部棟	2F	医学系(生理)	医学系実験実習室	T2	専門備品	ダグラスバッグ用二方活栓	16		TK-11309a	竹井機器	機械・器具	31,910	510,566	34,463	551,412		○	
17	スポーツ科学部棟	2F	医学系(生理)	医学系実験実習室	S6	専門備品	換気量計	1		TK-11306c	竹井機器	機械・器具	147,586	147,586	159,392	159,392		○	
18	スポーツ科学部棟	2F	医学系(生理)	医学系実験実習室	S8	専門備品	フォルトン水銀気圧計	1		7640-00	佐藤計量器製作所	機械・器具	227,362	227,362	245,551	245,551		○	
19	スポーツ科学部棟	2F	医学系(体力)	医学系実験実習室	S15	専門備品	人体解剖模型(骨格)	1		A13/19M骨格(吊り下げ)	3B	機械・器具	147,571	147,571	159,376	159,376		○	
20	スポーツ科学部棟	2F	医学系(体力)	医学系実験実習室	S24	専門備品	人体解剖模型(筋肉)	1		B50 45分解行&両性	3B	機械・器具	1,266,317	1,266,317	1,367,622	1,367,622		○	
21	スポーツ科学部棟	2F	医学系(体力)	医学系実験実習室	S36	専門備品	3軸加速度センサー	1		Myotest Pro2	Myotest	機械・器具	438,724	438,724	473,822	473,822		○	
22	スポーツ科学部棟	2F	医学系(体力)	医学系実験実習室	T1	専門備品	リニアポジショントランスデューサー	1		Fitrodyne プレミアム	tendo	機械・器具	478,608	478,608	516,897	516,897		○	
23	スポーツ科学部棟	2F	医学系(心理)	医学系実験実習室	S38	専門備品	簡易型脳波測定器	1		TK-11870j	竹井機器	機械・器具	508,572	508,572	549,258	549,258		○	
24	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室		専門備品	リモコン三脚	2		VCI-VPR100	ノー	機械・器具	58,829	117,658	63,535	127,070		○	
25	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室	R6	専門備品	全周囲光呈示器	1		PTS-159	DXH	機械・器具	445,704	445,704	481,360	481,360		○	
26	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室	R7	専門備品	校正用ボール(保持式)	1		PH-1620	DXH	機械・器具	125,635	125,635	135,685	135,685		○	
27	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室	R8	専門備品	校正用ボール(ジョイント式)	1		PH-1630	DXH	機械・器具	385,878	385,878	416,748	416,748		○	
28	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室		専門備品	動作解析システム	1		IFS-25G	DXH	機械・器具	598,260	598,260	646,121	646,121		○	
29	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室		専門備品	2次元/3次元解析プログラム	1		IFS-23G	DXH	機械・器具	832,579	832,579	899,185	899,185		○	
30	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室		専門備品	スライドショット	1		IFS-52A	DXH	機械・器具	89,739	89,739	96,918	96,918		○	
31	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室		専門備品	データ解析処理装置	1		PH-264	DXH	機械・器具	224,348	224,348	242,295	242,295		○	
32	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室	R9	専門備品	スピードトラップ(光電管)	1		BRTCXU	フィットネステクノ	機械・器具	428,753	428,753	463,053	463,053		○	
33	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室	R10	専門備品	スピードトラップ(ディスプレイ)	1		BRTCO4	フィットネステクノ	機械・器具	149,565	149,565	161,530	161,530		○	
34	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室	R12	専門備品	スピードトラップ(スタートユニット)	1		BRTCO9	フィットネステクノ	機械・器具	79,768	79,768	86,149	86,149		○	
35	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室		専門備品	トラッキングデータ収集装置	10		VXL235	フィットネステクノ	機械・器具	153,000	1,530,000	165,240	1,652,400		○	
36	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室		専門備品	同上ベスト	10		Vxha-dof17用ベスト	フィットネステクノ	備品	6,300	63,000	6,804	68,040		○	
37	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室		専門備品	同上ベルト	10		DUAL BELT	フィットネステクノ	備品	7,125	71,250	7,695	76,950		○	
38	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室		専門備品	同上ソフト	1		VX View Pro ソフトウェア	フィットネステクノ	機械・器具	62,700	62,700	67,716	67,716		○	
39	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室		専門備品	筋電計	1		WEB-7000	日本光電	機械・器具	4,576,689	4,576,689	4,942,824	4,942,824		○	
40	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室	R1a	専門備品	数値計算ソフトウェア	1		Matlab	Mathworks	機械・器具	94,725	94,725	102,302	102,302		○	
41	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室	R1b	専門備品	簡易フォースプレート	1		PTS-148	DXH	機械・器具	917,332	917,332	990,719	990,719		○	
42	スポーツ科学部棟	2F	医学系(バイオメカニクス)	医学系実験実習室		専門備品	データ解析処理装置	1		PH-264	DXH	機械・器具	224,348	224,348	242,295	242,295		○	
						専門備品合計		121						26,496,731		28,616,470			

明細書

通しNO	棟名	階	系統	室名	NO	分類	品名	数量	単位	品番	メーカー	文科省区分	納入単価(税別)	納入金額(税別)	納入単価(税込)	納入金額(税込)	購入年次			
																	開設前年度	開設年度	開設次年度	
43	スポーツ科学部棟	1F	リハビリ系	リハビリ実習室	R7	共用備品	アッパーボディサイクル7	1		BDX-UBC3	酒井医療	機械・器具	732,869	732,869	791,498	791,498	○			
44	スポーツ科学部棟	1F	リハビリ系	リハビリ実習室	R12	共用備品	バイブレーション	1		VERTE	酒井医療	機械・器具	867,477	867,477	936,875	936,875	○			
45	スポーツ科学部棟	1F	リハビリ系	リハビリ実習室		共用備品	バランスシステムSD	1		BDX-SD	酒井医療	機械・器具	2,841,735	2,841,735	3,069,074	3,069,074	○			
46	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	バドミントンの支柱	4		DG2031	セー	機械・器具	209,391	837,564	226,142	904,569	○			
47	スポーツ科学部棟	1F	多目的実習室	多目的実習室		共用備品	体育館用ベンチ	8		JT9102	セー	機械・器具	62,817	502,538	67,843	542,741	○			
48	スポーツ科学部棟	1F	障害者スポーツ系	多目的実習室	T1	共用備品	サウンドテーブルテニス台	4		60501	日本点字図書館	機械・器具	393,855	1,575,418	425,363	1,701,451	○			
49	スポーツ科学部棟		陸上競技系	陸上競技系	R8	共用備品	パワーマックスVIII	1		I3315B	NISHI	機械・器具	468,637	468,637	506,128	506,128	○			
50	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室	C1	共用備品	移動式音響ワゴン	1			パナソニック	機械・器具	1,724,983	1,724,983	1,862,982	1,862,982	○			
51	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室	C2	共用備品	デジタルミキサー	1		WR-DX002	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○			
52	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室	C3	共用備品	ワイヤレスチューナー	1		WX-UR504	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○			
53	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室	C4	共用備品	CD・USBプレーヤ	1		CD-240	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○			
54	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室	C5	共用備品	デジタルアンプ	1		WP-DA204	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○			
55	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室		共用備品	電源制御ユニット	1		WU-L61	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○			
56	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室		共用備品	スタンド付スピーカ	2	式	WS-M80	パナソニック	機械・器具	123,640	247,281	133,532	267,063	○			
57	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室		共用備品	可搬型ワイヤレスアンテナ	2		WX-4965	パナソニック	機械・器具	35,098	70,196	37,906	75,812	○			
58	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室	C3	共用備品	ワイヤレスマイク	3		WX-4100B	パナソニック	機械・器具	45,767	137,301	49,428	148,285	○			
59	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	多目的実習室	C4	共用備品	ワイヤレスマイク ペンシル型	1		WX-4800	パナソニック	機械・器具	61,820	61,820	66,766	66,766	○			
60	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	演習室	E10	共用備品	ビデオプロジェクタ(5400 l m)	1		PT-EZ580J	パナソニック	機械・器具	1,077,800	1,077,800	1,164,024	1,164,024	○			
61	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	演習室	O1	共用備品	天吊り金具	1		ET-PKD120S+PKE300B	パナソニック	機械・器具	91,270	91,270	98,572	98,572	○			
62	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	演習室		共用備品	HDMI受信機	1		COS-RS100HD-A	パナソニック	機械・器具	69,797	69,797	75,381	75,381	○			
63	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	演習室	E4	共用備品	80インチスクリーン	1		ES-WX80BR	パナソニック	機械・器具	367,930	367,930	397,364	397,364	○			
64	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	演習室	E7	共用備品	スクリーンボックス	1		KFBM-2300SW	パナソニック	機械・器具	91,733	91,733	99,072	99,072	○			
65	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	演習室	E9	共用備品	天吊りスピーカ	2		WS-LA208	パナソニック	機械・器具	83,756	167,513	90,457	180,914	○			
66	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	演習室	E10	共用備品	収容ワゴン	1			パナソニック	機械・器具	2,223,533	2,223,533	2,401,416	2,401,416	○			
67	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	演習室	E11	共用備品	デジタルミキサー			WR-DX002	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○			
68	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	演習室	E12	共用備品	ブルーレイレコーダ			DMR	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○			
69	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	演習室		共用備品	デジタルマルチスイッチャー			MSD-501	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○			
70	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	演習室	O1	共用備品	デジタルアンプ			WP-DA112	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○			
71	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	演習室	O2	共用備品	操作パネル				パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○			
72	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	演習室	O3	共用備品	制御I/Fユニット				パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○			
73	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	演習室		共用備品	HDMI同軸ケーブル送信器			COS-TS100HD-A	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○			
74	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	演習室	O5	共用備品	電源制御ユニット			WU-L61	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○			
75	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	演習室		共用備品	ケーブル・雑材料	1				機械・器具	108,684	108,684	117,379	117,379	○			
76	スポーツ科学部棟	2F	視聴覚	多目的会議室	F11	共用備品	ビデオプロジェクタ(3500 l m)	1		PT-RW430	パナソニック	機械・器具	636,150	636,150	687,042	687,042	○			
77	スポーツ科学部棟	2F	視聴覚	多目的会議室		共用備品	天吊り金具	1		ET-PKR100S	パナソニック	機械・器具	54,841	54,841	59,228	59,228	○			
78	スポーツ科学部棟	2F	視聴覚	多目的会議室	F4	共用備品	80インチスクリーン	1		ES-WX80BR	パナソニック	機械・器具	367,930	367,930	397,364	397,364	○			
79	スポーツ科学部棟	2F	視聴覚	多目的会議室	F7b	共用備品	スクリーンボックス	1		KFBM-2300SW	パナソニック	機械・器具	91,733	91,733	99,072	99,072	○			
80	スポーツ科学部棟	2F	視聴覚	多目的会議室	F9	共用備品	天吊りスピーカ	2		WS-LA208	パナソニック	機械・器具	83,756	167,513	90,457	180,914	○			
81	スポーツ科学部棟	2F	視聴覚	多目的会議室	F10	共用備品	収容ワゴン	1			パナソニック	機械・器具	1,091,825	1,091,825	1,179,170	1,179,170	○			
82	スポーツ科学部棟	2F	視聴覚	多目的会議室	F11	共用備品	デジタルミキサー			WR-DX002	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○			
83	スポーツ科学部棟	2F	視聴覚	多目的会議室		共用備品	ブルーレイレコーダ			DMR	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○			
84	スポーツ科学部棟	2F	視聴覚	多目的会議室	F7b	共用備品	デジタルマルチスイッチャー			MSD-501	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○			
85	スポーツ科学部棟	2F	視聴覚	多目的会議室	F8	共用備品	デジタルアンプ			WP-DA112	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○			
86	スポーツ科学部棟	2F	視聴覚	多目的会議室	F9	共用備品	電源制御ユニット			WU-L61	パナソニック	機械・器具	-	-	-	-	○			
87	スポーツ科学部棟	2F	視聴覚	多目的会議室		共用備品	ワゴン接続コンセント	1			パナソニック	機械・器具	84,754	84,754	91,534	91,534	○			
88	スポーツ科学部棟	2F	視聴覚	多目的会議室	F1	共用備品	ケーブル・雑材料	1				機械・器具	74,783	74,783	80,765	80,765	○			
89	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	移動式	F5	共用備品	ディスプレイ(65インチ)	1		TH-65LFB70J	パナソニック	機械・器具	658,086	658,086	710,733	710,733	○			
90	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	移動式	F6	共用備品	移動式スタンド	1		TY-ST65PB2	パナソニック	機械・器具	106,690	106,690	115,225	115,225	○			
91	スポーツ科学部棟	1F	視聴覚	移動式	F7a	共用備品	ブルーレイレコーダ	1		DMR	パナソニック	機械・器具	127,629	127,629	137,839	137,839	○			
						共用備品合計		55									17,728,010	19,146,250		
						合計		176									44,224,741	47,762,720		

明 細 書

通しNO	棟名	階	系統	室名	NO	分類	品名	数量	単位	品番	メーカー	文科省区分	納入単価(税別)	納入金額(税別)	納入単価(税込)	納入金額(税込)	購入年次		
																	開設前年度	開設年度	開設次年度
1	スポーツ科学部棟	2F	医科学系(体力)	医科学系実験実習室	T2	専門備品	筋力測定器(バイオデックス)	1		BDX-4	Biodex	機械・器具	18,446,350	18,446,350	19,922,058	19,922,058			○
2	スポーツ科学部棟	2F	医科学系(体力)	医科学系実験実習室	T3	専門備品	バックアタッチメント	1		BDX-4BA	Biodex	機械・器具	2,669,735	2,669,735	2,883,314	2,883,314			○
3	スポーツ科学部棟	2F	医科学系(体力)	医科学系実験実習室	T4	専門備品	シグナルアイソレーションユニット	1		EM-IF2	Biodex	機械・器具	618,601	618,601	668,089	668,089			○
4	スポーツ科学部棟	2F	医科学系(心理)	医科学系実験実習室		専門備品	多用途生体情報解析プログラム	1		TK-11900	竹井機器	機械・器具	1,336,454	1,336,454	1,443,370	1,443,370			○
5	スポーツ科学部棟	2F	医科学系(心理)	医科学系実験実習室	R1a	専門備品	データ管理専用パソコン	1				機械・器具	209,412	209,412	226,165	226,165			○
6	スポーツ科学部棟	2F	医科学系(バイオメカニクス)	医科学系実験実習室	R4	専門備品	ハイスピードビデオカメラ	1		IS307'4100-S (カ-8G)	BRN	機械・器具	3,968,458	3,968,458	4,285,935	4,285,935			○
7	スポーツ科学部棟	2F	医科学系(バイオメカニクス)	医科学系実験実習室	R5	専門備品	デジタルビデオカメラ	1		W870M	パナソニック	機械・器具	103,000	103,000	111,240	111,240			○
						専門備品合計		7						27,352,010		29,540,171			
8	スポーツ科学部棟	1F	リハビリ系	リハビリ実習室		共用品	ワールプール全身	1		WP-500G	酒井医療	機械・器具	1,665,157	1,665,157	1,798,370	1,798,370			○
9	スポーツ科学部棟	1F	リハビリ系	リハビリ実習室	R1a	共用品	ワールプール上下肢	1		WP-300G	酒井医療	機械・器具	1,435,824	1,435,824	1,550,690	1,550,690			○
10	スポーツ科学部棟	1F	リハビリ系	リハビリ実習室	R3	共用品	ドクターメドーマット	1		DM-6000	酒井医療	機械・器具	132,614	132,614	143,223	143,223			○
11	スポーツ科学部棟	1F	リハビリ系	リハビリ実習室	R5	共用品	フィジオバックウォーマー	1			酒井医療	機械・器具	583,304	583,304	629,968	629,968			○
12	スポーツ科学部棟	2F	障害者スポーツ系	多目的実習室		共用品	ゴールボール球	5		4-20-4	チャンピオン	機械・器具	28,916	144,580	31,229	156,146			○
13	スポーツ科学部棟	2F	障害者スポーツ系	多目的実習室		共用品	バスケットボール椅子	6		1-1-42	昭和貿易	機械・器具	237,310	1,423,859	256,295	1,537,768			○
14	スポーツ科学部棟	2F	障害者スポーツ系	多目的実習室	R8	共用品	ポッチャボール	1		ETE030	EVERNEW	機械・器具	77,774	77,774	83,996	83,996			○
						共用品合計		16						5,463,111		5,900,160			
						合計		23						32,815,121		35,440,331			

日本体育協会「資格取得」対応授業科目

「共通科目」 . . . 2

「アシスタントマネジャー」 . . . 5

「ジュニアスポーツ指導員」 . . . 6

「スポーツプログラマー」 . . . 7

日本体育協会「共通科目」対応授業科目

共通科目 I

科目名	内容	時間数	対応授業科目
文化としてのスポーツ	スポーツの概念と歴史	3.75	スポーツ史
	文化としてのスポーツ		スポーツ社会学
指導者の役割	スポーツ指導者とは	5	コーチング論
	スポーツ指導者の倫理		
	指導者の心構え・視点		
	世界の舞台をめざすアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割		
トレーニング論 I	体力とは	3.75	体力論
	トレーニングの進め方		
	トレーニングの種類		
スポーツ指導者に必要な医学的な知識 I	スポーツと健康	7.5	健康体力論
	スポーツ活動中に多いケガや病気		スポーツ傷害論
	応急処置		
スポーツと栄養	スポーツと栄養	2.5	スポーツ栄養学
指導計画と安全管理	指導計画の立て方	3.75	コーチング論
	スポーツ活動と安全管理		
ジュニア期のスポーツ	発育発達期の身体的特徴、心理的特徴	5	こどもスポーツ論
	発育発達期に多いケガ		スポーツ傷害論
	発育発達期の身体的特徴、心理的特徴プログラム		こどもスポーツ論
地域におけるスポーツ振興	地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわり	3.75	スポーツ経営学
	総合型地域スポーツクラブの必要性和社会的意義		
	地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」		
		35	

共通科目Ⅱ

科目名	内容	時間数	対応授業科目
社会の中のスポーツ	社会の中のスポーツ	5	スポーツ社会学
	我が国のスポーツプロモーション		生涯スポーツプロモーション論
スポーツと法	スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任	5	スポーツ経営学
	スポーツと人権		スポーツ社会学
スポーツの心理Ⅰ	スポーツと心	7.5	スポーツ心理学
	スポーツにおける動機づけ		
	コーチングの心理		
スポーツ組織の運営と事業	総合型地域スポーツクラブの育成と運営	10	生涯スポーツマネジメント論
	スポーツ組織のマネジメントと事業のマーケティング		
	スポーツ事業のプロモーション		生涯スポーツプロモーション論
対象に合わせたスポーツ指導	中高年者とスポーツ	7.5	健康体力論
	女性とスポーツ		
	障害者とスポーツ		障がい者スポーツ論
		35	

共通科目Ⅲ

科目名	内容	時間数	対応授業科目
指導者の役割Ⅱ	プレイヤーと指導者の望ましい関係	7.5	競技スポーツコーチング論
	ミーティングの方法		スポーツコミュニケーション論
	世界の頂点を目指すアスリートの育成・強化の在り方と指導者の役割		競技スポーツマネジメント論
アスリートの栄養・食事	アスリートの栄養摂取と食生活	5	競技スポーツ栄養論
スポーツの心理Ⅱ	メンタルマネジメントとは	10	競技スポーツ心理学
	リラクゼーション		
	イメージトレーニング		
	集中力のトレーニング		
	心理的コンディショニング		
	あがり、スランプの克服		
	指導者のメンタルマネジメント		
身体のしくみと働き	運動器のしくみと働き	10	スポーツ生理学 スポーツバイオメカニクス
	呼吸循環器の働きとエネルギー供給		スポーツ生理学
	スポーツバイオメカニクスの基礎		スポーツバイオメカニクス
トレーニング論Ⅱ	トレーニング理論とその方法	20	競技スポーツトレーニング論
	トレーニング計画とその実際		体力論
	体力テストとその活用		スポーツ生理学
	スキルの獲得とその獲得過程		
競技者育成のための指導法	トップアスリートを育てるために～指導者が持つべき視点～	10	競技スポーツコーチング論
	トップアスリートを育成・強化の方法とその評価		競技スポーツマネジメント論
	競技力向上のためのチームマネジメント		競技スポーツ情報戦略論
	競技力向上のための情報とその活用		
スポーツ指導に必要な医学的知識Ⅱ	アスリートの健康管理	20	スポーツ医学
	アスリートの内科的障害と対策		
	アスリートの外傷・障害と対策		
	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画		
	コンディショニングの手法		競技スポーツ傷害論
	スポーツによる精神障害と対策		競技スポーツ心理論
	特殊環境下での対応		競技スポーツコーチング論
	ドーピングの予防		
		82.5	

日本体育協会 「アシスタントマネジャー」 対応授業科目

科目名	内容	時間数	対応授業科目
1. 地域スポーツクラブとは	事業の背景と理念 (テキスト「はじめに」部分)	7.5	スポーツ経営学
2. 地域スポーツクラブの現状	地域スポーツクラブを取り巻く環境の変化		
	スポーツ基本法とスポーツ基本計画		
	総合型地域スポーツクラブを取り巻く環境 総合型地域スポーツクラブ・マネジメントの仕組み		
3. クラブマネジャーの役割	クラブマネジャー・アシスタントマネジャーとは	7.5	生涯スポーツマネジメント論
	クラブマネジャー・アシスタントマネジャーの位置づけ		
	クラブマネジャー・アシスタントマネジャーに求められる能力		
	ロジカルシンキング		
	コミュニケーション		
	マーケティング		
	経営戦略		
	人・組織のマネジメント能力		
	施設の管理と運営		
	ホスピタリティ		
	スポーツクラブの安全管理 (リスクマネジメント)		
財務			
4. クラブのつくり方	クラブの創設	20	スポーツ経営学
5. クラブの運営	自主運営に必要な条件		
	顧客とスタッフの定義		
	NPO 法人格の取得手続		
	活動拠点の確保		
	財源の確保		
	事業計画書 (ビジネスプラン) の作成と評価		
	事例クラブ紹介 (総合型地域スポーツクラブの事例を紹介する)		
		35	

日本体育協会「ジュニアスポーツ指導員」対応授業科目

区分	科目名	内 容	時間数		対応授業科目			
			講義	実習				
基礎	ジュニア期のスポーツの考え方	子どもたちを取り巻く問題点と運動・スポーツの必要性(社会環境、体力運動能力の低下、心の問題)	1.5		子どもスポーツ論			
		今日の子どものスポーツ指導の問題点とその対策(間違った指導による傷害・疾病・心理的障害)						
		本来のスポーツのもつ人間への影響(幼少年期のスポーツ・運動経験が及ぼす影響)						
	大人のスポーツと子どものスポーツの違い(保護者の子どもスポーツに対する考え方)							
	スポーツのやりすぎ、燃えつき							
	望ましいライフスタイルと運動・スポーツの関係							
ジュニアスポーツ指導員の役割	コーディネーション能力を高める運動の必要性	1.5		子どもスポーツ論				
	事業の背景と理念(本講習会が目指すもの)							
	本事業が目指すジュニアスポーツ指導員像							
子どもの発達とコミュニケーションスキル	個人差の容認(誰にでも長所と短所があることを認める)	4		スポーツコミュニケーション論				
	対象者の目線に立つ(一緒に楽しむ)							
	「コミュニケーションの3V」の法則							
	積極的傾聴(質問、聴く、ペーシング、承認、深める、まとめる、沈黙など)							
	観察、洞察							
	アドバイス							
乳幼児期	動きの発達とスキルの獲得(基本的動作の習得)	3		実技理論・実習 a 1 (トレーニング/体づくり運動)				
	運動あそび・ゲームの実際				移動系の運動スキル(這う、歩く、走る、跳ぶ、泳ぐ、滑る)			
					平衡系の運動スキル(転がる、ぶら下がる、よじ登る、まわる)			
児童前期	動きの発達とスキルの獲得(動作の習熟)	3		実技理論・実習 a 1 (トレーニング/体づくり運動)				
	運動あそび・ゲームの実際				操作系の運動スキル(掴む、投げる、捕る、打つ、蹴る)			
					親子のあそび・ゲーム			
					1人でできるあそび・ゲーム			
	児童後期				動きの発達とスキルの獲得(スポーツスキルの上達)	3		生涯スポーツ演習 4 (子どものスポーツ活動)
					スポーツスキル獲得の実際			
※コーディネーション能力を高める運動を含む								
移動系の運動スキル(這う、歩く、走る、跳ぶ、泳ぐ、滑る)								
平衡系の運動スキル(転がる、ぶら下がる、よじ登る、まわる)								
操作系の運動スキル(掴む、投げる、捕る、打つ、蹴る)								
運動組合せ								
青年前期	動きの発達とスキルの獲得(より専門性の高いスポーツスキルの習得)	3		実技理論・実習 a 2～a 7(個人スポーツ) 実技理論・実習 b 1～b 7(球技スポーツ) 実技理論・実習 c 1～c 3(武道) 実技理論・実習 d 1～d 3(野外活動)				
	スポーツスキル獲得の実際				幼少年期に必要なとされる動きと、それらの動きを用いた運動の仕方			
					運動あそびやゲームの実際			
指導実習	指導実習	8		教育実習				
	評価							
	筆記							
			27					

日本体育協会「スポーツプログラマー」対応授業科目

科目名	内 容		時間数		対応授業科目	
			理論	実習		
I 運動と健康	1. 運動と健康		1h		健康体力論	
	2. スポーツプログラマーの役割					
II フィットネス・エクササイズの理論と実際	1. フィットネス・トレーニング	①全身持久力・身体組織系		3h	実技理論・実習 a 1 (トレーニング/体づくり運動)	
		②筋力/筋持久力系		3h		
		③柔軟性系		2h		
		④調整力系		2h		
	2. マシーン・トレーニング	①マシンの特性				2h
		②マシーントレーニングの実際				2h
	3. ヘルス・エクササイズ	①体操系	ア. 体操			1h
			イ. ストレッチング			1h
		②エアロビクス系	ア. ウォーキング・ジョギング			2h
			イ. 水泳・水中運動			2h
			ウ. エアロビックスダンス			2h
		③レクリエーション・スポーツ系	ア. 軽スポーツ			2h
イ. 運動ゲーム				2h		
III フィットネス・エクササイズと健康管理		1. フィットネス・エクササイズと体調	①体調チェックの意義と方法		1h	1h
	②スポーツと疲労回復 (栄養と休養)		1h		スポーツ生理学	
	2. フィットネス・エクササイズと安全	①ウォーミングアップ		1h	1h	実技理論・実習 a 1 (トレーニング/体づくり運動)
		②クーリングダウン		1h	2h	
	IV 体力測定と評価	1. 体力測定の方法			2h	生涯スポーツ演習 5 (高齢者・要介護者のスポーツ活動)
		2. 測定結果の処理			2h	
3. 体力評価とスポーツプログラム			2h			
V フィットネスプログラムの実際	1. フィットネスプログラムの基本的な方法		1h		健康体力論	
	2. 子どものフィットネスプログラム		1h	1.5h	生涯スポーツ演習 4 (子どものスポーツ活動)	
	3. 壮年 (中年) のフィットネスプログラム		1h	1.5h	生涯スポーツ演習 5 (高齢者・要介護者のスポーツ活動)	
	4. 高齢者のフィットネスプログラム		1h	1.5h		
	5. 女性のフィットネスプログラム		1h	1.5h		
	6. 障害者のフィットネスプログラム		2h	1.5h	障がい者スポーツ論	
	7. 上記2～6の選択科目			1.5h		
VI スポーツ相談の実際	1. スポーツ相談の意義		2h		健康心理論	
	2. スポーツ相談の実際		2h	2h		

健康・体力づくり事業財団

「健康運動指導士」「健康運動実践指導者」対応授業科目

科 目	内 容	単位数		対応授業科目
		講義	実習	
1. 健康管理概論	健康の概念と制度	1		健康体力論
	生活習慣病（NCD）概論と特定健診・保健指導	1		
	介護予防概論	1		
2. 健康づくり施策概論	健康づくり施策と健康運動指導士の社会的役割	1		健康体力論
	身体活動基準・身体活動指針	1		
	健康日本2 1（第二次）における社会環境の整備	1		
3. 生活習慣病（NCD）	メタボリックシンドローム	1		スポーツ医学
	肥満、肥満症	1		
	高血圧	1		
	脂質異常症	1		
	耐糖能異常、糖尿病	1		
	虚血性心疾患とリハビリテーション	1		
	ロコモティブシンドローム	1		
	運動器退行性疾患	1		
	呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患、運動誘発性喘息）	1		
	がん（悪性新生物）	1		
4. 運動生理学	軽度認知障害、認知症	1		スポーツ生理学
	呼吸器系と運動	1		
	循環器系と運動（1）（2）	2		
	脳・神経系と運動（1）（2）	2		
	骨格筋系と運動（1）（2）	2		
	内分泌系と運動	1		
	運動と免疫能	1		
5. 機能解剖とバイオメカニクス（運動・動作の力源）	環境と運動（1）（2）	2		スポーツバイオメカニクス
	バイオメカニクス：力学の基礎	1		
	バイオメカニクス：エネルギー論	1		
	機能解剖学概論（1）（2）	2		
	陸上での運動・動作各論	1		
6. 健康づくり運動の理論	水泳・水中運動	1		体力論
	運動条件と反応・運動強度	1		
	筋力と筋量を増強するための運動条件とその効果	1		
	筋パワーと筋持久力を高めるための運動条件とその効果	1		
	健康体力論	全身持久力を高めるためのエアロビック運動	1	
		障がい者の運動能力の特徴と運動	1	
		青少年期の成長発達と運動	1	
		女性の体力・運動能力の特徴と運動	1	
7. 運動障害と予防	加齢に伴う体力の低下と運動	1		スポーツ医学
	内科的障害と予防（1）（2）	2		
	外科的損傷（頭部、頸部、上肢、体幹）	1		
	外科的損傷（腰部、下肢）	1		

科 目	内 容	単位数		対応授業科目
		講義	実習	
8. 体力測定と評価	体力と運動能力の測定法	1		健康体力論
	高齢者の体力測定法 (全身持久力)	1		
	身体組成の測定	1		
	フィールドテストの実習 中年者 (1) (2)		2	生涯スポーツ演習 4 (高齢者・要介護者のスポーツ活動)
	介護予防に関連する体力測定法とその評価	1		
	体力測定および身体組成測定と評価に関する実習		1	
9. 健康づくり運動の 実際	ウォーミングアップとクーリングダウン		1	実技理論・実習 a 1 (トレーニング/体づくり 運動)
	ストレッチングと柔軟体操の実際		1	
	ウォーキングとジョギング (1) (2)		2	
	エアロビックダンス (1) (2)		2	実技理論・実習 a 2 (ダンス)
	水泳・水中運動		2	実技理論・実習 a 6 (水泳・水中運動)
	レジスタンス運動		1	実技理論・実習 a 1 (トレーニング/体づくり 運動)
	介護予防と運動 (1) (2)		2	生涯スポーツ演習 4
10. 救急処置	救急蘇生法 (1) (2)	1	1	スポーツ傷害論
	外科的処置 (1) (2)	1	1	
11. 運動プログラムの 実際	メディカルチェックの重要性	1		生涯スポーツ演習 4 (高齢者・要介護者のスポーツ活動)
	運動プログラム作成の基本 (1) (2)	2		
	服薬者の運動プログラム作成上の注意	1		
	生活習慣病に対する運動療法プログラム作成実習 (1) 包括的プログラム作成		1	
	生活習慣病に対する運動療法プログラム作成実習 (2) 過体重 (肥満) ・肥満症と高血糖・糖尿病		1	
	生活習慣病に対する運動療法プログラム作成実習 (3) 高血圧+脂質異常症		1	
	生活習慣病に対する運動療法プログラム作成実習 (4) ロコモティブシンドロームと運動器退行性疾患		1	
	健康産業施設等現場研修 (1)～(5)		5	生涯スポーツ演習 7 (健康運動指導等研修(事前事後指導を含む))
	健康産業施設等現場見学		5	
	健診結果・安静時心電図の読み方 (1) (2)	2		スポーツ医学
12. 運動負荷試験	運動負荷試験の実際	1		スポーツ医学
	運動負荷試験実習 (1) (2)		2	
13. 運動行動変容の理論と実際	行動変容の理論	1		健康心理論
	行動変容理論の実践的適用	1		
	行動変容を意図したプログラム開発およびカウンセリング (実習)		1	競技スポーツ演習 5 (心理)
14. 運動と心の健康増進	ストレスの考え方と評価法	1		健康心理論
	ストレスマネジメントとカウンセリング		1	競技スポーツ演習 5 (心理)
	運動の健康行動 (禁煙など)への影響	1		健康心理論
15. 栄養摂取と運動	身体活動量の定量法とその実際	1		スポーツ栄養学
	栄養・食事アセスメント (低栄養対策を含む)	1		
	栄養・食事指導の基本 (1) (2)	2		

日本トレーニング指導者協会
「トレーニング指導者」資格取得対応授業科目

一般科目

領域	科目名	科目の内容に関する 補足事項	対応する科目または講習 科目（複数記載可） ※2科目以上の履修を必 須とする場合には当該科 目を（ ）で囲む
A. 体力学総論	体力学総論	体力の概念、運動の有 益性に関する内容を 含む	体力論
B. 機能解剖	機能解剖 (1) 上肢		スポーツバイオメカニク ス
	機能解剖 (2) 脊柱と胸郭		スポーツ傷害論
	機能解剖 (3) 骨盤と下肢		
C. バイオメカニ クス	バイオメカニクス (1) 基礎理論		スポーツバイオメカニク ス
	バイオメカニクス (2) スポーツ及びトレ ーニング動作のバイオメカニクス		
D. 運動生理学	運動生理学 (1) 呼吸循環器系・エネルギー 代謝と運動		スポーツ生理学
	運動生理学 (2) 骨格筋系・神経系・内分 泌系と運動		
E. 運動と栄養	運動と栄養 (1) 基礎理論	各種栄養素、摂取エネ ルギー及び消費エネ ルギーの定量法等に 関する内容を含む	スポーツ栄養学
	運動と栄養 (2) スポーツ選手の競技力向 上と栄養		競技スポーツ栄養論
	運動と栄養 (3) 一般人の健康増進と栄養	生活習慣病の予防、肥 満対策等に関する内 容を含む	スポーツ栄養学
F. 運動と心理	運動と心理 (1) 基礎理論		スポーツ心理学
	運動と心理 (2) スポーツ選手の競技力向 上への活用		競技スポーツ心理論
	運動と心理 (3) 一般人の健康増進への活 用		健康心理論
G. 運動と医学	運動と医学 (1) 救急処置法	心肺蘇生法に関する 内容を含む	スポーツ傷害論
	運動と医学 (2) スポーツ選手の整形外科 的傷害と予防		競技スポーツ傷害論
	運動と医学 (3) 生活習慣病とその予防		スポーツ医学
H. 運動指導の科学	運動指導の科学	運動学習理論、コー チング理論に関する内 容を含む	コーチング論

専門科目

領域	科目名	科目の内容に関する補足事項	対応する科目または講習科目（複数記載可） ※2科目以上の履修を必須とする場合には当該科目を（ ）で囲む
A. トレーニング指導者論	トレーニング指導者の役割		コーチング論
B. 各種トレーニング法の理論とプログラム	トレーニング計画の立案（総論）	トレーニングの長期計画の作成とプログラムの期分け、目的・対象別トレーニング計画に関する内容を含む	競技スポーツコーチング論 競技スポーツトレーニング論
	筋力トレーニングのプログラム作成		体力論 競技スポーツ体力論
	パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成		
	有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成		
	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成		
	ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの理論とプログラム作成		
	特別な対象のためのトレーニングとプログラム	生活習慣病のリスクがある人、高齢者、子どもなどを対象としたトレーニング法に関する内容を含む	健康体力論
傷害の受傷から復帰までのトレーニングとプログラム		スポーツ傷害論 競技スポーツ傷害論	
C. 各種トレーニング法の実践	筋力トレーニングの実践	実習を伴う内容であることが必要	実技理論・実習 a 1 （トレーニング/体づくり運動）
	パワー向上トレーニングの実践	実習を伴う内容であることが必要（プライオメトリックトレーニング、キックリフト（クリーン等）の実技に関する内容を含む）	
	有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの実践	実習を伴う内容であることが必要	
	スピード向上トレーニングの実践	実習を伴う内容であることが必要	
	ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの実践	実習を伴う内容であることが必要（ストレッチングの実技に関する内容を含む）	
D. トレーニング効果の測定と評価	トレーニング効果の測定と評価の実践		競技スポーツ体力論 競技スポーツ演習 4（体力）
	測定データの活用とフィードバックの実践	統計処理法に関する内容を含む	情報処理（統計処理含む）
E. トレーニングの運営と情報活用	トレーニングの運営	トレーニング施設の管理・運営、リスクマネジメントに関する内容を含む	競技スポーツマネジメント論
	運動指導のための情報収集と活用		競技スポーツ情報戦略論

日本障がい者スポーツ協会
「障がい者スポーツ指導員」対応授業科目

初級

基準カリキュラム	時間	対応授業科目
障がい者福祉施策と障がい者スポーツ	2	障害者スポーツ論
ボランティア論	2	
障がい者スポーツの意義と理念	2	
安全管理	1	
障がいの理解とスポーツ	5	
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者制度	1	
全国障がい者スポーツ大会の概要	1	
障がいに応じたスポーツの工夫・実施（実技）	2～4	
障がい者との交流（実技）	2	
計	18～20	

中級

基準カリキュラム	時間	対応授業科目
障がい各論	11	障害者競技スポーツ論
補装具の理解	2	
文化としてのスポーツ	2	スポーツ社会学
身体の仕組み	2	スポーツバイオメカニクス
トレーニング論	3	コーチング論
発育・発達	3	体力論
救急処置法	3	スポーツ傷害論
スポーツ心理学 I	3	スポーツ心理学
スポーツと栄養	2	スポーツ栄養学
障がい者のスポーツ指導における留意点	3	障害者競技スポーツ論
全国障がい者スポーツ大会の歴史と目的と意義	2	
全国障がい者スポーツ大会選手団の編成とコーチの役割	2	
全国障がい者スポーツ大会の実施競技	2	
全国障がい者スポーツ大会の障がい区分	2	
全国障がい者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（実技）	12	注2)
最重度障がい者のスポーツの実際（実技）	2	
計	56	

注1) 初級障がい者スポーツ指導員資格を取得して、2年以上経過している者で、かつ80時間以上の活動経験を有する者。

注2) 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（実技）は、原則として水泳3時間、陸上3時間、その他3競技以上を選択し、各2時間実施すること。

「生涯スポーツ演習 7 (健康運動指導等研修 (事前事後指導を含む))」にかかわる 実習先リスト

本授業科目における実習は、山梨県内にある公的団体及び民間スポーツ施設を中心に実施する。これらの施設は、本学の経営情報学部においてこれまで実施してきたスポーツ経営学関係に関わるインターンシップの受入先である。なお、経営情報学部は、スポーツ科学部の開設と同時に学生募集を停止する。

団体・企業名	実習内容
甲府市青年会議所	健康運動事業の運営・指導にかかわる見学及び実習
笛吹市教育委員会	ユニバーサルスポーツ教室の運営・指導にかかわる見学及び実習 (障がい者と健常者のスポーツ交流会)
山梨市教育委員会	健康体力づくり事業の運営・指導にかかわる見学及び実習
山梨県老人クラブ連合会	健康運動事業の運営・指導にかかわる見学及び実習
大月市老人大学 (大月市社会福祉協議会内)	大月市老人大学 (健康づくり) の運営・指導にかかわる見学及び実習
山梨県教育委員会 (山梨県教育庁スポーツ健康課)	レクリエーション関連事業の運営・指導にかかわる見学及び実習
山梨県レクリエーション協会	レクリエーションイベントの運営・指導にかかわる見学及び実習
株式会社ランナーズウェルネス	健康運動事業の運営・指導にかかわる見学及び実習
株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ	健康運動事業の運営・指導にかかわる見学及び実習
株式会社フィッツスポーツクラブ (竜王店)	健康運動事業の運営・指導にかかわる見学及び実習
株式会社ピープル	健康運動事業の運営・指導にかかわる見学及び実習
アストれ総合型クラブ (甲斐市)	健康運動事業の運営・指導にかかわる見学及び実習
株式会社ブルーアースジャパン (甲府店)	健康運動事業の運営・指導にかかわる見学及び実習
株式会社ランナーズウェルネス	健康運動事業の運営・指導にかかわる見学及び実習
NPO法人ルーデンススポーツクラブ	健康運動事業の運営・指導にかかわる見学及び実習
アルペンフィットネススポーツクラブ (甲府店)	健康運動事業の運営・指導にかかわる見学及び実習
株式会社エルク	登山教室等の運営・指導にかかわる見学及び実習

「介護等体験実習（事前事後指導を含む）」にかかわる実習先リスト

「介護等体験実習（事前事後指導を含む）」で行う「介護等の体験」に関しては、小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律等に基づき実施する。

本学が所在する山梨県においては、山梨県（教育庁）及び山梨県社会福祉協議会と本学を含む山梨県内に所在する大学（義務教育の教員養成を行う学部や教職課程等を有する大学に限る）が同法に基づく連携協力を行い、事前に「介護等の体験」を希望する者を各大学を通じて把握し、特別支援学校2日間、社会福祉施設（その他省令で定める施設）5日間、計7日間の「介護等の体験」を実現する体制を整備し、各年度ごとに「介護等の体験」を希望する者に対して山梨県内の体験先（実習先）を割り当て、実施している。

なお、平成26（2014）年度における本学学生の「介護等の体験」の状況は、下表のとおりである。

【特別支援学校】

種別	施設名	所在地	受入人数
特別支援学校	山梨県立わかば支援学校	南アルプス市有野3346	22人

【社会福祉施設】

種別	施設名	所在地	受入人数
養護老人ホーム	聖ヨゼフ寮	甲府市元紺屋町60	2人
養護老人ホーム	和告寮	甲府市中村町4-12	3人
老人デイサービス	ファインデイサービスセンター	甲府市国母3-4-22	2人
老人デイサービス	りぼんデイサービスセンター	甲府市高畑2-8-2	1人
老人デイサービス	ほくと夢ポケットⅡデイサービス	北杜市高根町村山西割2044-1	1人
老人デイサービス	介護老人福祉施設トリアス	甲府市国玉町951-1	1人
老人デイサービス	笛吹市社会福祉協議会 八代通所介護事業所	笛吹市八代町南326-1	1人
障害者支援施設	青い鳥成人寮	甲府市下飯田二丁目10-1	1人
障害者支援施設	山梨授産園	山梨市下石森524-3	1人
障害者支援施設	くぬぎの森	甲府市下帯那町2980	1人

様式第5号（教育実習実施計画に関する書類）

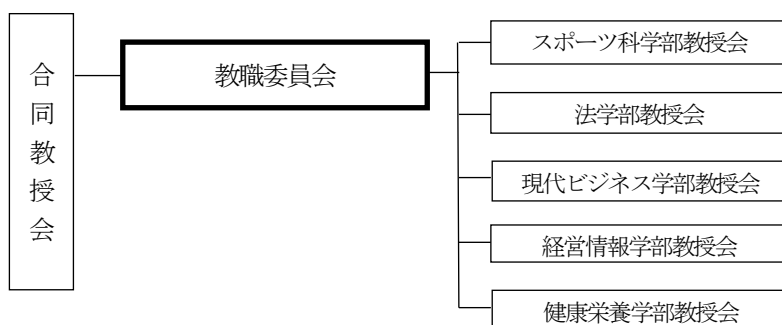
教育実習実施計画	
1	教育実習の内容及び成績評価等
①	教育実習の時期 第4年次 6月～9月（教育実習実施校の定める日程とする）
②	教育実習の実習期間・総時間数 中学校4週間（20日間：160時間）、高等学校2週間（10日間：80時間）
③	教育実習校の確保の方法 本学近隣に所在する県立高等学校、及び本学の附属中学校・高等学校との間に教育実習受入れに関する協定を締結のうえ、本学より通勤が可能な範囲で教育実習を実施することができるような組織・体制を確保している。このほか、教育効果を考慮し、学生が個別に交渉を行った母校での教育実習にも対応しうよう体制を整えている。 個別学生の実習校の決定については、教育実習実施委員会（教職委員会（教職課程の専任教員で構成する全学に亘る委員会組織）、教務部長、実習校学校長により構成）により調整している。
④	教育実習内容 授業参観15時間、授業担当3時間、うち研究授業1時間を標準とする。 この他、生徒への指導、放課後の研究指導、学級経営への参加、課外活動の指導等を含むものとする。
⑤	教育実習生に対する指導の方法 (1) 学生の指導 教職委員会（教職課程の専任教員で構成する全学に亘る委員会組織）が、実習校学校長、及び実習校指導教諭等と打合せのうえ指導する。 (2) 指導教員の巡回指導 週2回、教職委員会の委員が実習校を巡回し（日程は教職委員会が実習校と協議のうえ決定する）、研究授業には教職委員会委員（教職課程の専任教員）が参観するなどして実習校指導教諭等と連携して指導にあたる。 なお、これら教育実習実施中の所見は、教職委員会による教育実習の事後指導に活かすこととする。
⑥	教育実習の成績評価（評価の基準及び方法） 教職委員会が、実習校からの評価、及び学生の教育実習時の作成資料に基づき評価する。
2	事前及び事後の指導の内容等
①	時期及び時間数 (1) 事前指導 ① 教育実習オリエンテーション（2回：4月上旬及び6月上旬：各2時間）の実施 ② 「教育実習研修」（教職に関する科目（講義科目）：4年次前期、2単位）の履修 ③ 実習校による事前指導（教育実習実施の1週間前までに実施：2時間）の実施 (2) 事後指導 ① 教育実習報告会の実施（2時間） ② 教育実習交流会の実施（2時間） ③ レポート及び個別面談による指導（2時間）
(1)	事前指導 前述の事前指導①及び②については、教師としての心得、学習指導案の書き方、教材研究の仕方、教科外指導（生活指導・進路指導）など、多面的な学生指導を行いながら、学生に実践的学習を施すよう努める。 なお、事前指導の際には、現職の教員を学外講師として招聘し（実習校の教員を予定）、授業実践や教科外指導の仕方など具体的事例に基づきアドバイスを受ける。 (2) 事後指導 前述の事後指導①・②については、実習生が相互に共通する体験を客観化して、教育実習での体験をより深めることを主眼として実施する。なお、事後指導の際には、現職教員を学外講師として招聘し（実習校の教員を予定）、懇談による立体的な学習を目指す。 ③については、「教育実習から学んだこと」というレポートを課し、教職委員会の委員で分担のうえ学生の個別指導を行う。

3 教育実習に関して連絡調整等を行う委員会・協議会等（以下「委員会等」という。）

① 大学内の各学部・学科等との連絡調整を行う委員会等

- ・ 委員会等の名称
山梨学院大学教職委員会
- ・ 委員会等の構成員（役職・人数など）
山梨学院大学教職委員会規程に基づき、学長が任命した者
- ・ 委員会等の運営方法
必要に応じて、教職委員会委員長の招集により、開催する。

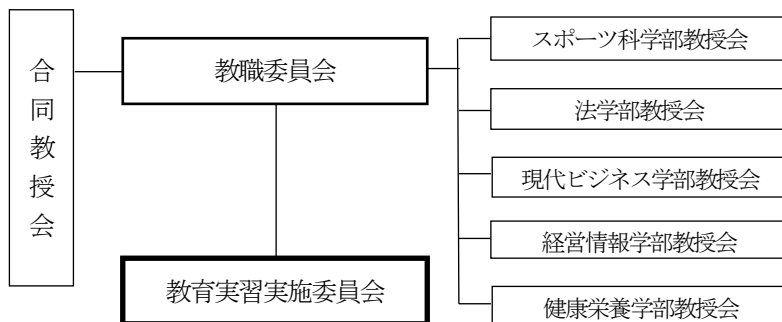
【委員会の組織図】



② 大学外の関係機関との連絡調整等を行う委員会等

- ・ 委員会等の名称
山梨学院大学教育実習実施委員会
- ・ 委員会等の構成員（役職・人数など）
教職委員会、教職課程を開設する学部学科の教職課程科目の担当教員、教務部長、実習校学校長、実習校指導教諭等
- ・ 委員会等の運営方法
教職委員会が、実習校学校長及び指導教諭等との打ち合わせのうえ、学生指導等の運営を行う。週2回、教職委員会の委員が実習校を巡回し（日程は教職委員会が実習校と協議のうえ決定する）、研究授業には教職委員会委員（教職課程の専任教員）が参観するなどして実習校指導教諭等と連携して指導にあたる。

【委員会の組織図】



4 教育実習の受講資格			
1. 以下に掲げる計4科目8単位の教職に関する科目を単位修得済であること。			
・ 教職概論	2単位	(2年次前期開講・必修科目)	
・ 教育課程論	2単位	(2年次後期開講・必修科目)	
・ 子どもの発達と社会Ⅰ	2単位	(2年次前期開講・必修科目)	
・ 子どもの発達と社会Ⅱ	2単位	(2年次後期開講・必修科目)	
2. 以下に掲げる事前指導に係る教職に関する科目を履修するとともに、前述「1」の科目に係る単位を含め、教職に関する科目から計18単位以上を修得していること。			
・ 教育実習研修	2単位	(4年次前期開講・必修科目)	
5 実習校			
学校名	山梨県立甲府第一高等学校 (山梨県甲府市美咲二丁目13-44)	学級数: 21	生徒数: 818人
教員数	55人 (内訳) 校長1人、教頭2人、教諭49人、養護教諭1人、実習助手2人		
学校名	山梨県立甲府東高等学校 (山梨県甲府市酒折一丁目17-1)	学級数: 20	生徒数: 798人
教員数	52人 (内訳) 校長1人、教頭2人、教諭46人、養護教諭1人、実習助手2人		
学校名	山梨県立甲府城西高等学校 (山梨県甲府市飯田一丁目9-1)	学級数: 24	生徒数: 820人
教員数	71人 (内訳) 校長1人、教頭2人、教諭62人、養護教諭1人、実習助手5人		
学校名	山梨県立甲府工業高等学校 (山梨県甲府市塩部二丁目7-1)	学級数: 21	生徒数: 789人
教員数	72人 (内訳) 校長1人、教頭2人、教諭53人、助教諭1人、養護教諭1人、講師2人、実習助手12人		
学校名	甲府市立甲府商業高等学校 (山梨県甲府市上今井町300)	学級数: 24	生徒数: 835人
教員数	64人 (内訳) 校長1人、教頭2人、教諭53人、養護教諭1人、実習助手7人		
学校名	山梨県立塩山高等学校 (山梨県塩山市三日市場440-1)	学級数: 21	生徒数: 605人
教員数	60人 (内訳) 校長1人、教頭2人、教諭53人、養護教諭1人、実習助手3人		
学校名	山梨学院大学附属高等学校 (山梨県甲府市酒折三丁目3-1)	学級数: 28	生徒数: 1,120人
教員数	65人 (内訳) 校長1人、総括顧問1人、副校長2人、教頭5人、教育研究員1人、教諭53人、養護教諭1人、実習助手1人		
学校名	山梨学院大学附属中学校 (山梨県甲府市酒折三丁目3-1)	学級数: 9	生徒数: 301人
教員数	25人 (内訳) 校長1人、副校長1人、教頭1人、教諭19人、養護教諭1人、講師2人		
教育委員会名	山梨県教育委員会 (栄教一種免のみ)	小学校: 181校	中学校: 81校